

近菟集品目録

株式会社 古美術 瀬戸

目次

* 目録番号 / 作家名 / 作品名 / 頁数を記載しております。

1	長沢芦雪	巖上孤猿図	3
2	長沢芦雪	雲中潜龍図	4
3	与謝蕪村	雪景山水図	5
4	伊藤若冲	鶏蟲斯図	6
5	円山応挙	雨中柳鷺図	7
6	円山応挙	松下寿星図	7
7	長沢芦雪	竹下鶴亀図	8
8	松村景文	遠松太閤石猿図	8
9	与謝蕪村	山客掃帚図	9
10	与謝蕪村	山鳥句賛	10
11	長沢芦雪	童子鳥刺図	11
12	無学宗衍賛	円山応挙画 伏羲画賛	11
13	長沢芦雪	三鶴之図	12
14	松村景文	柳鶯図	12
15	岡本豊彦	三猿遊戯図	13
16	大原吞舟	女神楽図	13
17	皆川淇園賛	中村芳中画 尉姥画賛	14
18	蠣崎波響	杜鵑叫月図	14
19	英一蝶	竹林白虎図	15
20	英一蝶	月下白梅竹ニ薔薇 双幅	15
21	英一蝶	寿老松梅鶴三幅対	16
22	英一蝶	高嵩谷 右桜 中鰯口燕 左紅葉 三幅対	16
23	浦上玉堂	夏山過雨	17
24	円山応挙	春景山水図	18
25	狩野勝川院	旭日雪松鷹図 極大幅	18
26	与謝蕪村	虫壳画賛	19
27	田能村竹田	桜花図	19
28	谷文晁	山水 双幅	20
29	英一蝶	猩々盃図	20
30	狩野安信	前猫後兔 双幅	21
31	狩野周信	柳燕図	21
32	狩野周信	雀蜻蛉図	21
33	岡本秋暉	夏溪翡翠	22
34	長沢芦雪	昇鯉図	22
35	山本梅逸	秋草花虫図	23
36	山本梅逸	薔薇小蟲図 小品	23
37	中林竹洞	雲烟富嶽図	23
38	谷文晁	楼閣山水図	24
39	谷文晁	懸泉訪美人図	24
40	熊代熊斐	登龍門図	25
41	谷文晁	芦雁図	25
42	片山楊谷	諸葛孔明像	26
43	佐竹永海	須磨眺景真景図	26
44	金子金陵	梅芙蓉喜雀図	27
45	広渡巖斐	松に母子鶴図	27
46	黄嬖来鳳	雪中墨竹図	28
47	沖一峨	春木南溟画 菊池五山賛 雪中水仙小禽合作	28
48	佐久間象山	浅絳山水図 極大幅	29
49	貫名菘翁	徐文鳳漁艇図	30
50	根本幽峨	大黑白鼠初夢図 大幅	31
51	野崎真一	紅白梅花図 大幅	31
52	浮田一蕙	朝妻舟	32
53	塩川文鱗	祇園祭神輿洗図	32
54	岸連山	月下嘯虎図	33
55	岸竹堂	薔薇孔雀図	33
56	塩川文鱗	線香烟火図	34
57	中島来章	萌春図	34
58	幸野楳嶺	左)堂上白頭図 中)富貴佳賓図 右)玉冠金衣図 三幅対	35
59	西山芳園	雪中老松千鳥図	36
60	日根対山	蓮池孤鷺図	36
61	鉄翁祖門	青緑山水図	36
62	浅井柳塘	竹溪僊館図 大幅	36
63	河鍋曉斎	袈裟御前之図	37
64	河鍋曉斎	達磨修壁之図	37
65	狩野素川	風神雷神図 双幅	38
66	張月樵	陽耀舞鶴図	38
67	岸連山	龍虎図	38
68	柴田是真	御供鼠	38
69	奥原晴湖	百福図 大幅	39
70	田能村直入	西王母図	39
71	今尾景年	福祿寿図 大幅	40
72	山内多門(都洲)	二喬読兵書之図	41
73	下村観山	瀑布	42
74	下村観山	月夜海辺	43
75	西郷孤月	水墨山水図	44
76	下村観山	恵比須神像	44
77	山田敬中	雲二題 曙雲図 暮雲図 双幅	45
78	竹内栖鳳	雪中乱鴉図	46
79	富田溪仙	園中春雪図	47
80	西村五雲	霰日	47
81	平井楳仙	驟雨	47
82	都路華香	雪寒	48
83	西山翠嶂	玄兔図	48
84	池田遙邨	瀬戸内	49
85	木島桜谷	雪中遊鹿	49
86	木島桜谷	龍頭観音図	50
87	木島桜谷	雪暎	50
88	山元春拳	遊猿之図	51
89	山元春拳	寒汀瑞鳥図	51

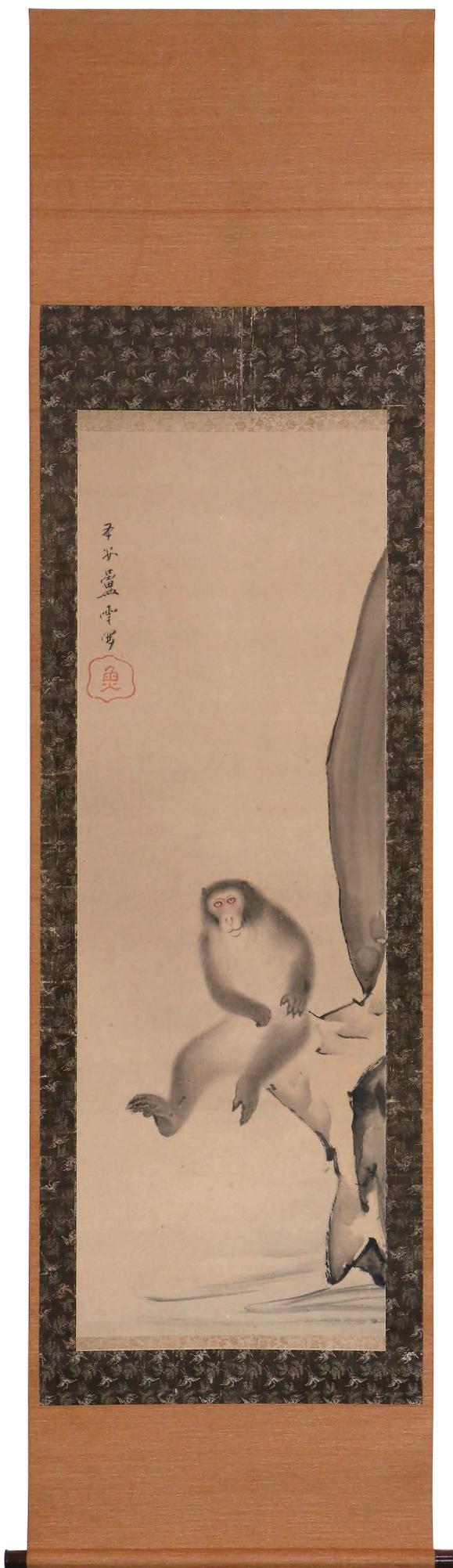
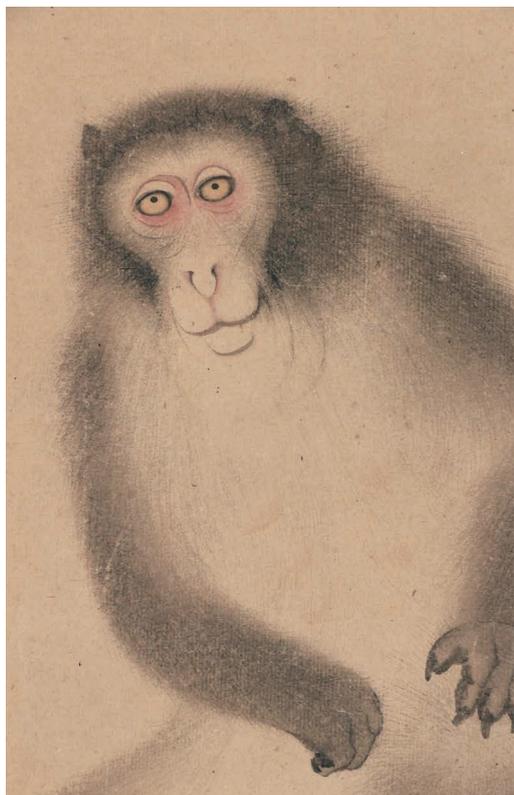
121	案本一洋	美人骨牌図	69
120	池上秀畝	如雪	68
119	上島鳳山	天狗面尽	68
118	鬼頭道周	悲母観音	68
117	池上秀畝	月下群雁図	68
116	竹内栖鳳	紅梅図	67
115	川合玉堂	白兔色紙	67
114	小野竹喬	松間の空額装	66
113	棟方志功	光陰高梁川図	65
112	尾竹国観	杜若	64
111	尾竹竹坡	男卜女	64
110	泰テルヲ	哥磨之意模酒女授戒之図	63
109	堂本印象	子女	63
108	伊藤小坡	慈愛之図	62
107	橋本関雪	春寒賜浴図大幅	61
106	栗原玉葉	加賀千代女図	60
105	甲斐庄楠音	美人図小色紙貼交屏風六曲半双中屏風	59
104	池田輝方	待乳山	58
103	池田蕉園	桜下美人	58
102	濱谷白雨	閑雲帰旅双幅	57
101	小早川秋声	登龍	56
100	小早川秋声	仙境之図	56
99	小茂田青樹	飛鴨扇面	55
98	酒井三良	春雨(原題「鴨」)大幅	55
97	松林桂月	淡月桜花図大幅	54
96	入江波光	待春図	53
95	土田麦僊	鶴	53
94	竹内栖鳳	秋晴	53
93	木村武山	春暖	52
92	徳岡神泉	緋鯉	52
91	山元春挙	裾野之図	51
90	森一鳳	鯉図	51

153	大田垣蓮月	富岡鉄斎画 月画賛	86
152	大田垣蓮月	紅葉時雨画賛	85
151	松平不昧	瓢和歌	85
150	高橋泥舟	東照宮遺訓	84
149	山岡鉄舟	猫画賛	84
148	勝海舟	五絶二行	83
147	勝海舟	二行書	83
146	勝海舟	もろひとの和歌	82
145	鍋島閑叟	梅花詩七絶四行	82
144	松平容保	和歌短冊	81
143	徳川慶喜	五絶三行	81
142	島津斉彬	江上春曙和歌色紙	80
141	徳川家宣	和歌色紙	80
140	井伊直弼	詩経	79
139	徳川綱吉	練鵲図	79
138	宙宝宗宇	響置字	78
137	澤木興道	世尊名号	78
136	山本空外	唯識無境扁額	77
135	清水公照	修中絵日記お水取り	77
134	大谷句仏	冬構句	77
133	九条武子	和歌懐紙	76
132	宣如上人	十一日付靈瑞院宛自筆消息	76
131	仙厓義梵	大黒天額装	75
130	遂翁元廬	観音	75
129	慈雲尊者	福聚置字道歌	74
128	慈雲尊者	雲門云日是好日	74
127	慈雲尊者	富哉二字	73
126	慈雲尊者	人となるみち一行	72
125	向井去来	寒菊和歌短冊	71
124	河合曾良賛	河合曾良肖像	71
123	松尾芭蕉	竹画賛	70
122	木田安彦	菊の舞妓ガラス絵小品	69

184	作家略歴		108
183	横山大観	耀く日本	107
182	土田麦僊	雨後図	106
181	鑄木清方	摘草	105
180	山元春挙	白狐図大幅	104
179	頼山陽	詩画双幅	103
178	板垣退助	松樹山水図	103
177	松尾芭蕉	菊画賛	102
176	菊池容斎	船上山行幸之図双幅	101
175	塩川文麟	中島来章・長谷川玉峰 嵐峡三幅対	101
174	金子金陵	猿猴戯蜂図	100
173	勝野范古	高士観瀑図 松下弹琴図 双幅	100
172	小山富士夫	絵唐津盃	99
171	江戸切子	四ツ組チヨク	99
170	時代蒔絵	小宮	99
169	今村繁子	お竹大日如来	98
168	河井寛次郎	碗泥描	98
167	平柳田中	福聚大黒天尊像	97
166	渡部解古	松下孔雀図屏風四曲半双	96
165	望月玉溪	淀川曳船之図屏風二曲一双	95
164	小村大雲	猛虎図屏風二曲一双	94
163	江戸中期	巖島春秋参詣図屏風六曲一双	91
162	松村景文	吉野龍田図屏風六曲一双中屏風	90
161	白井晟一	喝	89
160	会津八一	自作和歌	89
159	仙厓義梵	天王寺画賛	88
158	与謝野晶子	鎌倉や名歌	88
157	犬養木堂	二行書全紙大幅	87
156	松永耳庵	古佛梅語	87
155	与謝蕪村	蛙画賛	86
154	大田垣蓮月	茄子画賛	86

1 長 沢 芦 雪 巖上孤猿図

紙本水墨淡彩 箱入 本紙巾41.5×豎123 総丈巾54.5×豎211cm



(三百八十万円
38000000JPY)

2 長 沢 芦 雪 雲中潜龍図

絹本水墨 箱入 本紙巾40×縦95.5 総丈巾52×縦181.5cm 本紙微少シミ
 『大阪市岡村家當市某家御所藏品入札』目録(大正十二年四月)並『古画総覧』所載

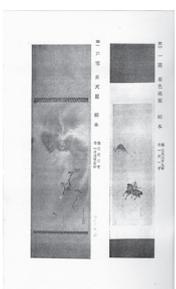
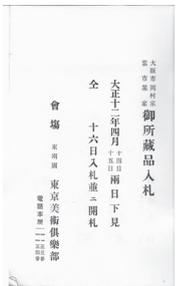
(二百五十万円
 2,500,000JPY)



長沢芦雪
 一一三頁参照



『大阪市岡村家當市某家御所藏品入札』目録

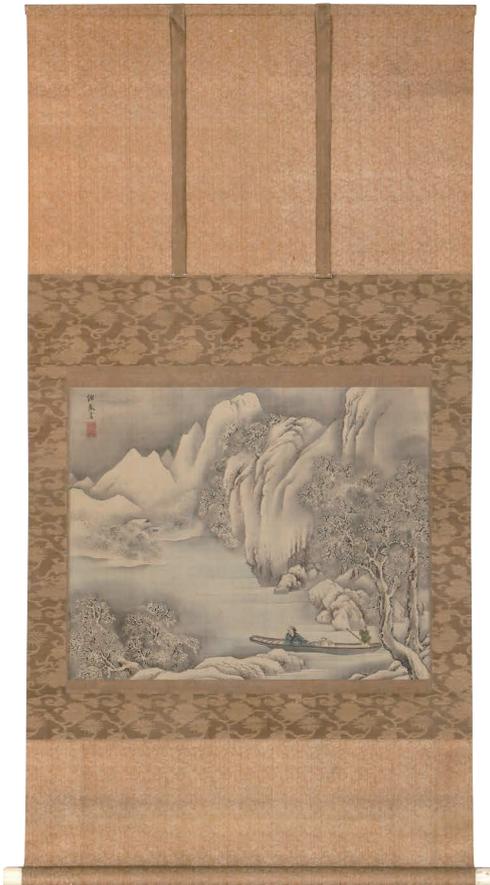




3 与謝 蕪村 雪景山水図

絹本着色 箱入 本紙巾65×縦53 総丈巾79.5×縦158.5cm 本紙少シミ
 『越後阿部家 府下某舊家御藏品入札』目録(大正七年十月)所載並添付
 『鎌倉某家・當市西田家御所藏品入札』目録(大正十五年四月)並
 『蕪村全集』所載

千二百万円
 (12,000,000JPY)



与謝蕪村
 一一五頁参照



4 伊藤若冲 鶏蝨斯図

紙本水墨 箱入 本紙巾28.5×縦99 総丈巾40.5×縦182.5cm 表具少ヤケ 本紙少シミ・修復痕

(三
百
万
円
3,000,000JPY)



伊藤若冲
一〇八頁参照

5 円山応挙 雨中柳鷺図

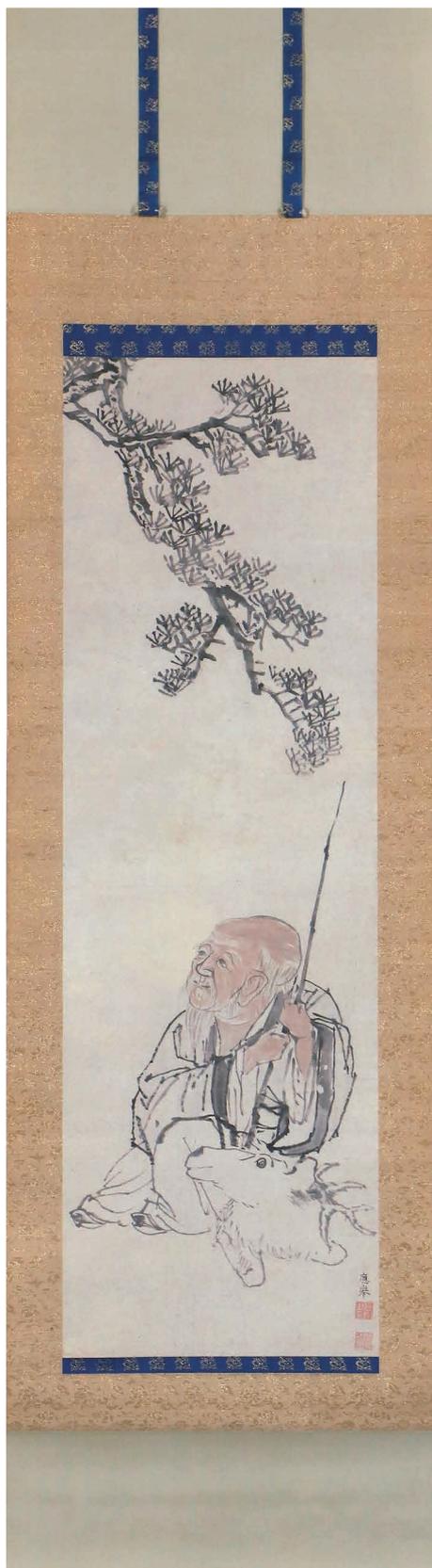
紙本水墨 箱入 本紙巾27×縦106 総丈巾29×縦186.5cm 表具微少シミ 本紙微少オレ・修復痕



八十五万円
(850,000 JPY)

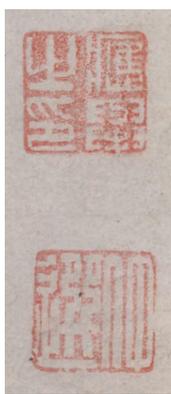
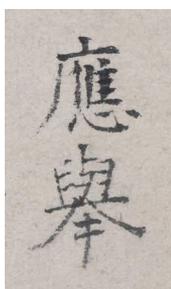
6 円山応挙 松下寿星図

紙本着色 箱入 本紙巾34×縦110 総丈巾47×縦191cm 微少傷ミ・修復痕 円山応挙折紙極



六十五万円
(650,000 JPY)

円山応挙
一一四頁参照
円山応挙
一一四頁参照



円山応挙折紙極



7 長 沢 芦 雪 竹下鶴亀図

絹本水墨 箱入 本紙巾34×縦90.5 総丈巾43.5×縦177 cm 表具微少傷ミ 本紙修復痕



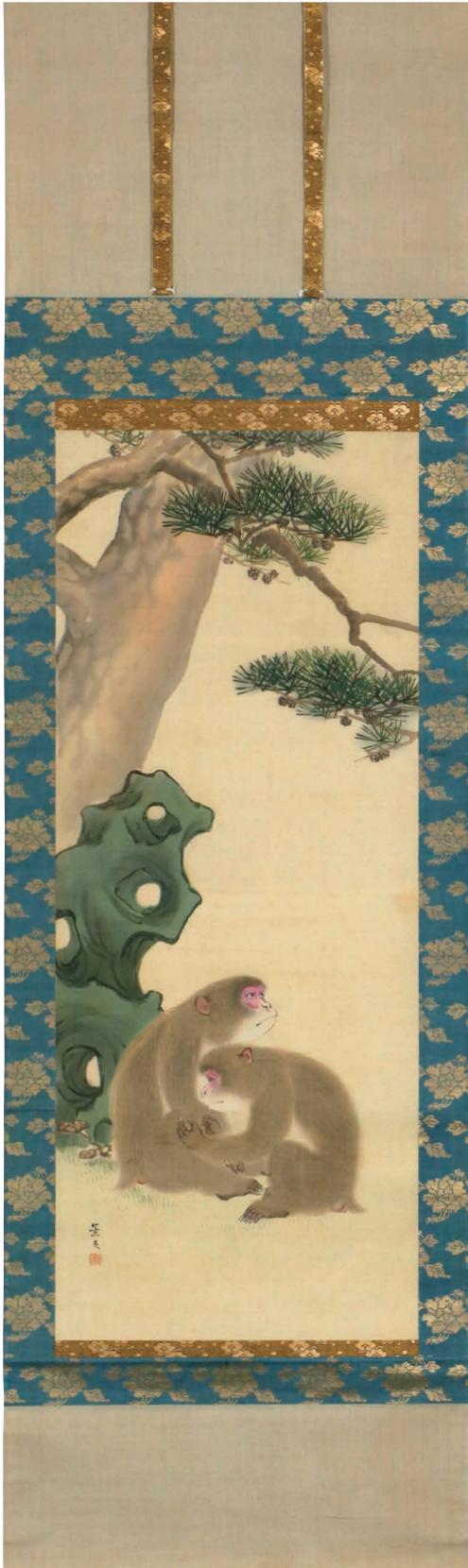
六十五万円
(650,000JPY)

長沢芦雪
一一三頁参照



8 松 村 景 文 遠松太閤石猿図

絹本着色 横山清暉箱書 本紙巾42×縦105.5 総丈巾54×縦188.5 cm 本紙微少シミ



二十五万円
(250,000JPY)

松村景文
一一四頁参照
横山清暉
一一五頁参照



9 与 謝 蕪 村 山 客 掃 帚 圖

紙本着色 箱入 本紙巾30×豎127.5 総丈巾36×豎188 cm 安永三年（一七七四）五八歳 大雅堂定亮極並題簽

百二十万 円
(1,200,000 JPY)



安永甲申夏寫於夜半亭
謝春星

謝蕪村画山客掃帚圖
後葉國筆情遠韻而
予力洵海翁之未領一
見可知年
明正四十年丁未科
秋中元節藏于法
陽陽東靈麓山居
南窓直
大雅堂定亮

大雅堂定亮極
鑒定
姓名具於

大雅堂定亮
一一二頁参照

題簽
謝蕪村画山客掃帚圖
大雅堂定亮

10 与謝蕪村 山鳥句賛

紙本水墨 箱入 本紙巾26.5×縦84 総丈巾38.5×縦185 cm



(九十五万円
950,000 JPY)

与謝蕪村
一一五頁参照



山鳥の尾の
あきれたり
朝の月



11 長 沢 芦 雪 童子鳥刺図

紙本水墨淡彩 国井応陽箱書 本紙巾49.5×縦113 総丈巾64.5×縦201.5cm 本紙少シミ・修復痕



三十八万円
(380,000JPY)

国井応陽
一一〇頁参照

芦雪寫



12 無学宗衍賛 円山応挙画 伏羲面賛

絹本着色 箱入 本紙巾34.5×縦104 総丈巾47×縦185cm 安永八年(一七七九) 宗衍五九歳 応挙四七歳 少オレ 本紙微少シミ



五十五万円
(550,000JPY)

無学宗衍 一五頁参照
円山応挙 一四頁参照

應舉



聖徳深淵孰不仰止
始画八卦人文遂起
仰觀天文俯察地理
維是太皞実三皇始

紫野 把不住芒人之意當

13 長沢 芦雪 三鶴之図

絹本着色 川端玉章箱書 本紙巾50.5×縦112 総丈巾66×縦208 cm 本紙微少オレ
 『茂木家舊藏品入札目録』(大正十年十二月)並『古画総覧』所載「春松軒」蔵印有



茂木家舊藏品入札目録
 大正十年十一月十八日 下見
 同 十九日 入札三回札
 場所 東京美術倶楽部
 頁数 二二頁

『茂木家舊藏品入札目録』

長沢 芦雪
 一・二・三頁参照
 川端玉章
 一・一〇頁参照

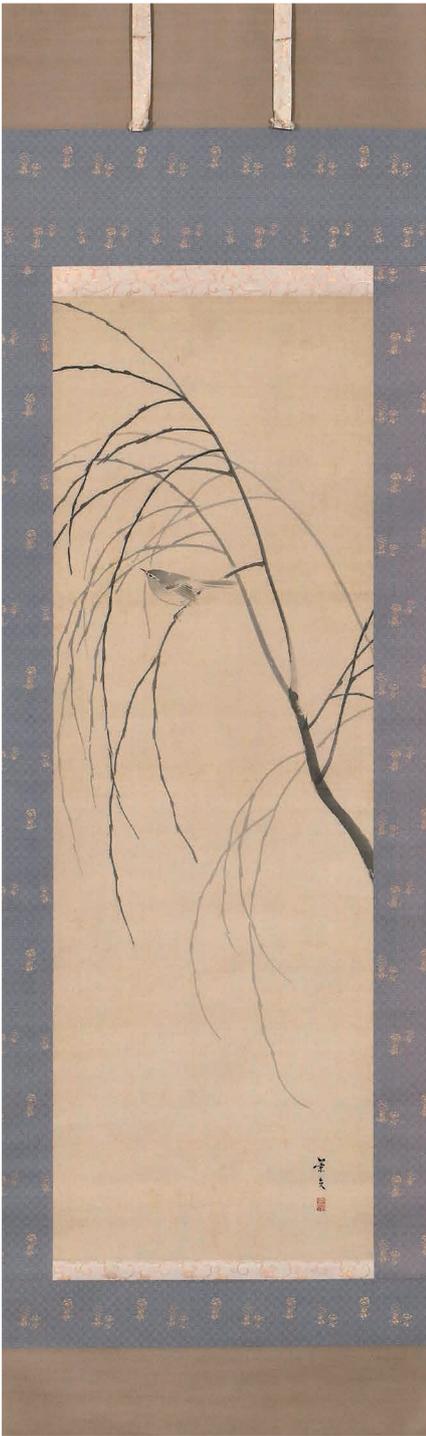
「春松軒」蔵印



八十五万円
 (850,000 JPY)

14 松村 景文 柳鶯図

絹本着色 箱入 本紙巾35×縦106 総丈巾47×縦198.5 cm 本紙微少シミ・微少オレ
 『當市外村定次郎氏所藏品入札』目録(昭和四年十月)並
 『目録(上京某家及中京某家御所蔵之書画屏風茶器道具類)』(京都美術倶楽部)並『古画総覧』所載



『當市外村定次郎氏所藏品入札』目録
 昭和四年十月
 『目録(上京某家及中京某家御所蔵之書画屏風茶器道具類)』(京都美術倶楽部)
 『古画総覧』

『當市外村定次郎氏所藏品入札』目録



二十五万円
 (250,000 JPY)



15 岡本豊彦 三猿遊戯図

絹本着色 箱入 本紙巾50.5×縦110 総丈巾65×縦194cm 本紙少シミ



二十五万円
(250,000JPY)



岡本豊彦
一〇九頁参照

16 大原吞舟 女神楽図

絹本着色 箱入 本紙巾33×縦95.5 総丈巾45.5×縦184.5cm 少シミ・微少オレ



十二万円
(120,000JPY)



大原吞舟
一〇九頁参照



墨江樹色箋高砂躋海相
雪帶翠霞誰識老精為仇
儷千秋萬歲樂婆娑
皆川園贊

芳中昌

芳中昌

皆川園贊



墨江樹色箋高砂躋海相
雪帶翠霞誰識老精為仇
儷千秋萬歲樂婆娑

17 皆川園贊 尉姥画贊
中村芳中画

絹本着色金泥 箱入
本紙 巾63×豎42.5 総丈 巾68.5×豎132.5cm
美品

八十五万円
(850,000JPY)

皆川園 中村芳中
114頁参照 113頁参照



18 蠣崎波響 杜鵑叫月図

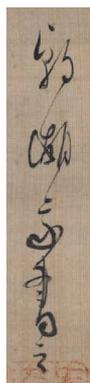
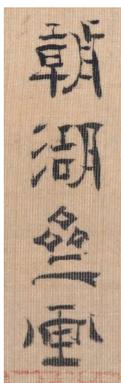
紙本着色 箱入
本紙 巾57×豎25 総丈 巾71×豎117cm
微少オレ 表具微少傷ミ

三十八万円
(380,000JPY)



江響

蠣崎波響
109頁参照



五十五万円
(550,000JPY)

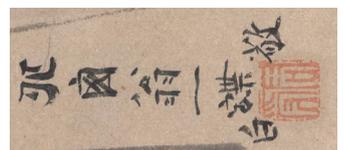
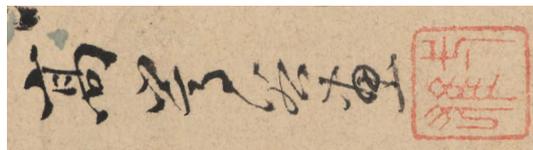
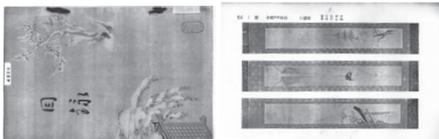
英一 蝶
月下白梅竹ニ薔薇 双幅
絹本着色 箱入 本紙各巾38.5×豎105
総丈各巾49.5×豎187.5cm
微少シミ・微少オレ

19 英一 蝶
竹林白虎図

絹本着色 箱入 本紙巾47.5×豎107.5
総丈巾59.5×豎184cm
少オレ 表具微少傷ミ
本紙修復痕
五十五万円
(550,000JPY)



【目録（江戸時代某家舊蔵の書畫茶器類）】



22

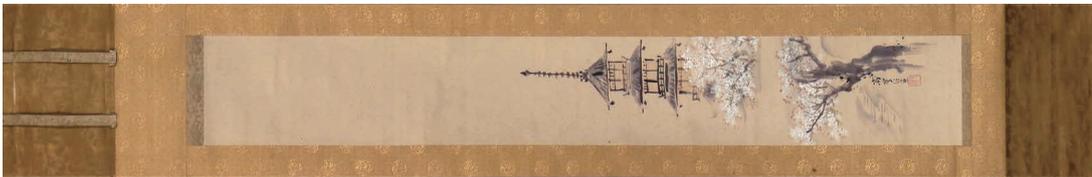
英一蝶 高嵩谷 右)桜 中)鰐口燕 左)紅葉 三幅対

紙本着色 箱入 本紙 各巾16×豎111.5 総丈 各巾26.5×豎177cm
表具少オレ 本紙微少オレ * 中)英一蝶・左右)高嵩谷

『目録（江戸時代某家舊蔵の書畫茶器類）』（大正八年一月）所載

三十八万円
(380,000JPY)

英一蝶 高嵩谷
113頁参照 111頁参照



21

英一蝶 寿老松梅鶴 三幅対

紙本着色 箱入 本紙 各巾27.5×豎92 総丈 各巾40×豎179cm
本紙少シミ・少オレ・少傷ミ 大倉汲水折紙極

五十五万円
(550,000JPY)

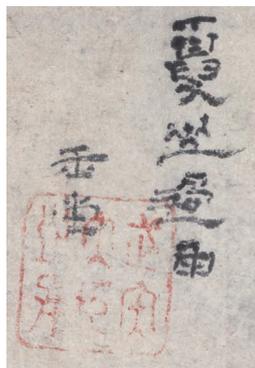
大倉汲水
108頁参照



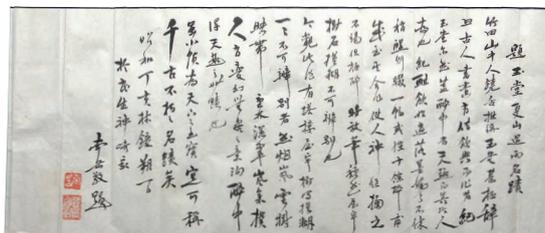
23 浦上玉堂 夏山過雨

紙本水墨淡彩 箱入 本紙巾25.5×豎31.5
 総丈巾38.5×豎136.5cm 西村南岳極 田中柏陰題簽

三百八十万円
 (3,800,000JPY)



西村南岳極



田中柏陰題簽

浦上玉堂 一〇八頁参照
 西村南岳 一二三頁参照
 田中柏陰 一二二頁参照





24 円山応挙 春景山水図

絹本水墨淡彩 川端茂章箱書
 本紙 巾57×縦40 総丈 巾72.5×縦139.5cm
 安永8年(1779)47歳 本紙微少オレ

円山応挙 川端茂章
 114頁参照 110頁参照

九十五万円
 (950,000JPY)



25 狩野勝川院 旭日雪松鷹図 極大幅

絹本着色金泥 箱入
 本紙 巾89.5×縦55 総丈 巾105.5×縦158cm
 表具少オレ・少傷ミ・微少虫穴・少ウキ

二十五万円
 (250,000JPY)



狩野勝川院
 109頁参照

26 与謝蕪村 虫壳面賛

紙本水墨淡彩 沖秀箱書
本紙巾19×縦26 総丈巾31.5×縦114cm
少シミ

虫壳や
河内
かよひの
小てうちむ



三十八万円
(380,000JPY)

与謝蕪村
一一五頁参照



「竹田市立歴史資料館展観」出陳票
昭和二十二年三月展観
田能村竹田先生筆桜花一枝図
田能村竹田先生筆桜花一枝図
昭和二十二年三月展観
田能村竹田先生筆桜花一枝図
昭和二十二年三月展観
田能村竹田先生筆桜花一枝図
昭和二十二年三月展観
田能村竹田先生筆桜花一枝図
昭和二十二年三月展観
田能村竹田先生筆桜花一枝図
昭和二十二年三月展観



「画聖田能村竹田先生
百四十二年祭遺墨展観」出陳票
田能村竹田先生百四十二年祭遺墨展観
一、竹田 先生筆 桜花図
師友門人 主催 竹田 田会



ちる花を見し夜の
ゆめはなほさめす
枕の山にかゝる
白雲

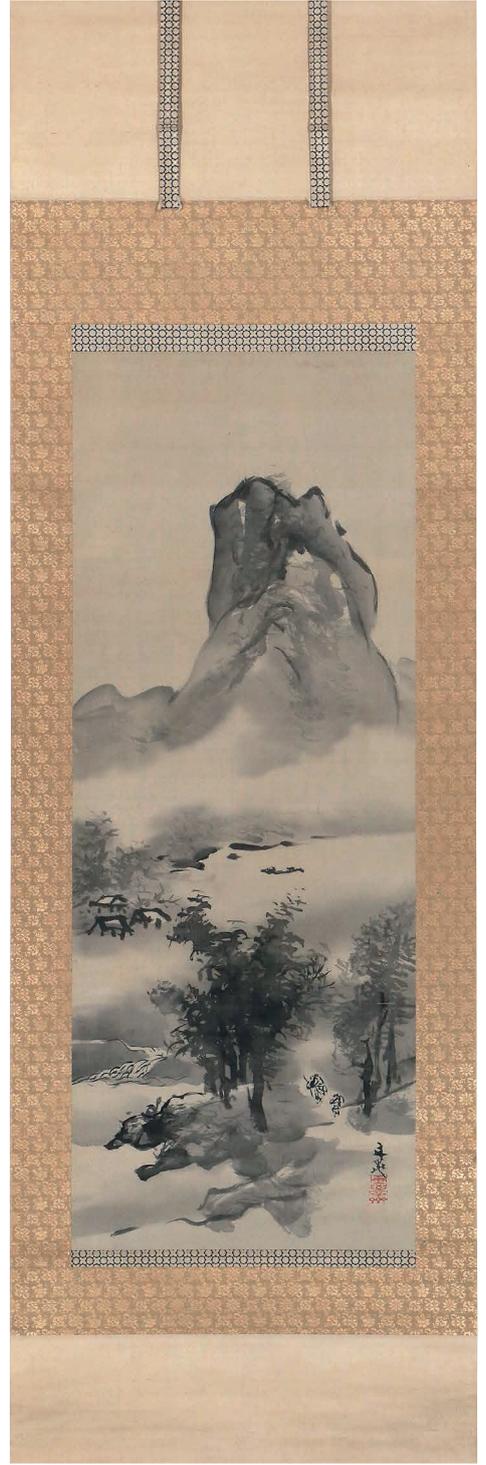
27 田能村竹田 桜花図

紙本水墨 田能村直外箱書
本紙巾44×縦29 総丈巾52.5×縦113cm
表具少シミ・微少虫穴 本紙少オレ

『大分県先哲叢書 田能村竹田 資料集 絵画篇』所載
「田能村竹田先生百四十年祭遺墨展観会」並
「画聖田能村竹田先生百四十二年祭遺墨展観」並「竹田市立歴史資料館展観」出陳

田能村竹田 田能村直外
112頁参照 112頁参照

五十五万円
(550,000JPY)



29 英一蝶 猩々盆凶

紙本着色 箱入 本紙巾26×縦108.5
総丈巾28×縦181cm 少オレ・少傷ミ

十八万
(180,000 JPY)

28 谷文晁 山水双幅

絹本水墨 箱入 本紙各巾42×縦110
総丈各巾57×縦204cm 本紙微少シミ

三十八万
(380,000 JPY)

谷文晁
一一二頁参照





32 狩野周信 雀蜻蛉図
紙本水墨 箱入 本紙巾22.5×縦103 総丈巾24.5×縦174cm 少シミ 本紙少オレ・修復痕

(120,000 JPY) 十二万 円



狩野周信
一一〇頁参照



31 狩野周信 柳燕図
紙本着色 古筆了固箱書 本紙巾14×縦118 総丈巾24.5×縦194cm 微少オレ・少傷ミ 本紙修復痕

(120,000 JPY) 十二万 円



30 狩野安信 前猫後兔 双幅
紙本水墨 箱入 本紙各巾28×縦95.5 総丈各巾37×縦179cm 本紙シミ・修復痕

(180,000 JPY) 十八万 円

狩野安信
一一〇頁参照



33 岡本秋暉 夏溪翡翠

絹本着色 西村南岳箱書並題簽 本紙巾33×豎119 総丈巾45.5×豎193 cm



三十八万円
(380,000JPY)

岡本秋暉
一〇九頁参照 西村南岳
一一三頁参照



34 長沢芦雪 昇鯉図

紙本水墨 箱入 本紙巾26.5×豎131 総丈巾40.5×豎197 cm 『四日市小倉家並某家所蔵品入札』目録(昭和九年十二月)並『古画総覧』所載



三十八万円
(380,000JPY)



長沢芦雪
一一三頁参照

『四日市小倉家並某家所蔵品入札』目録





35 山本梅逸 秋草花虫図

絹本着色 小島老鉄並毛利梅友箱書 二重箱入
 本紙 巾55.5×縦39.5 総丈巾70×縦142cm
 天保11年(1840)58歳 本紙少シミ 内箱傷ミ

三十八万円
 (380,000JPY)

山本梅逸
 一一五頁参照
 小島老鉄
 一一二頁参照
 毛利梅友
 一一五頁参照



36 山本梅逸 薔薇小蟲図 小品

絹本着色 箱入 本紙巾18×縦24 総丈巾30×縦142.5cm
 本紙微少オレ

二十五万円
 (2,500,000JPY)

中林竹洞
 一一三頁参照



37 中林竹洞 雲烟富嶽図

絹本水墨 箱入 本紙巾55×縦43 総丈巾67.5×縦132cm
 佳品

二十五万円
 (2,500,000JPY)



38 谷 文 晁 楼閣山水図

絹本着色 佐竹永陵箱書 本紙巾54×縦120.5 総丈巾72×縦216 cm 文化一四年(二八一七)五六歳 少シミ・微少オレ



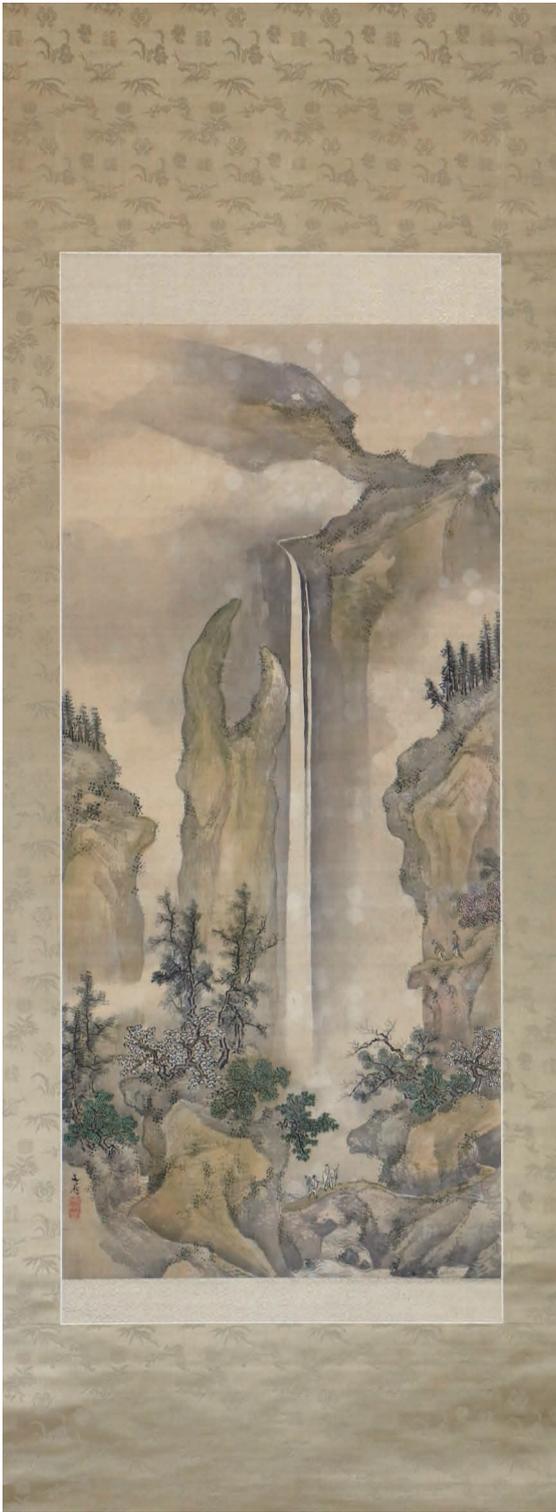
佐竹永陵
一一二頁参照



三十五万円
(350,000 JPY)

39 谷 文 晁 懸泉訪美人図

絹本着色 箱入 本紙巾52×縦113.5 総丈巾68.5×縦205 cm 文政一二年(二八二八)六七歳 本紙ウキ・少オレ・微少シミ・修復痕



佳品

五十五万円
(550,000 JPY)

谷文晁
一一二頁参照



40 熊代熊斐 登龍門図

絹本着色金泥 箱入 本紙巾51×縦125 総丈巾62×縦184cm オレ・少傷ミ 佳品



熊代熊斐
一一一頁参照

五十五万円
(550,000 JPY)



41 谷文晁 芦雁図

絹本水墨 箱入 本紙巾36×縦108 総丈巾50×縦205.5cm 天保七年(一八三六) 七五歳 時代極上表具



谷文晁
一一二頁参照

十二万円
(120,000 JPY)



42 片山楊谷 諸葛孔明像

絹本着色金泥 箱入
本紙巾51×縦92 総丈巾65.5×縦180cm
本紙微少シミ

五十五万円
(550,000JPY)



瓊浦洞楊谷觀世鷲寫



片山楊谷
一〇九頁参照



43 佐竹永海 須磨曉景真景図

絹本着色金泥 箱入 本紙巾56×縦36 総丈巾58×縦134cm
文久3年(1863) 61歳 本紙少シミ

十二万円
(120,000JPY)

佐竹永海
111頁参照

須磨曉景
癸亥年日試筆
佐竹永海



44 金子金陵 梅芙蓉喜雀図

絹本着色 箱入 本紙巾26.5×縦81 総丈巾43×縦191cm 寛政六年（二七九四） 微少オレ 本紙少ヤケ



甲寅冬
金陵平色主

三十五万円
(350,000JPY)

45 広渡巖斐 松に母子鶴図

紙本着色 箱入 本紙巾46×縦120.5 総丈巾51.5×縦187.5cm 本紙微少シミ・少オレ
『かわいい江戸絵画』展（府中市美術館二〇一三年）出陳並同図録添附



巖斐

広渡巖斐
一一四頁参照



二十五万円
(250,000JPY)



金子金陵
一〇九頁参照

46 黄 檗 来 鳳 雪中墨竹図

絹本水墨 箱入 本紙巾34.5×縦102.5 総丈巾47.5×縦189cm 表具少傷ミ 本紙虫穴・修復痕



(180,000 JPY) 十八万八千円

黄檗来鳳
一〇八頁参照



47 冲一峨・春木南溟画 雪中水仙小禽合作

菊池五山賛 絹本着色 箱入 本紙巾29.5×縦76.5 総丈巾40.5×縦155.5cm 本紙少シミ・少ウキ



(180,000 JPY) 十八万八千円

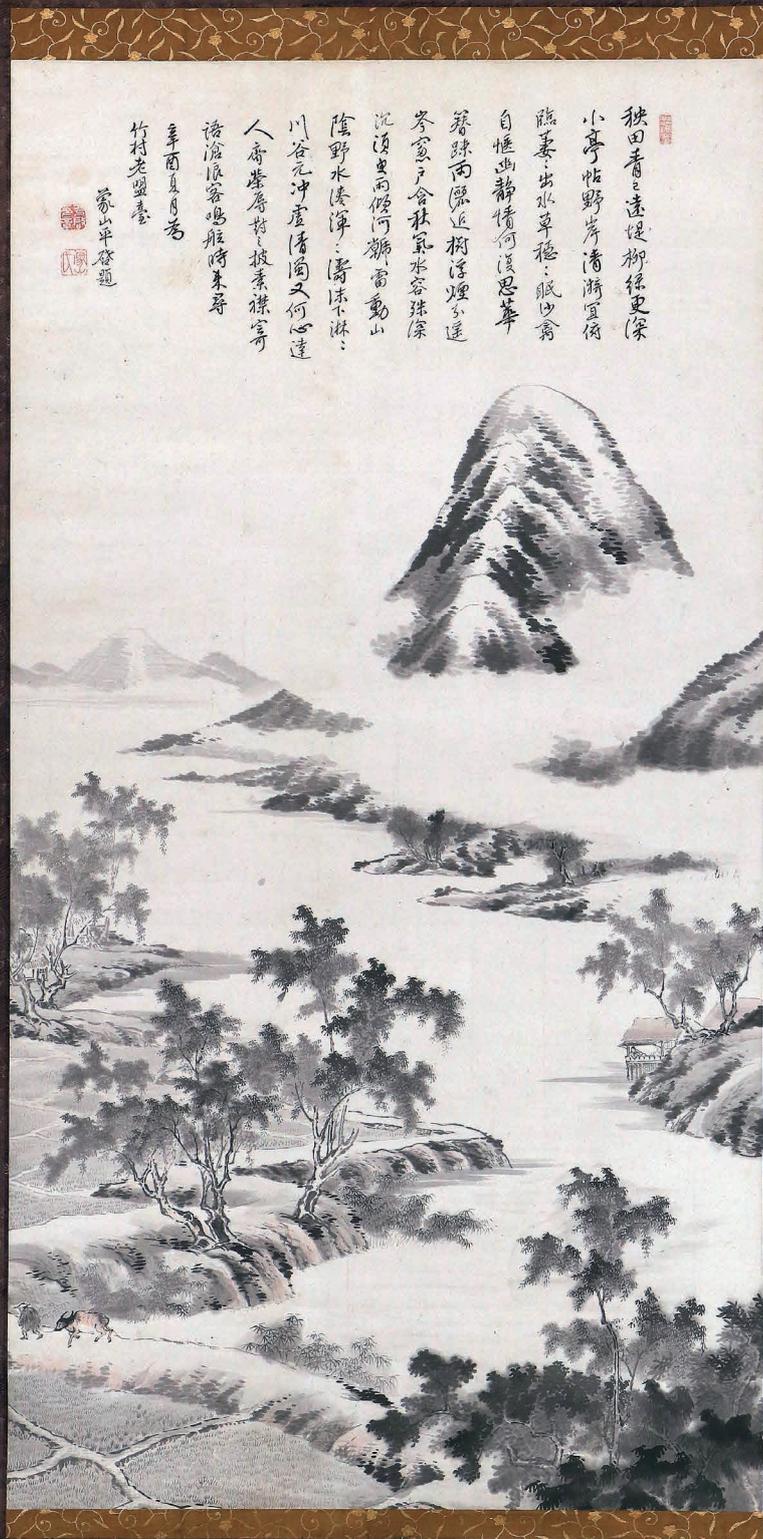
寒啄梅梢雪
晴喧竹抄風



冲一峨 春木南溟 菊池五山
一〇九頁参照 一四四頁参照 一一〇頁参照

紙本水墨淡彩 宮本仲並羽田桂之進箱書 本紙巾88.5×豎171
 文久元年（一八六一）五〇歳 表具微少傷ミ 本紙微少シミ 総丈巾108×豎233.5cm
 箱少傷ミ 近山隆平旧蔵 信濃美術館展示作品

百二十万 円
 (1,200,000JPY)



秋田青已遠堤柳綠更深
 小亭帖野岸清漪宜俯
 臨萋々出草穩々眠沙窩
 自愜幽靜情何復思華
 簪疎雨灑近樹浮煙分遠
 岑窓戶含秋氣水容殊深
 沈須與兩傾河競雷動山
 陰野水湊渾々濤沫下淋々
 川谷元冲虛清濁又何心達
 人齋榮辱對之披素襟寄
 語滄浪客鳴榔時來尋
 辛酉夏月為
 竹村老盟書
 象山平啓題

佐久間象山
 一一一頁參照
 宮本仲
 一一四頁參照
 羽田桂之進
 一一三頁參照

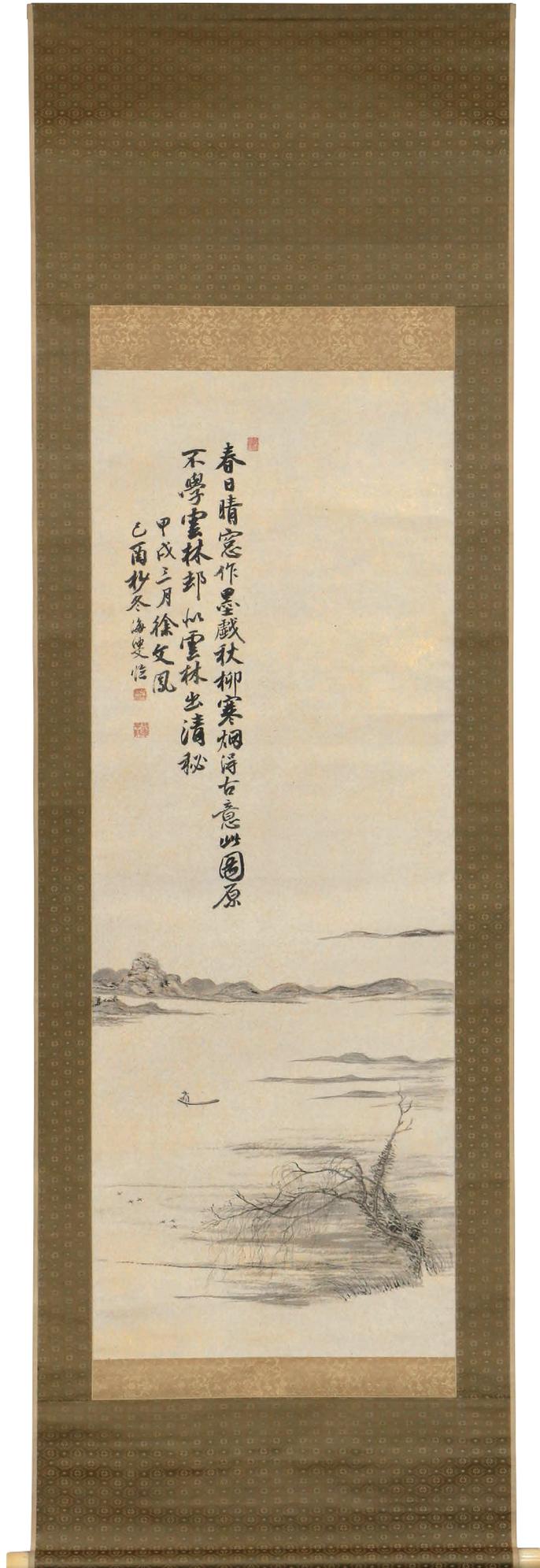
秋田青已遠堤柳綠更深
 小亭帖野岸清漪宜俯
 臨萋々出草穩々眠沙窩
 自愜幽靜情何復思華
 簪疎雨灑近樹浮煙分遠
 岑窓戶含秋氣水容殊深
 沈須與兩傾河競雷動山
 陰野水湊渾々濤沫下淋々
 川谷元冲虛清濁又何心達
 人齋榮辱對之披素襟寄
 語滄浪客鳴榔時來尋
 辛酉夏月為
 竹村老盟書
 象山平啓題



49 貫名菘翁 徐文鳳漁艇圖

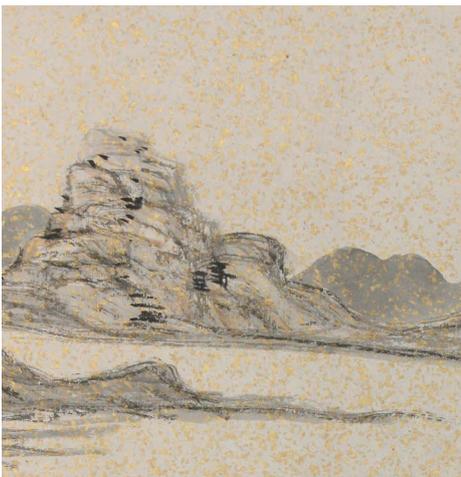
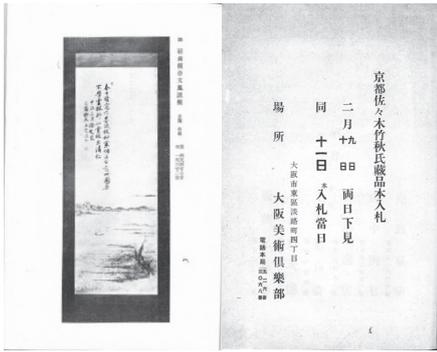
金箋紙淡彩 共箱並長尾雨山並細谷立齋箱書 本紙巾49×豎135 總丈巾65.5×豎214cm 嘉永二年（一八四九）七十二歲
 『京都佐々木竹秋氏藏品本入札』目錄（大正八年二月）所載 佳品

六十五万円
 (650,000JPY)



春日晴窓作墨戲秋柳寒烟得古意此圖原
 不學雲林却似雲林出清秘

『京都佐々木竹秋氏藏品本入札』目錄



- 貫名菘翁 一一三頁參照
- 長尾雨山 一一三頁參照
- 細谷立齋 一一四頁參照



50 根本 幽 峨 大黒白鼠初夢図 大幅

絹本着色金泥 箱入 本紙 巾82×縦52.5
 総丈 巾98.5×縦158cm 表具少ヤケ 箱傷ミ

四十五万円
 (450,000JPY)

根本幽峨
 113頁参照



51 野 崎 真 一 紅白梅花図 大幅

絹本着色金泥 箱入
 本紙 巾71×縦53 総丈 巾85×縦151cm 表具少オレ

五十五万円
 (550,000JPY)

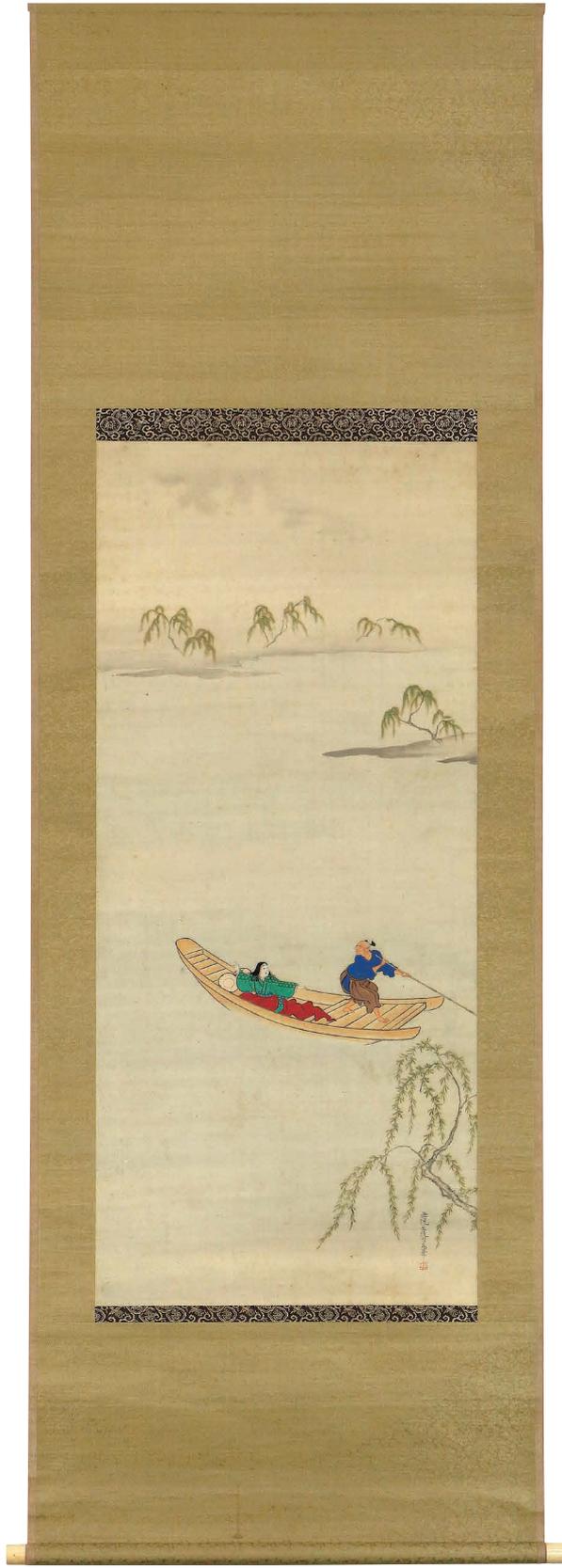


野崎真一
 113頁参照

52 浮田一蕙 朝妻舟

絹本着色 山名貫義箱書並題簽 入江為守箱書並旧藏並自詠短冊有 二重箱入 本紙巾49×豎112 総丈巾66×豎202 cm 本紙微少シミ・微少傷ミ 外箱傷ミ

二十五万円
(250,000 JPY)



浮田一蕙
一〇八頁参照

山名貫義
一一五頁参照
入江為守
一〇八頁参照



53 塩川文麟 祇園祭神輿洗図

絹本水墨 箱入 本紙巾33×豎101 総丈巾35.5×豎182 cm 少オレ

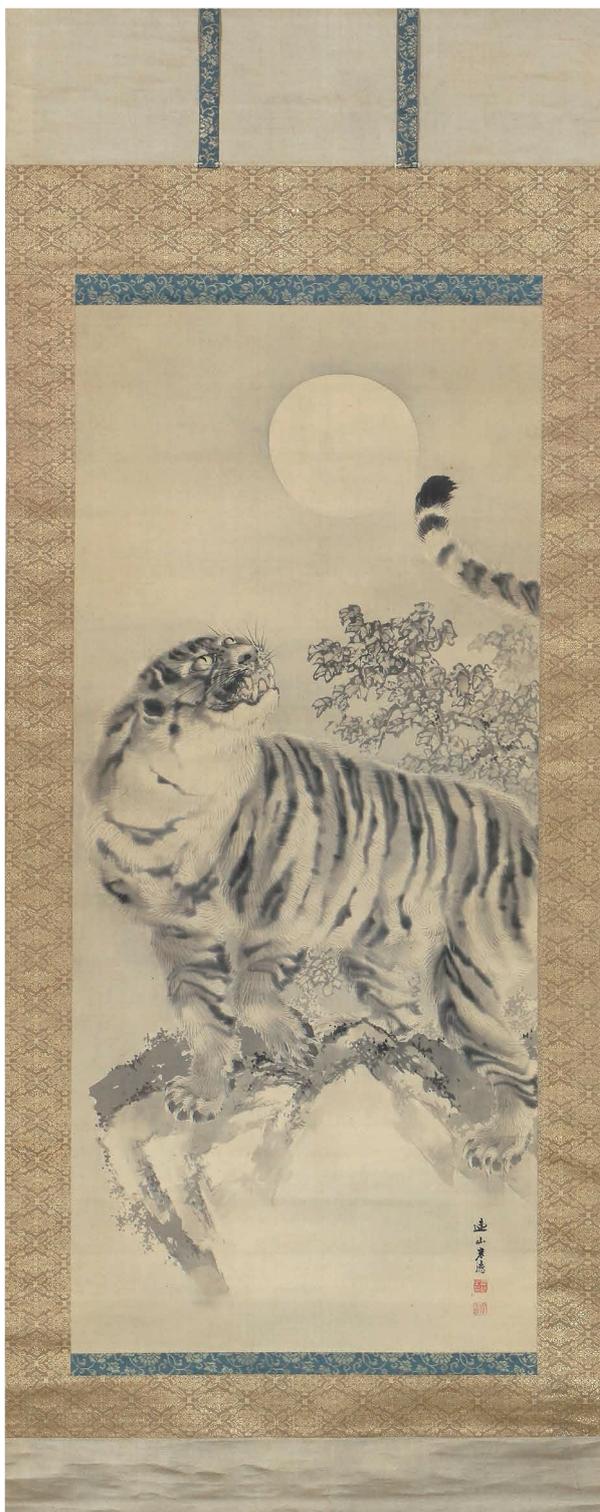
四十五万円
(450,000 JPY)



塩川文麟
一一二頁参照

54 岸 連 山 月 下 嘯 虎 図

絹本水墨淡彩金泥 箱入 本紙巾55×縦125 総丈巾72×縦208 cm 少オレ 佳品



岸連山
一一〇頁参照



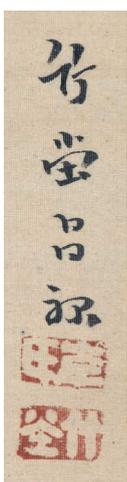
(三十八万円)
(380,000JPY)

55 岸 竹 堂 薔 薇 孔 雀 図

絹本着色 箱入 本紙巾41.5×縦113 総丈巾53.5×縦193 cm 微少オレ



岸竹堂
一一〇頁参照



(十二万二千元)
(120,000JPY)



56 塩川文麟 線香烟火図

絹本着色金泥 石河有鄰箱書
 本紙 巾56×縦36 総丈 巾69.5×縦127cm
 表具少オレ・微少虫穴 本紙微少傷ミ

四十五万円
 (450,000JPY)

塩川文麟 石河有鄰
 111頁参照 108頁参照

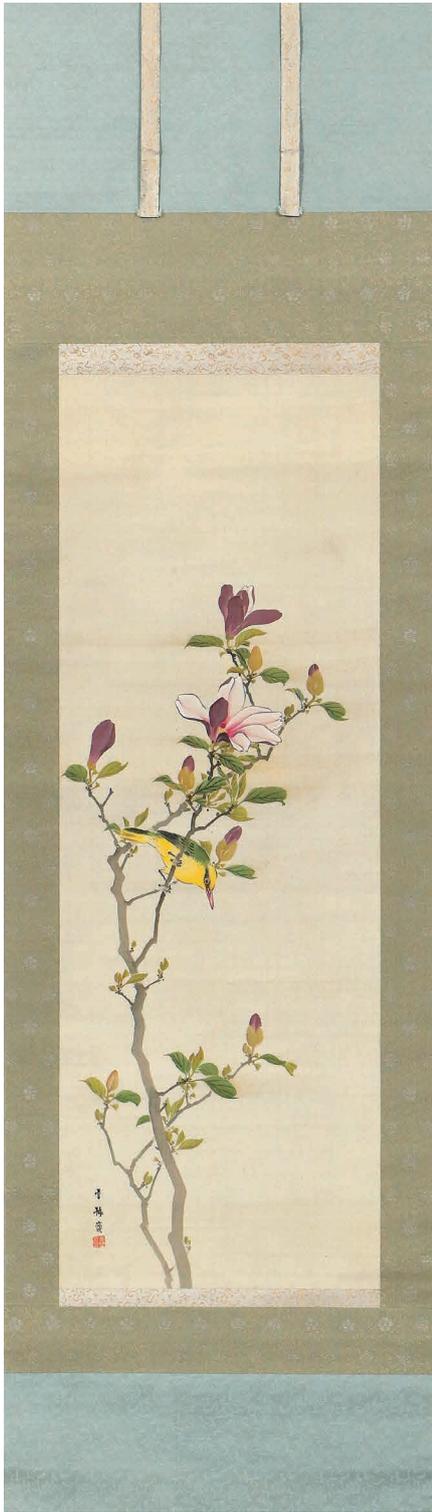


57 中島来章 萌春図

紙本着色 箱入 本紙 巾44×縦29 総丈 巾57×縦112.5cm 本紙微少オレ
 十二万円
 (120,000JPY)

中島来章
 113頁参照





幸野模嶺
一一一頁参照



三十八万円
(380,000 JPY)

絹本着色 共箱
本紙各巾36.5×縦104.5
総丈各巾49.5×縦195cm
慶応四年(一八六八)二五歳

幸野模嶺
左) 堂上白頭図
中) 富貴佳賓図
右) 玉冠金衣図 三幅対

59 西山芳園 雪中老松千鳥図

絹本着色 幸野西湖箱書 本紙巾50×縦114.5 総丈巾64.5×縦200.5cm シミ・少オレ



(120.000JPY)

西山芳園 幸野西湖
113頁参照 111頁参照

60 日根対山 蓮池孤鷺図

絹本着色 箱入 本紙巾40×縦113 総丈巾54×縦197cm 文久二年(一八六二)五〇歳 微少オレ



(180.000JPY)

日根対山
114頁参照

61 鉄翁祖門 青緑山水図

絹本着色 箱入 本紙巾35.5×縦113 総丈巾53×縦191.5cm 少オレ・少傷ミ 佳品



(180.000JPY)

鉄翁祖門
112頁参照



62 浅井柳塘 竹溪僊館図 大幅

絹本水墨 箱入

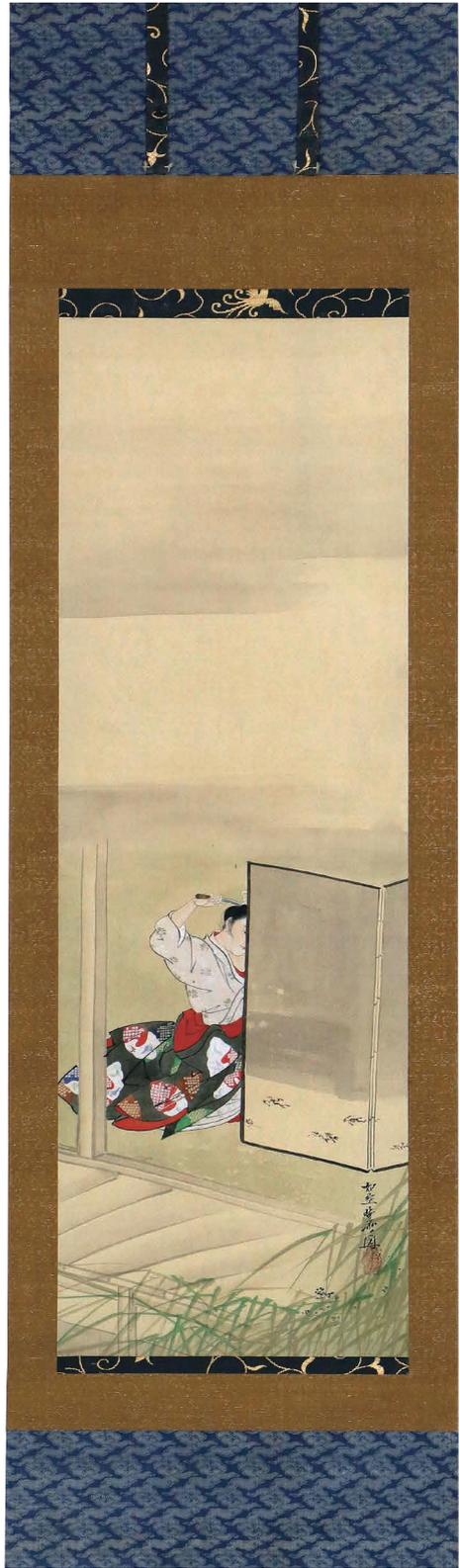
本紙巾86.5×縦174.5 総丈巾102.5×縦213cm
明治15年 41歳 表具オレ・微少虫穴 佳品

浅井柳塘
108頁参照

十二万円
(120,000JPY)

63 河鍋暁斎 袈裟御前之図

絹本着色金泥 真野暁亭箱書 本紙巾36×縦107.5 総丈巾46.5×縦185.5 cm 風帯少傷ミ 河鍋暁翠極



64 河鍋暁斎 達磨修壁之図

紙本着色 箱入 本紙巾60.5×縦137 総丈巾66×縦198.5 cm 本紙修復痕



八十五万円
(850,000 JPY)



百二十万円
(1,200,000 JPY)

- 河鍋暁斎 一一〇頁参照
- 真野暁亭 一一四頁参照
- 河鍋暁翠 一一〇頁参照



65 狩野素川 風神雷神図 双幅

絹本着色金泥 箱入 本紙 各巾17.5×縦90 総丈各巾25.5×縦169.5cm 表具微少虫穴・微少ウキ

(十八万
180,000円)



狩野素川
109頁参照

66 張月樵 陽耀舞鶴図

絹本着色金泥金砂子 箱入 本紙巾40.5×縦105 総丈巾54.5×縦192cm 微少オレ 表具微少傷

(十八万
180,000円)



張月樵
112頁参照

67 岸連山 龍虎図

絹本水墨 二重箱入 本紙巾33.5×縦93 総丈巾47.5×縦180cm 表具シミ 本紙微少オレ 風帯少傷

(二十五万
250,000円)



岸連山
110頁参照

68 柴田是真 御供鼠

絹本着色 箱入 本紙巾25×縦82.5 総丈巾28.5×縦161.5cm
元治元年(一八六四)五八歳 本紙微少オレ

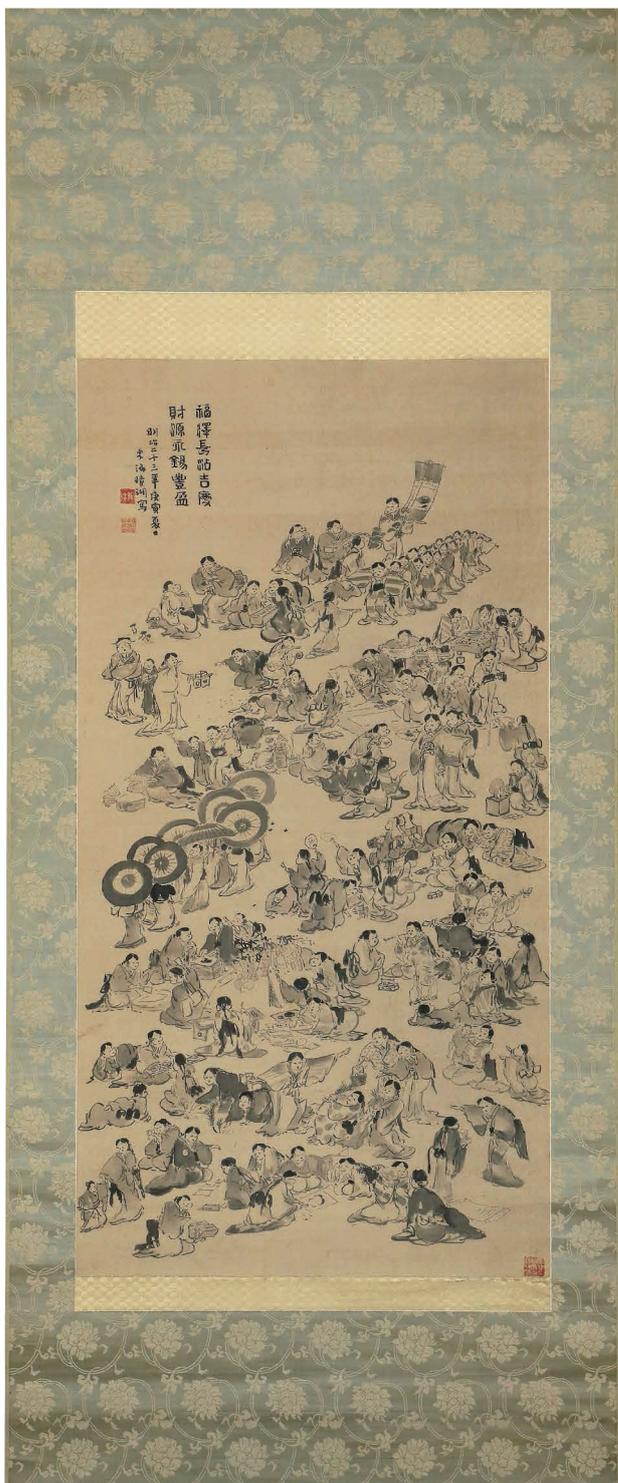
(二十五万
250,000円)



柴田是真
111頁参照

69 奥原晴湖 百福図 大幅

絹本水墨 渡辺筆石並中村不折箱書 本紙巾63.5×縦124.5 総丈巾83×縦221cm 明治三年 五四歳



福澤長沾吉慶
財源永錫豊盈

奥原晴湖
一〇九頁参照
渡辺筆石
一一五頁参照
中村不折
一一三頁参照



二十五万円
(250,000JPY)

70 田能村直入 西王母図

紙本着色 田近竹邨並小栗布岳並白須心華箱書 二重箱入 本紙巾28×縦92.5 総丈巾40×縦186.5cm 本紙微少シミ・修復痕 内箱少傷ミ

三十五万円
(350,000JPY)



田能村直入
一一二頁参照
田近竹邨
一一二頁参照
小栗不岳
一〇九頁参照
白須心華
一一一頁参照



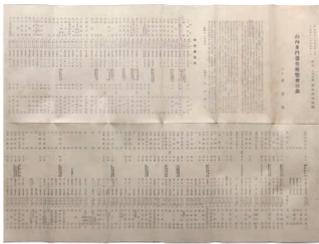
72 山内多門 (都洲) 二喬讀兵書之図

絹本着色金泥 箱入 本紙巾85.5×豎156.5 総丈巾102.5×豎271cm 微少傷ミ
 東京都府美術館一九三六年「山内多門遺作展覽會」出陳並同目錄所載
 『山内多門画集』(山内多門画集刊行会一九三六年)並『山内多門 生誕一三〇年展』(都城市立美術館二〇〇八年)所載
 「第一〇回日本絵画協会・第五回日本美術院連合絵画共進会」出品作並賞状

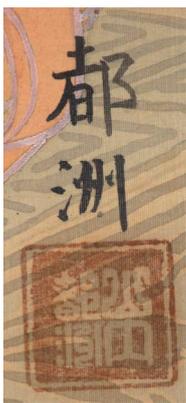
二百五十万円
 (2,500,000JPY)



「山内多門遺作展覽會」
 出陳票並目錄



「山内多門 生誕一三〇年展」



山内多門
 一一五頁参照

73 下村観山 瀑布

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾40.5×縦108.5 総丈巾55×縦200 cm
 東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証 橋本永邦封筒有



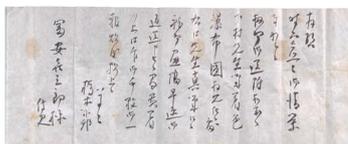
百八十万円
 (1,800,000 JPY)



下村観山
 一一一頁参照
 橋本永邦
 一一三頁参照



橋本永邦封筒



74 下村 観山 月夜海辺

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾 38.5 × 縦 101 総丈巾 53 × 縦 194.5 cm 若年作 微少シミ 東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証

(百二十万 円)
1,200,000 JPY



75 西郷孤月 水墨山水図

絹本水墨 木村武山箱書 二重箱入 本紙巾42×縦126.5 総丈巾56×縦222 cm



七十五万円
(750,000 JPY)

西郷孤月
一一一頁参照
木村武山
一一〇頁参照



76 下村観山 恵比須神像

絹本着色金泥 箱入 本紙巾42×縦104.5 総丈巾58×縦197 cm 東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証



三十八万円
(380,000 JPY)

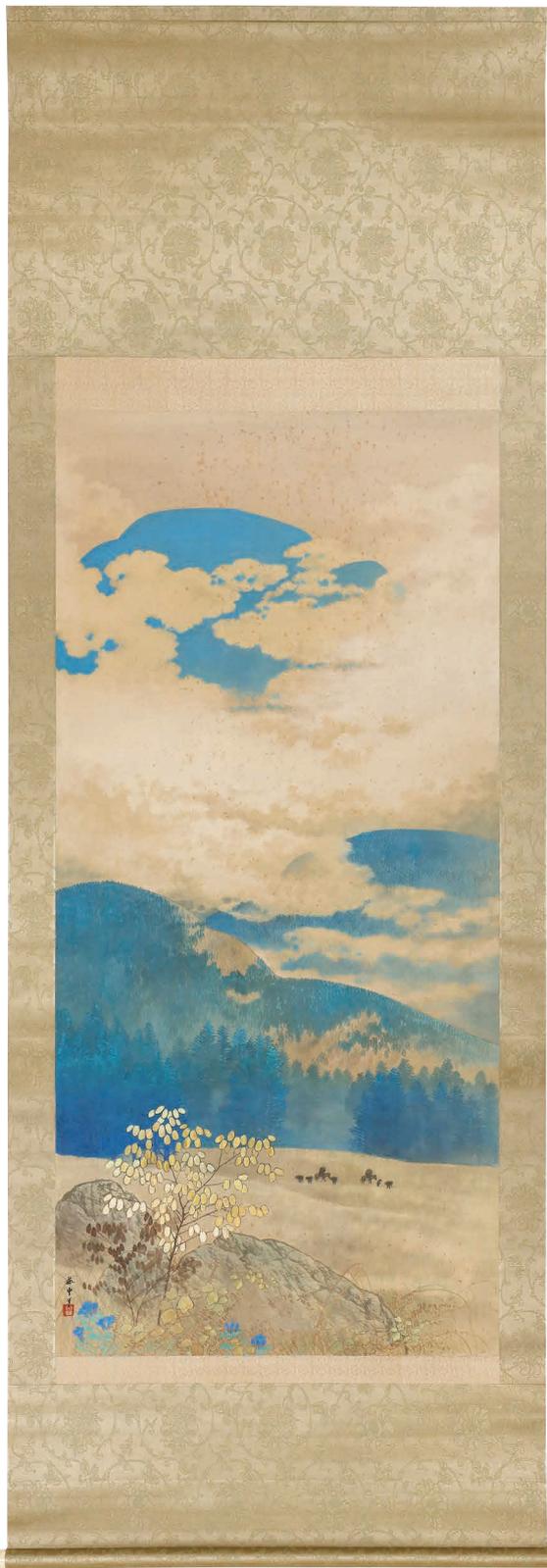
下村観山
一一一頁参照



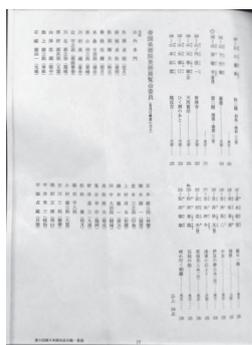
77 山田敬中 雲二題 曙雲図 暮雲図 双幅

絹本着色金泥 共箱 二重箱入 本紙各巾 87×縦 187 総丈各巾 106×縦 309 cm シミ 大正十三年「第五回帝展」出品作（昭和天皇御用品）と同図

百二十万 円
(1,200,000 JPY)



山田敬中
一一五頁参照



※同図
「第五回帝展」出品作



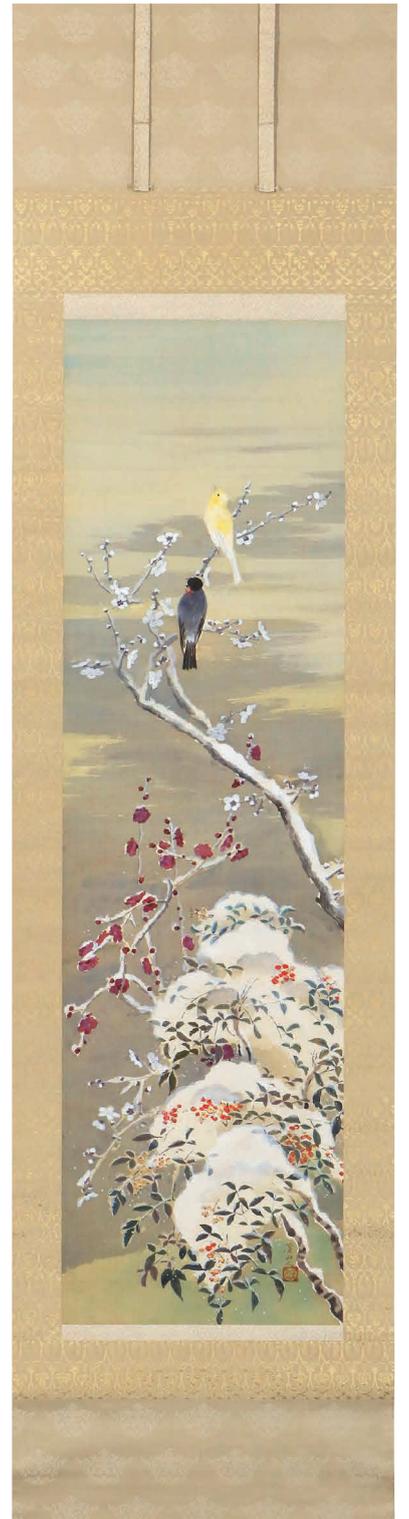
78 竹内栖鳳 雪中乱鴉図

絹本水墨淡彩 共箱 二重箱入 本紙巾41.5×縦105 総丈巾56×縦201cm 東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証

(2,500,000 JPY)



竹内栖鳳
一一二頁参照



平井棟仙
一三四頁参照

81 平井棟仙 驟雨
絹本着色 共箱 本紙巾42×縦126
総丈巾56×縦210.5cm 少オレ
十八万円
(180,000JPY)



西村五雲
一二三頁参照

80 西村五雲 霧日
絹本着色金泥 共箱 二重箱入
本紙巾40.5×縦122
総丈巾54.5×縦208.5cm
本紙微少シミ・微少剥落
二十五万円
(250,000JPY)



富田溪仙
一二三頁参照

79 富田溪仙 園中春雪図
絹本着色金泥 共箱 二重箱入
本紙巾36×縦130 総丈巾49.5×縦217.5cm
金泥落款
五十五万円
(550,000JPY)

82 都路華香 雪寒

紙本水墨 共箱 本紙巾30×豎131.5 総丈巾33.5×豎201.5cm 本紙微少シミ



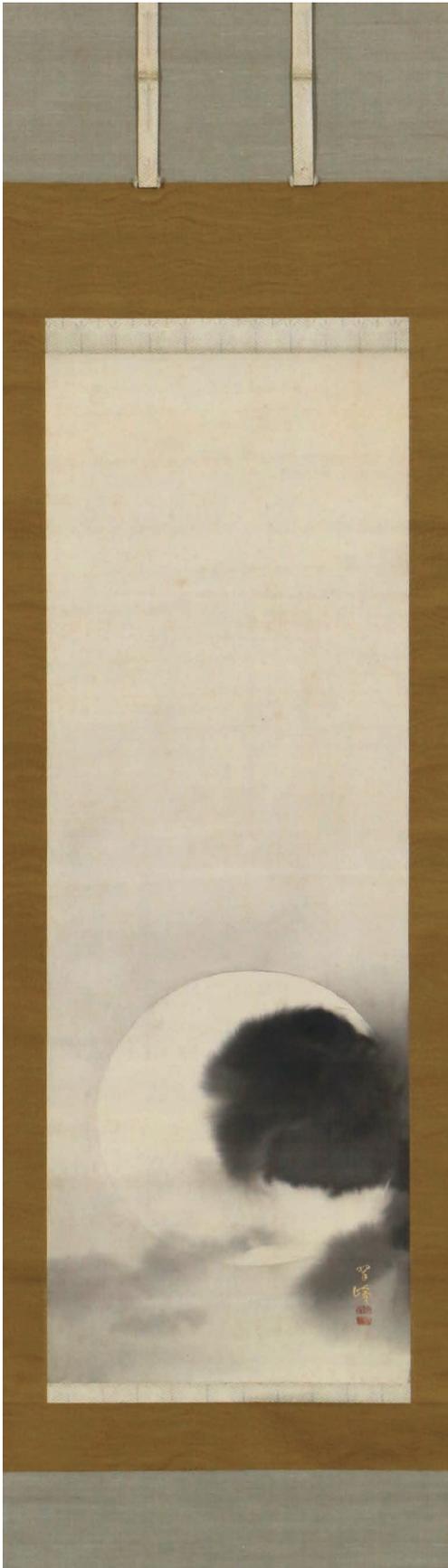
都路華香
一一二頁参照



(180,000 JPY) 円

83 西山翠嶂 玄兔図

絹本水墨金泥 共箱 本紙巾35.5×豎101 総丈巾47.5×豎189cm 本紙微少シミ 金泥落款



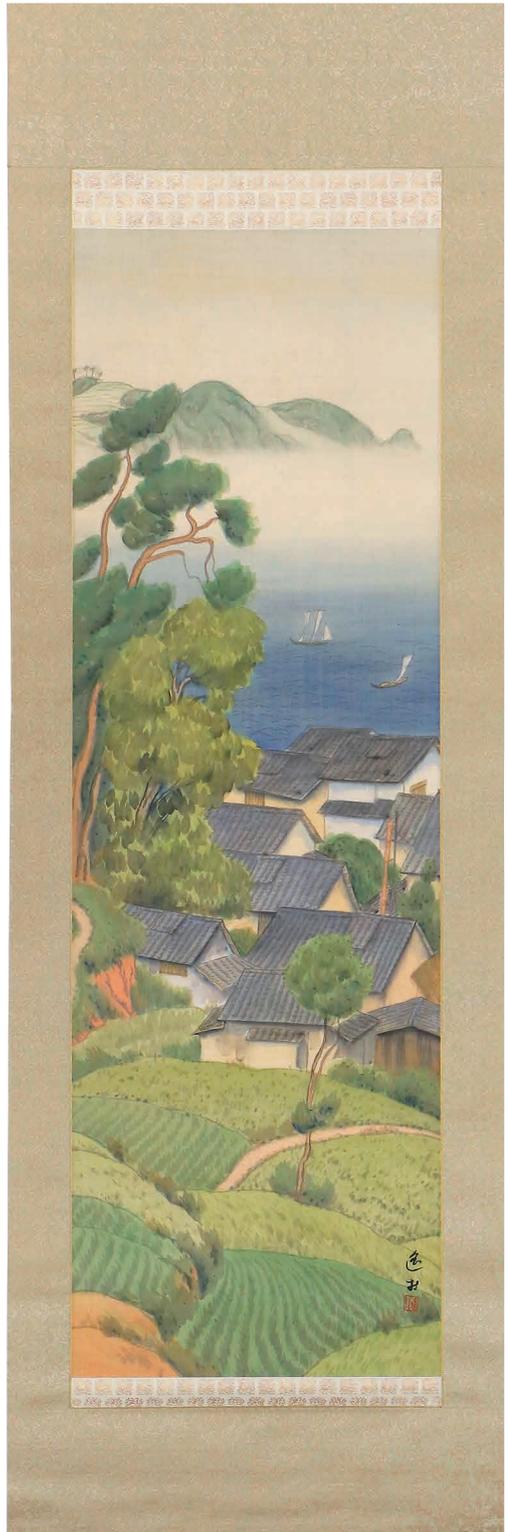
西山翠嶂
一一三頁参照



(180,000 JPY) 円

84 池田遙邨 瀬戸内

絹本着色 池田道夫箱書 本紙巾40×縦125 総丈巾54×縦203.5cm 美品 大正期作 岡崎清光堂製表具



池田遙邨
一〇八頁参照 池田道夫
一〇八頁参照

瀬戸内

池田遙邨
1-133

三十八万円
(380,000 JPY)

池田遙邨先生
「瀬戸内」
表装様式 袋表装
一文字 牙色地遣上花鬼文朱箔金襴
総縁 利休茶地宝冠牡丹文銀襴
岡崎清光堂 伝統工務士 岡崎 昭



85 木島桜谷 雪中遊鹿

絹本着色 共箱 本紙巾41×縦111 総丈巾56×縦194.5cm 少シミ・微少オレ



雪中遊鹿

木島桜谷
1-133

五十五万円
(550,000 JPY)



86 木島 桜谷 龍頭観音図

紙本着色金泥 箱入 本紙巾61.5×縦133 総丈巾74×縦192.5cm 若年作



(450,000 JPY) 四十五万円

櫻谷揮毫



87 木島 桜谷 雪暁

紙本着色 共箱 本紙巾20.5×縦136 総丈巾22.5×縦206cm 表具少シミ 本紙微少オレ



(120,000 JPY) 十二万円

木島桜谷
一一一頁参照



88 山元春挙 遊猿之図

絹本着色 共箱 本紙巾32.5×縦107.5 総丈巾45.5×縦194.5 cm
 微少ウキ 表頁少オレ 本紙シミ 山元春挙執事手紙入

十二万
 (120,000円)



89 山元春挙 寒汀瑞鳥図

紙本着色金泥 共箱 本紙巾29×縦128 総丈巾41.5×縦217.5 cm 本紙微少シミ

十二万
 (120,000円)



90 森一鳳 鯉図

絹本着色金泥 箱入 本紙巾36×縦100.5 総丈巾50×縦190.5 cm 少シミ・少汚し
 『リアル 最大の奇抜』(府中市美術館二〇一八年)所載並同図録添付

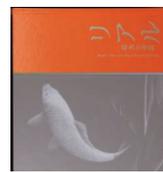
三十五万
 (350,000円)



91 山元春挙 裾野之図

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾37.5×縦114
 総丈巾50×縦203 cm 福原鏝二郎旧蔵 伏原春芳堂製表具
 山元春挙自筆書翰並伏原春芳堂領收書有

十二万
 (120,000円)

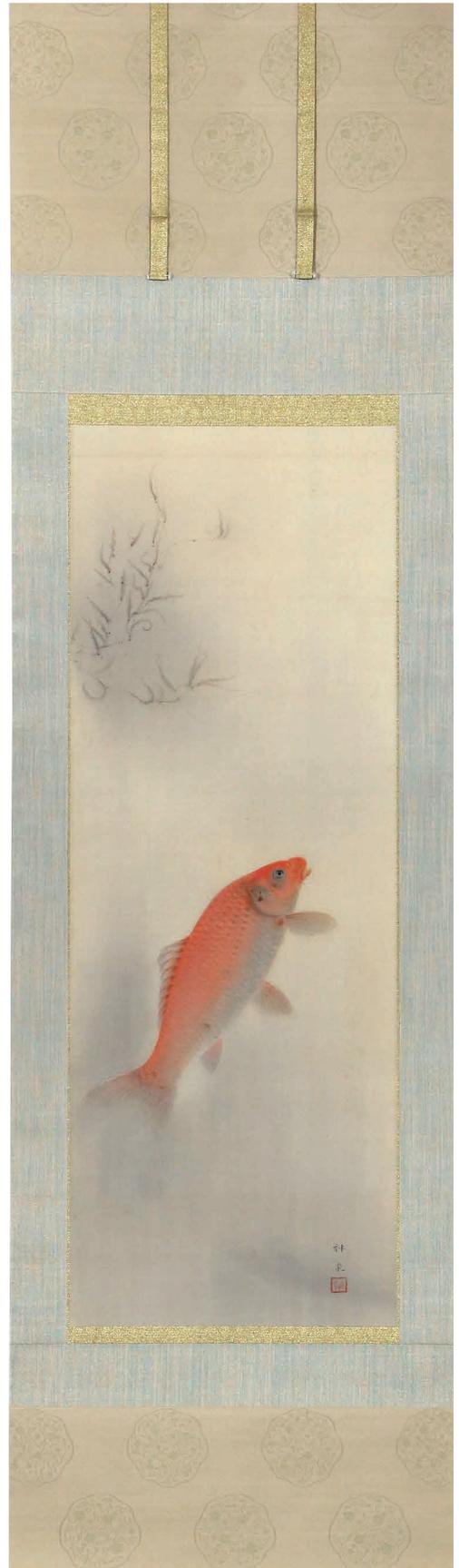


『リアル
 最大の奇抜』



92 徳岡神泉 緋鯉

絹本着色 共箱 二重箱入 太巻 本紙巾41×縦114.5 総丈巾56.5×縦214cm 本紙微少シミ 古心堂製表具



徳岡神泉
一一二頁参照

緋鯉

神泉

(550,000 JPY)
五十五万円

93 木村武山 春暖

絹本着色金泥 共箱 二重箱入 本紙巾41.5×縦128.5 総丈巾56×縦223cm



木村武山
一一〇頁参照

春暖

武山

(380,000 JPY)
三十八万円

武山

94 竹内栖鳳 秋晴

紙本着色 共箱 二重箱入 本紙巾53×豎43.5
 総丈巾68×豎144.5cm 本紙微少シミ
 東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証
 五十五万円
 (550,000JPY)



竹内栖鳳
 一一二頁参照



96 入江波光 待春図

紙本着色 共箱 二重箱入
 本紙巾33.5×豎25.5 総丈巾47×豎117.5cm
 昭和二十一年 五九歳 富山美術館展覧会出品
 整古堂製表具 新春試筆

三十五万円
 (350,000JPY)



入江波光
 一〇八頁参照



95 土田麦僊 鶴

絹本着色 共箱 二重箱入
 本紙巾42.5×豎38.5 総丈巾56×豎134cm
 大正一〇年 三五歳 少シミ・少オレ

十八万円
 (180,000JPY)



土田麦僊
 一一二頁参照





松林桂月
一三四頁参照



97 松林桂月 淡月桜花図 大幅

絹本水墨淡彩 共箱 二重箱入 本紙巾70×縦57.5 総丈巾90.5×縦182cm

百八十万円
(1,800,000JPY)



「酒井三良展」



98 酒井三良 春雨（原題「鶉」）大幅

酒井三良
111頁参照

絹本着色 共箱 本紙 巾81×豎65.5

総丈 巾98.5×豎187cm

日本美術院試作展（昭和9年）出品作

「酒井三良展」（喜多方市美術館2001年）出陳

八十五万円
(850,000JPY)



99 小茂田青樹 飛鴨扇面

紙本水墨 田中青坪箱書

本紙 巾49×豎13 総丈 巾66×豎138.5cm

少オレ 表具少ヤケ

東美鑑定評価機構鑑定委員会鑑定証

六十五万円
(650,000JPY)

小茂田青樹 田中青坪
109頁参照 112頁参照

100 小早川秋声 仙境之図

絹本水墨淡彩金銀砂子 共箱 二重箱入 本紙巾42×縦123.5 総丈巾55×縦207.5cm 昭和七年 四六歳 表具微少ヤケ
 佳品 箱に「此図八秩父宮殿下之御前揮毫被仰附之節用ひし明代之古薫墨を以て図す」と有



仙境之図

此図八秩父宮殿下之御前揮毫被仰附之節用ひし明代之古薫墨を以て図す



(500,000 JPY) 五十万 円

101 小早川秋声 登龍

絹本水墨金泥 共箱 本紙巾41×縦136 総丈巾55.5×縦225.5cm シミ 本紙微少オレ



水墨登龍

此図八秩父宮殿下之御前揮毫被仰附之節用ひし明代之古薫墨を以て図す



(500,000 JPY) 五十万 円

小早川秋声
一一一頁参照



102 濱谷白雨 閑雲歸旅 双幅

絹本着色 共箱 本紙各 巾85.5×豎203 総丈各 巾93.5×豎243cm
 大正7年 32歳 本紙オレ 佳品

濱谷白雨
 114頁参照

五十五万円
 (550,000JPY)



楠音筆



105 甲斐庄楠音 美人図小色紙貼交屏風 六曲半双中屏風

絹本着色金泥金砂子 箱入 本紙 各巾24.5×縦27×5枚 総丈巾276×縦124cm 美品

七百五十万円
(7,500,000JPY)

甲斐庄楠音
109頁参照

栗原玉葉 加賀千代女図

絹本着色金泥 二重箱入 本紙巾40.5×豎116 総丈巾53×豎203.5cm

七十五万円
(750,000 JPY)



栗原玉葉
一一一頁参照



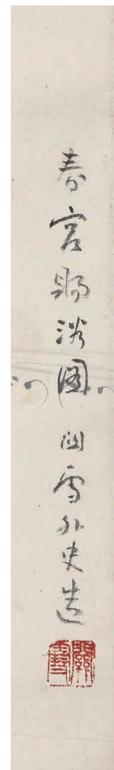
春宮賜浴圖 西宮外史造

107 橋本関雪 春寒賜浴図 大幅

紙本水墨淡彩金泥 共箱 本紙巾89×縦47.5 総丈巾94×縦149 cm
表具微少ウキ

(1,500,000 JPY)
百五十万円

橋本関雪
一一三頁参照



108 伊藤小坡 慈愛之図

絹本着色金銀泥 共箱 本紙巾41.5×縦119.5 総丈巾54×縦201.5cm 少オレ 本紙微少シミ

(八十五万円
850,000JPY)



伊藤小坡
一〇八頁参照



109 堂本印象 子女

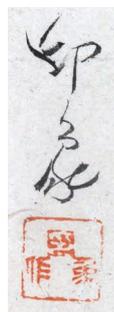
紙本着色 共箱 本紙巾30×豎118 総丈巾42×豎202cm



堂本印象
一一二頁参照

子女

中本再紀



六十五万円
(650,000 JPY)

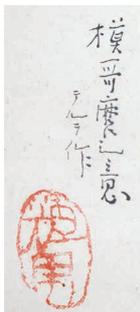
110 秦テルヲ 哥磨之意模 酒女授戒之図

紙本着色 共箱 本紙巾32×豎131.5 総丈巾45.5×豎202cm 大正一五年 四〇歳



秦テルヲ
一一三頁参照

酒女授戒之図



三十八万円
(380,000 JPY)

111 尾竹竹坡 男卜女

絹本着色 共箱 本紙巾42×豎113 総丈巾56.5×豎186.5cm



尾竹竹坡
一〇九頁参照



(650,000JPY)
六十五万円

112 尾竹国観 杜若

絹本着色 共箱 本紙巾50×豎145 総丈巾65×豎216.5cm 本紙微少シミ・微少オレ 箱微少傷ミ



尾竹国観
一〇九頁参照



(450,000JPY)
四十五万円

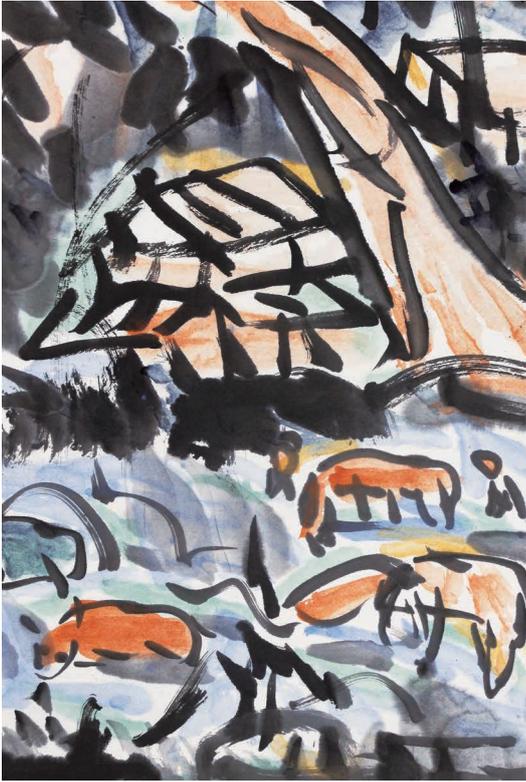
113 棟方志功 光陰高粱川図

紙本着色 共箱 本紙巾35×縦94.5 総丈巾48.5×縦175cm 昭和三七年 五九歳 美品 棟方志功鑑定委員会鑑定証



(百二十万
円)
1,200,000 JPY

棟方志功
一一五頁参照



棟方志功鑑定委員会鑑定証



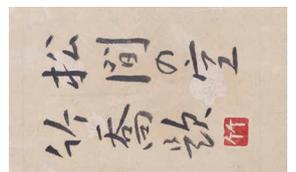
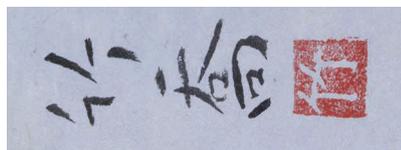
114 小野竹喬 松間の空額装

紙本着色金泥 共シール 本紙巾44.5×縦33.5 綾丈巾65.5×縦54.5cm 卓月表玄製額

(六.五〇〇.〇〇万円)



小野竹喬
一〇九真参照



115 川合玉堂 白兔色紙

紙本着色 川合修二箱書
 本紙 巾24.5×縦27 総丈 巾39×縦117.5cm
 本紙微少シミ

二十五万円
 (2,500,000JPY)



川合玉堂 川合修二
 一一〇頁参照 一一〇頁参照



116 竹内栖鳳 紅梅図

紙本着色 共箱 二重箱入 本紙 巾47×縦33
 総丈 巾62.5×縦128cm 本紙少シミ

四十五万円
 (450,000JPY)

竹内栖鳳
 112頁参照

117 池上秀畝 月下群雁図

絹本着色 共箱 本紙巾49.5×縦121 総丈巾63×縦206.5cm 若年作 本紙少シミ

十八万
(180,000円)



118 鬼頭道周 悲母観音

絹本着色金泥 箱入 本紙巾50.5×縦113 総丈巾66×縦204.5cm 本紙少シミ

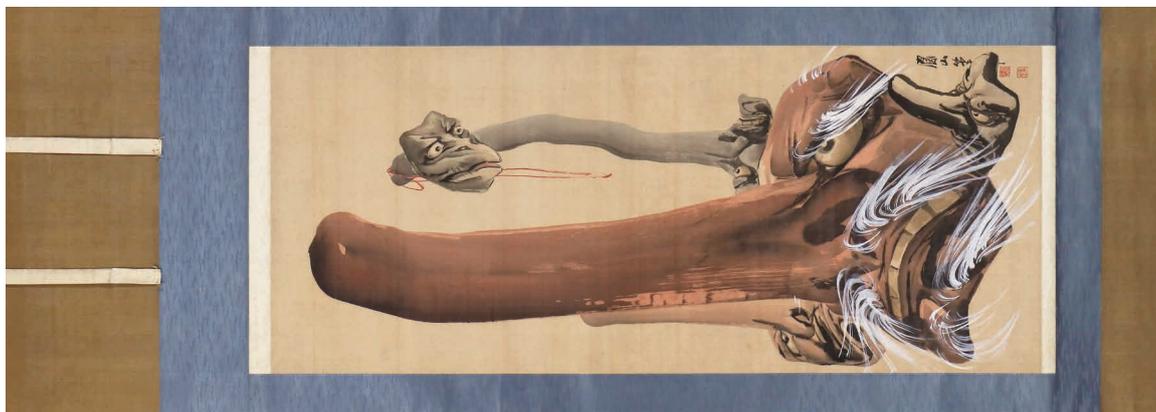
二十五万
(250,000円)



119 上島鳳山 天狗面尽

絹本着色 箱入 本紙巾55.5×縦129 総丈巾70.5×縦220cm 少シミ・少オシ

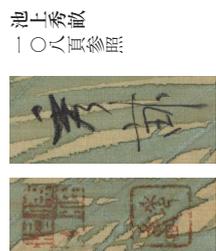
十二万
(120,000円)



120 池上秀畝 如雪

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾42×縦131 総丈巾55.5×縦207cm

十五万
(150,000円)



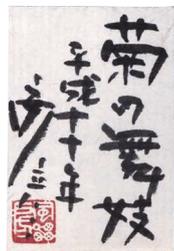
案本一洋
114頁参照



121 案本一洋 美人骨牌図

絹本着色金泥 箱入 本紙 巾36.5×縦44 総丈 巾49.5×縦143cm

十五万円
(150,000JPY)



122 木田安彦 菊の舞妓 ガラス絵 小品

ガラス絵 共シール 紙箱入
本紙 巾3×縦3 総丈 巾14×縦14cm 平成17年 61歳

十八万円
(180,000JPY)



木田安彦
110頁参照



123 松尾芭蕉 竹画賛

紙本水墨 箱入
 本紙巾47×縦33 総丈巾57×縦117cm
 『俳人真蹟全集第三卷 芭蕉』
 (平凡社昭和五年) 所載

三百五十万円
 (3,500,000円)

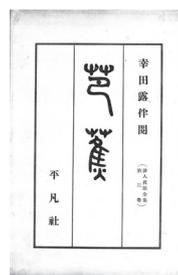
たはみては雪まつ

竹の
 けしき哉



松尾芭蕉
 一一四頁参照

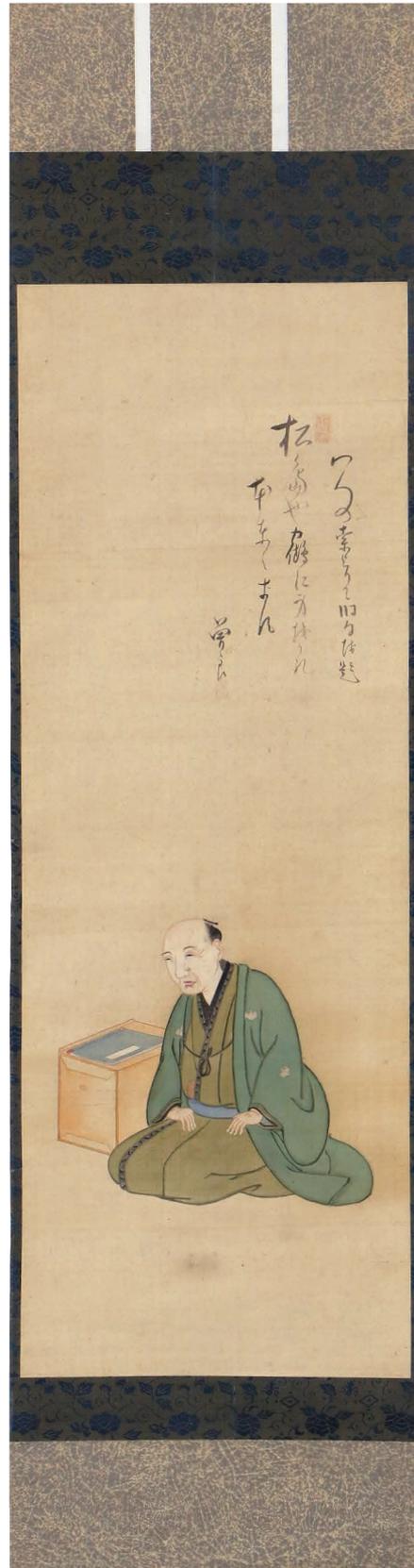
『俳人真蹟全集第三卷 芭蕉』



124 河合曾良賛 河合曾良肖像

絹本着色 箱入 本紙巾33×縦93.5 総丈巾35.5×縦173cm 少シミ

(五十五万円
550,000 JPY)



つりの索よりて旧句を題
松島や鶴にみをか
ほと、きす

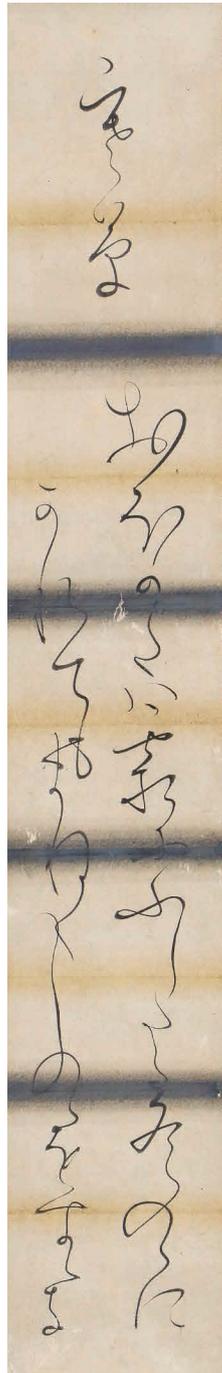
河合曾良賛
一一〇頁参照



125 向井去来 寒菊和歌短冊

紙本 箱入 本紙巾11.5×縦36 総丈巾30×縦130.5cm 表具少オレ

十二万円
(120,000 JPY)



寒菊
おほかた八霜にふしたる冬の、に
かれてもまねくしの、をす、き



向井去来
一一五頁参照



126 慈雲尊者 人となるみち 一行

紙本 上月諦了箱書 本紙巾27×豎103.5 総丈巾29×豎176.5cm 少シミ・少オレ

(百五十万円
1,500,000 JPY)



慈雲尊者 上月諦了
一一一頁参照 一一一頁参照



127 慈雲尊者 富哉二字

紙本 箱入 本紙巾57.5×豎37 総丈巾60×豎125.5cm 本紙微少シミ

九十五万円
(950,000JPY)

128 慈雲尊者 雲門云日是好日

紙本 箱入 本紙巾27×豎123 総丈巾29.5×豎188 cm 微少オレ・微少傷ミ 箱少傷ミ

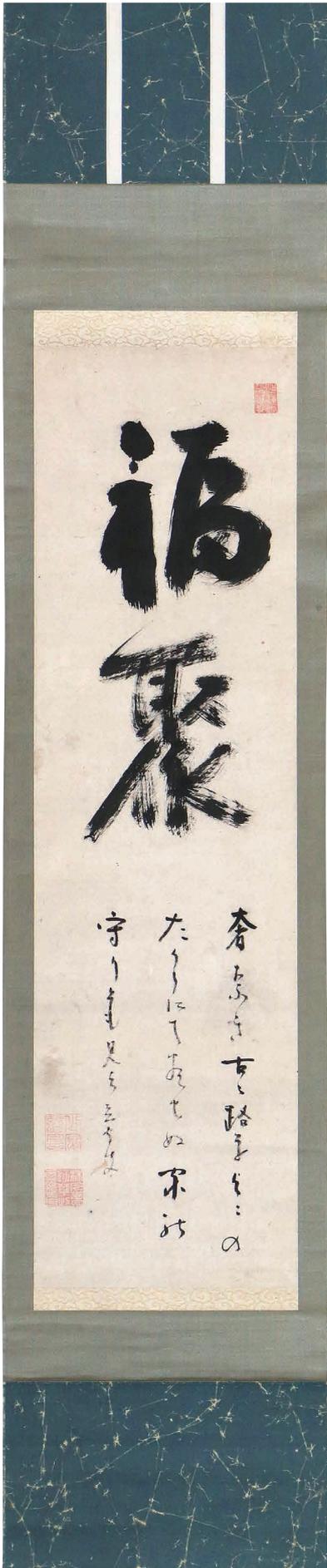


七十五万円
(750,000 JPY)



129 慈雲尊者 福聚置字道歌

紙本 石川素堂箱書 本紙巾26.5×豎95.5 総丈巾33×豎182.5 cm 少シミ・微少傷ミ



奢らなきころをよのたからにて尽せぬ家の守りともみよ 慈雲叟

七十五万円
(750,000 JPY)

慈雲尊者
一一一頁参照

石川素堂
一〇八頁参照



130 遂翁元盧 観音

絹本水墨 中島玄奘箱書 本紙巾36×縦112 総丈巾49×縦194.5cm 少オレ・修復痕



(650,000 JPY)

遂翁元盧

一一二頁参照

中島元奘

一一三頁参照



131 仙厓義梵 大黒天額装

絹本水墨 本紙巾19×縦49 総丈巾36.5×縦66.5cm

(250,000 JPY)



仙厓義梵
一一二頁参照

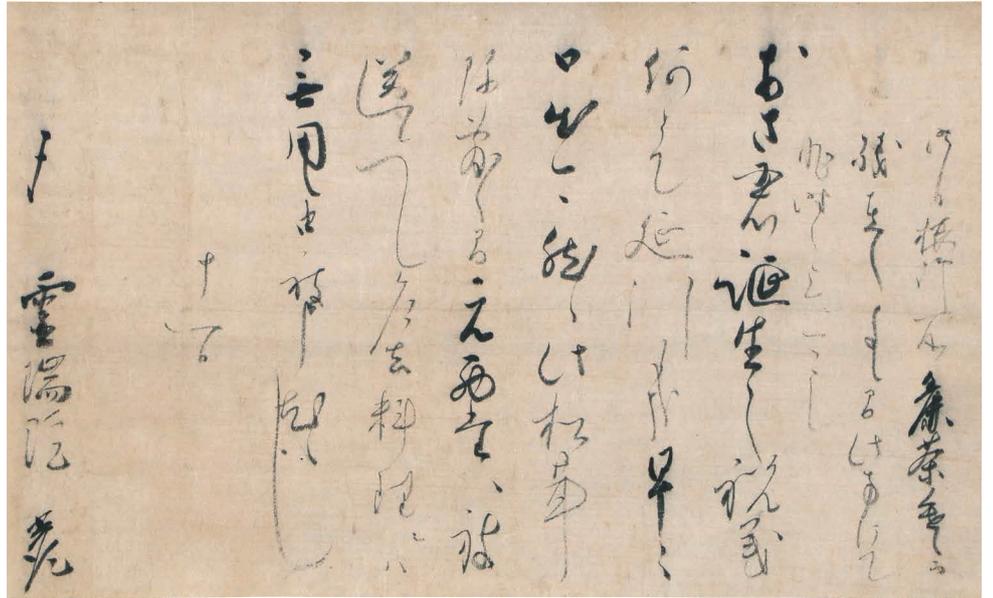


132 宣如上人
十一日付靈瑞院宛自筆消息

紙本 箱入 本紙 巾45×豎28
総丈 巾56×豎120cm 微少オレ

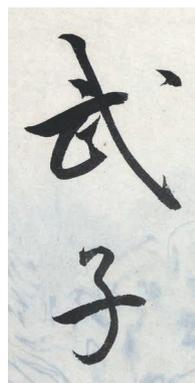
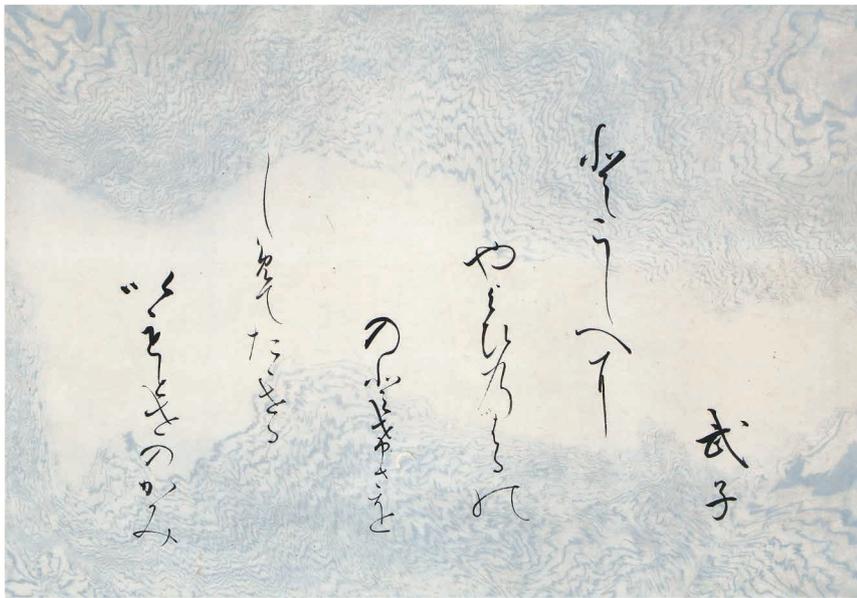
二十五万円
(250,000JPY)

宣如上人
112頁参照



昨日桜御所麓茶進候而
残在之事候間此方にて
非時之上二可申候
おさ君誕生之祝義
何とて延引候哉 早々
御出可然候 此松茸
珍敷候間元西堂へ被
送候べし 乍去料理二ハ
無用候由被申尤候 かしく
十一日
(端裏)
靈瑞院 光従

*靈瑞院 宣如の息子、靈瑞院宣澄。
寛永十六年、近江長浜の長浜御堂長
浜別院、大通寺) 初代住職となる。
延宝八年十一月没五十四歳。
一六二七〜八〇。
*桜御所 近衛家屋敷のことで、近
衛信尋を指すか。



とこしへに
やよひのはるの
のとけさを
しめてたたせる
いもとせのかみ



133 九条武子 和歌懐紙

紙本 与謝野晶子箱書 本紙 巾53.5×豎37.5
総丈 巾64×豎136.5cm 本紙修復痕

四十五万円
(450,000JPY)

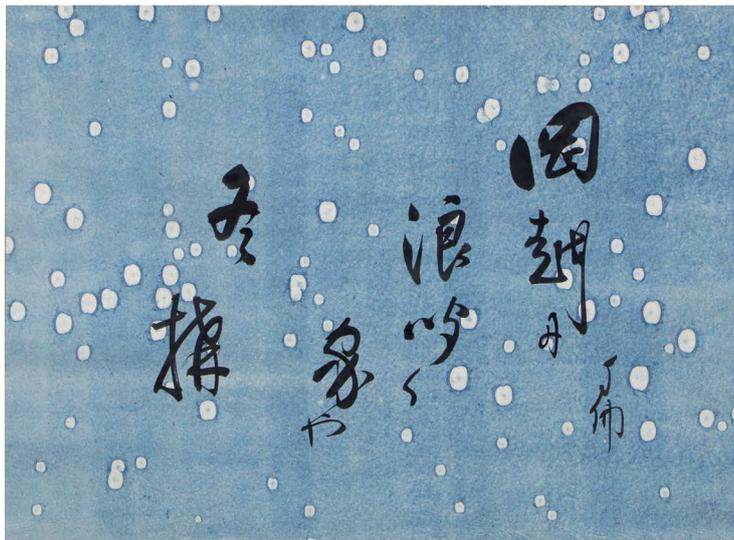
九条武子 与謝野晶子
110頁参照 115頁参照



岡越に
浪聞く
家や
冬構



大谷句仙
一〇九頁参照



134 大谷句仙 冬構句

紙本 共箱 本紙 巾49.5×縦36.5
総丈 巾62.5×縦129.5cm 大正9年 45歳 少シミ

八万五千元
(85,000JPY)



135 清水公照 修中絵日記 お水取り

紙本着色 共箱 二重箱入
本紙 巾50.5×縦33
総丈 巾66.5×縦126cm 美品

八万五千元
(85,000JPY)



清水公照
111頁参照



136 山本空外 唯識無境扁額

紙本 本紙 巾129.5×縦33.5 総丈 巾69×縦48cm 本紙微少シミ

二十五万円
(250,000JPY)

山本空外
115頁参照



137 澤木興道 世尊名号

絹本 共箱 本紙巾32×縦116.5 総丈巾48×縦208 cm 昭和一〇年 五五歳 表具裏少汚レ



澤木興道
一一一頁参照



(三十八万円
380,000JPY)

138 宙宝宗宇 響置字

紙本 箱入 本紙巾30×縦104 総丈巾32×縦181.5 cm 少オレ・少傷ミ



宙宝宗宇
一一二頁参照

響

風吹南岸柳
雨打北池蓮



(九万五千元
95,000JPY)

139 徳川綱吉 練鵲図

絹本水墨 箱入 本紙巾33×縦65 総丈巾46×縦158.5cm
表具微少傷ミ 本紙少シミ・少オレ 時代極上表具



五十五万円
(550,000 JPY)



徳川綱吉
一一二頁参照

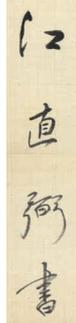
140 井伊直弼 詩経

絹本 箱入 本紙巾36×縦108.5 総丈巾38×縦184.5cm

魚在、藻有頌其首王在、
鎬豈樂飲酒



三十八万円
(380,000 JPY)



井伊直弼
一〇八頁参照

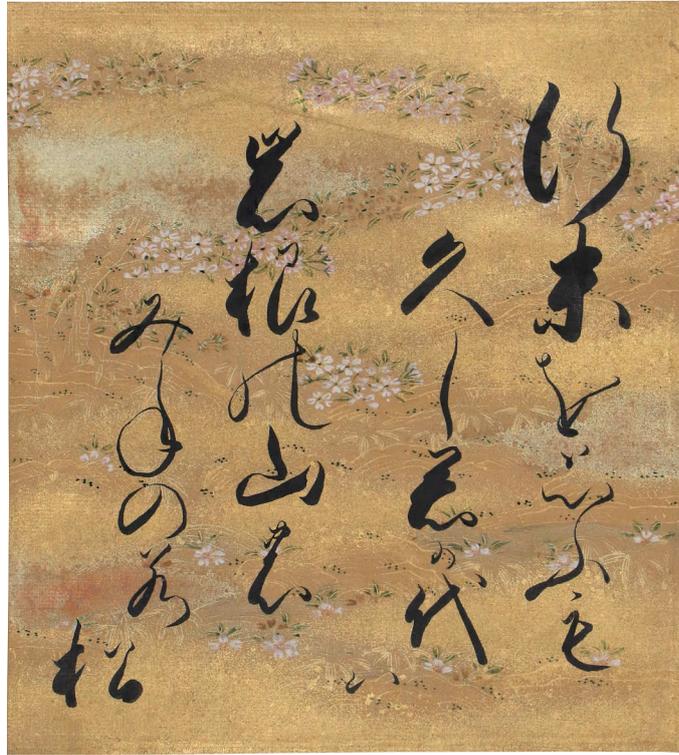
141 徳川家宣 和歌色紙

金地下絵入紙本 箱入

本紙巾15×縦16.5 総丈巾41×縦142cm

台紙少シミ・少オレ 宝永六年(二七〇九) 御拝領品

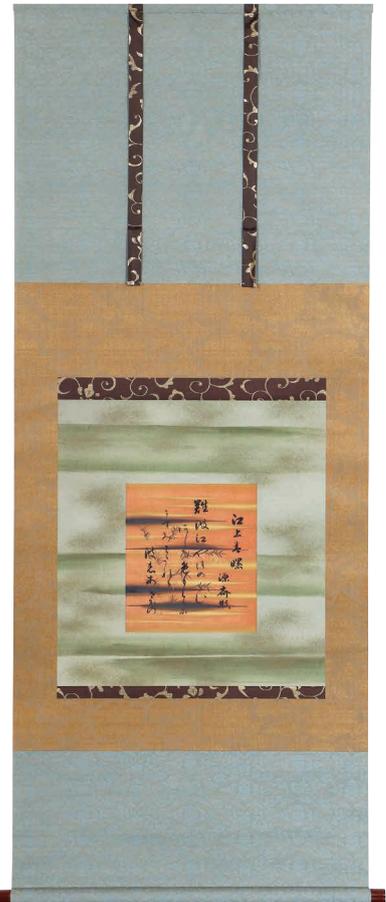
六十五万円
(650,000JPY)



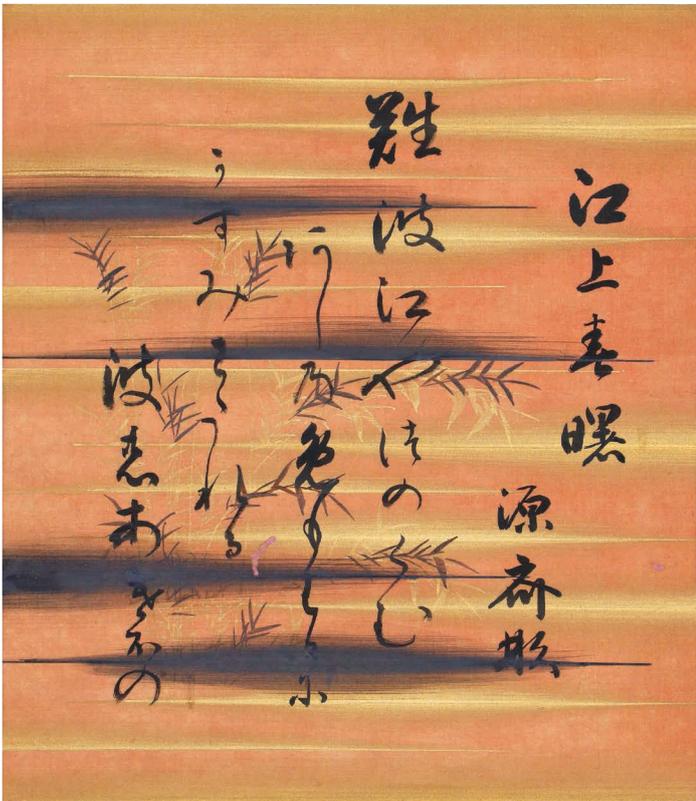
行末を思ふも
久し君か代ハ
岩根の山の
みねの若松



徳川家宣
一一二頁参照



江上春曙
源斎彬
難波江やつにくむ
あしのめもはるに
かすみわたれる
波のあけほの



142 島津齊彬 江上春曙 和歌色紙

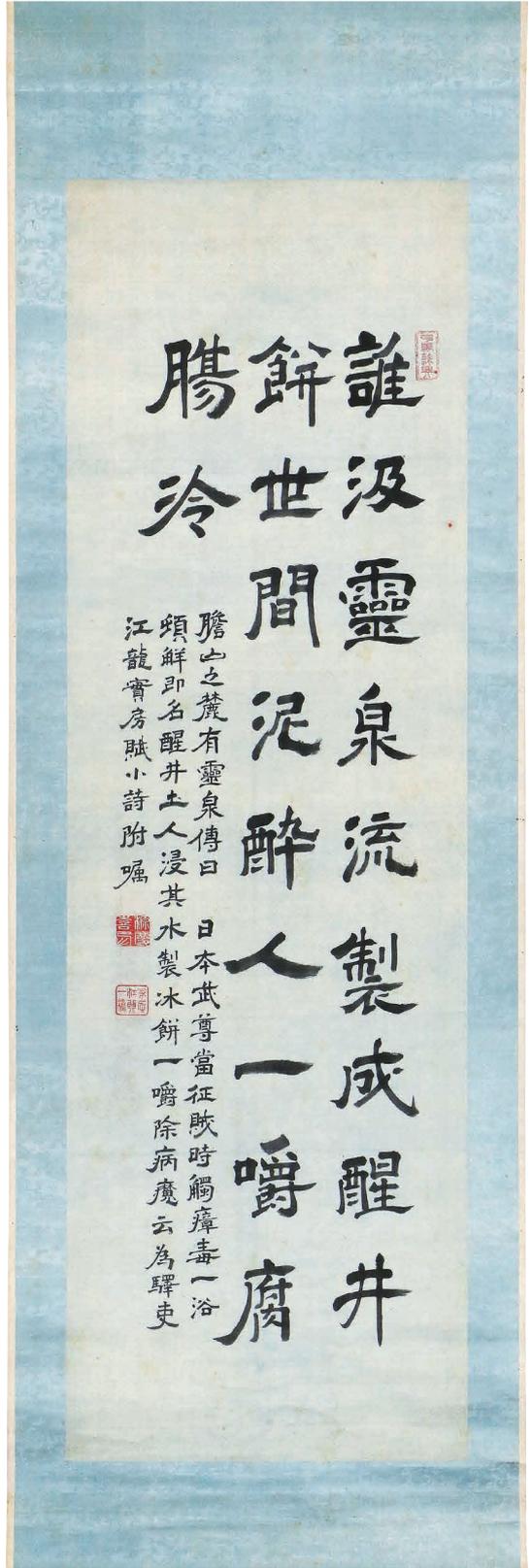
絹本 箱入 本紙巾21×縦24 総丈巾57×縦145.5cm 美品

島津齊彬
111頁参照

四十五万円
(450,000JPY)

143 徳川慶喜 五絶三行

繪子 箱入 本紙巾47.5×豎152 総丈巾61.5×豎195cm 少シミ・少オレ



膽山之麓有靈泉傳曰 日本武尊當征賊時觸瘴毒一浴
頓解即名醒井土人浸其水製冰餅一嚼除病魔云為驛吏
江龍實房賦小詩附囑

誰及靈泉流製成醒井
餅世間泥醉人一嚼腐

腸冷

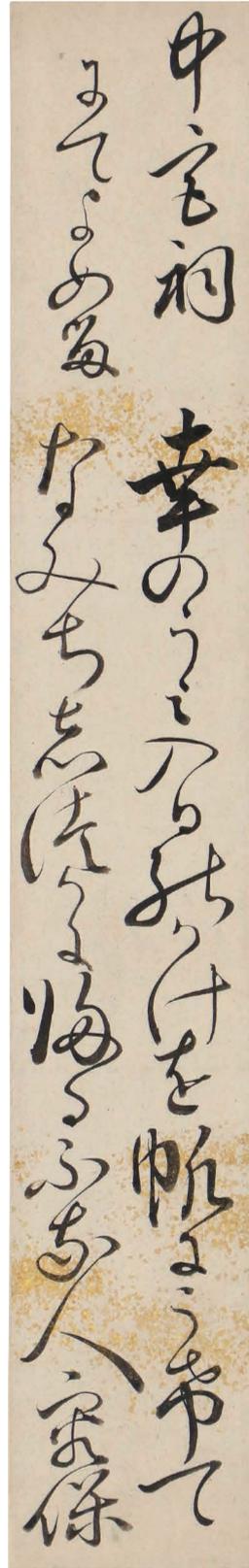
膽山之麓有靈泉傳曰 日本武尊當征賊時觸瘴毒一浴
頓解即名醒井土人浸其水製冰餅一嚼除病魔云為驛吏
江龍實房賦小詩附囑

徳川慶喜
一一三頁参照



144 松平容保 和歌短冊

紙本 箱入 本紙巾5.5×豎35 総丈巾37.5×豎140.5cm

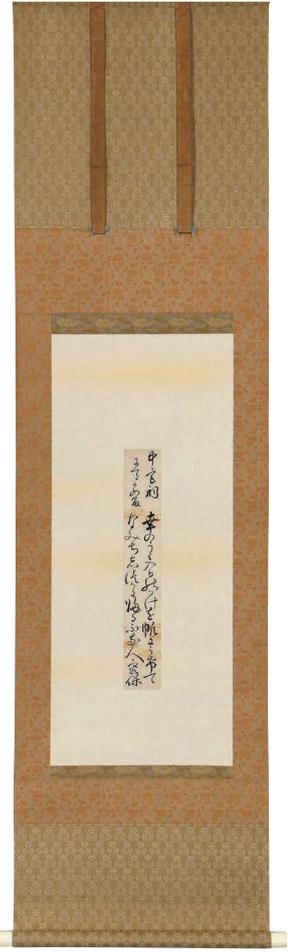


中宮祠 幸のうみ入日のかけを帆にうけて

にてよめる なみちしつかに帰るふな人 容保

六十五万円
(650,000JPY)

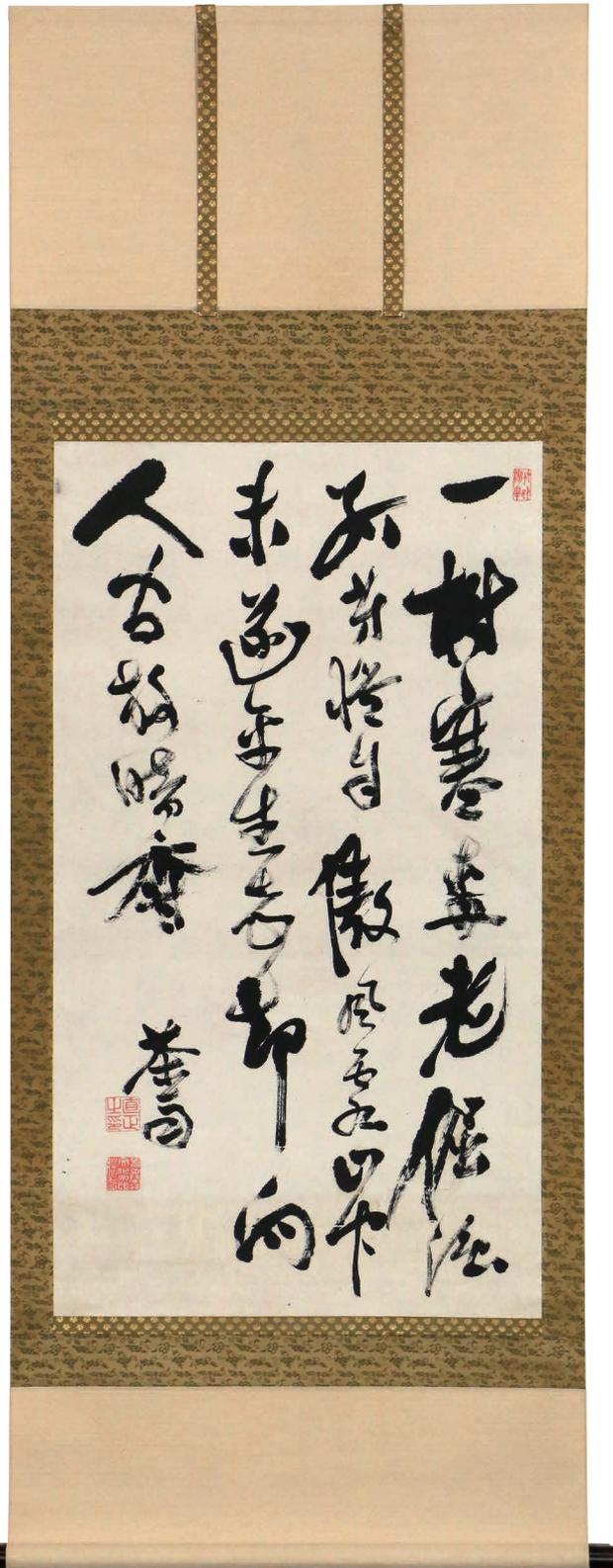
松平容保
一一四頁参照



六十五万円
(650,000JPY)

145 鍋島閑叟 梅花詩七絶四行

紙本 箱入 本紙巾60.5×縦109 総丈巾71.5×縦193.5cm 本紙修復痕



四十五万円
(450,000JPY)

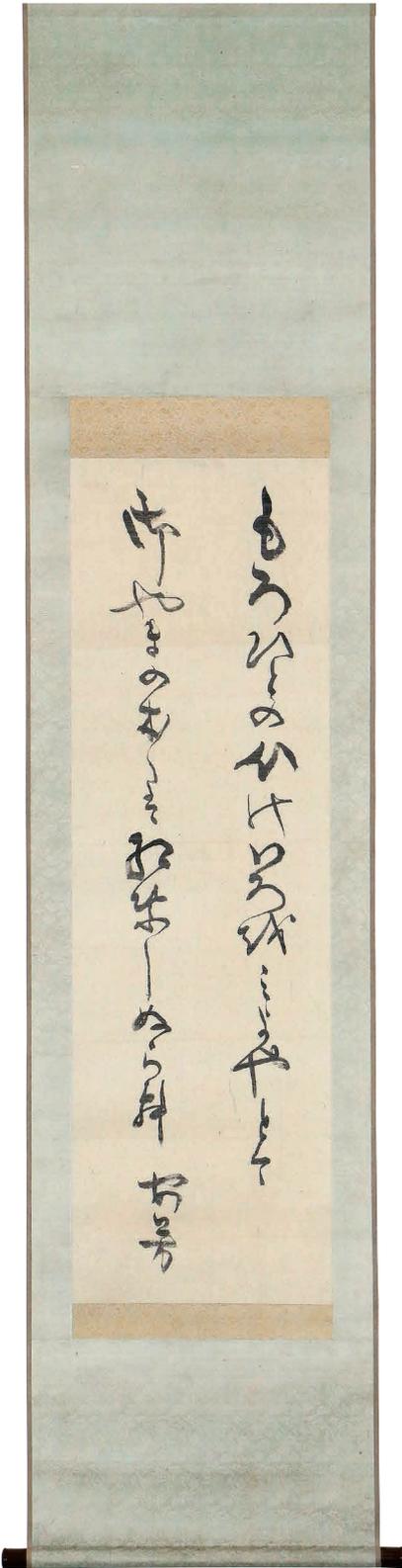
一樹寒梅老倔強
孤芳猶自傲風霜
山中未遂平生志
却向人間放暗香



鍋島閑叟
一一三頁参照

146 勝海舟 舟もろひとの和歌

絹本 箱入 本紙巾31.5×縦103 総丈巾42.5×縦190.5cm 本紙微少シミ



十二万円
(120,000JPY)

もろひとの心のいろをみよやとて
御やまのほたす紅葉しぬらむ



勝海舟
一〇九頁参照

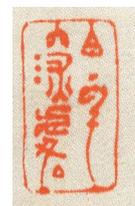
147 勝海舟 二行書

紙本 箱入 本紙巾40.5×豎134.5 総丈巾52.5×豎195 cm 少オレ



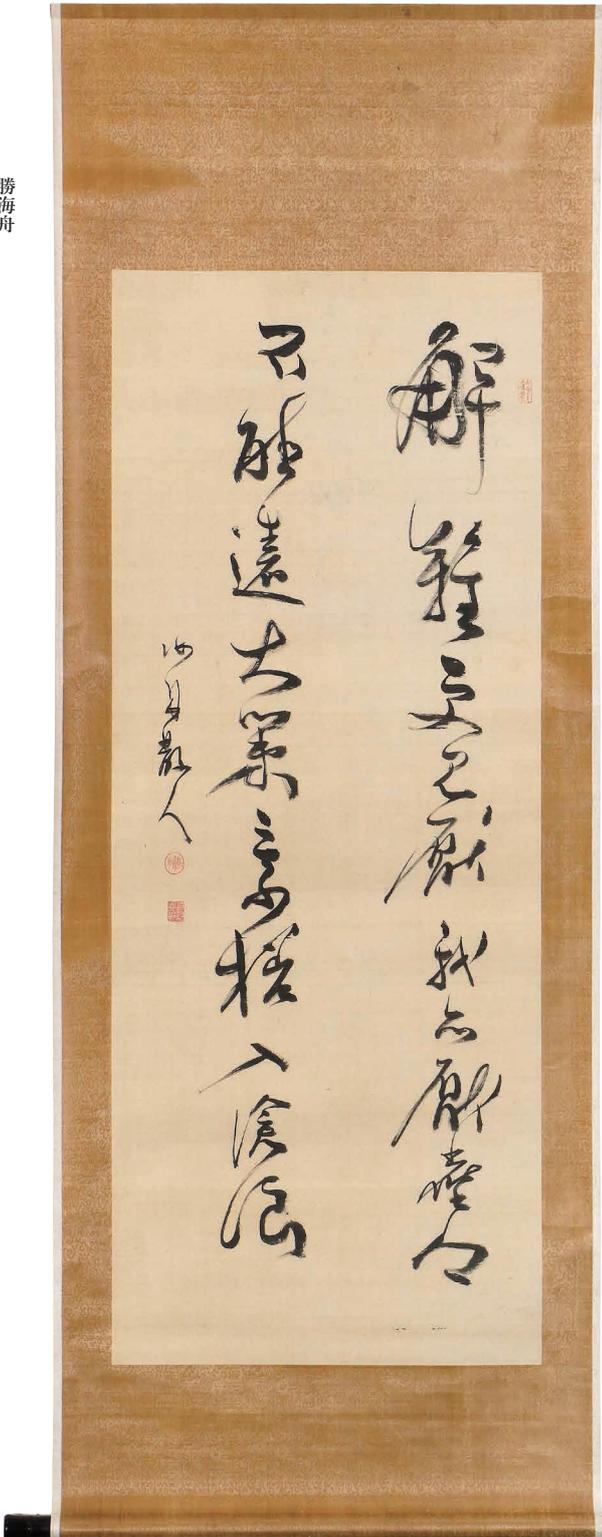
一枕脱無塵氣衍妨留
白雲郷 海舟

二十二万円
(220,000 JPY)



148 勝海舟 五絶二行

絹本 箱入 本紙巾52×豎133.5 総丈巾66.5×豎186.5 cm 表具微少オレ 本紙修復痕



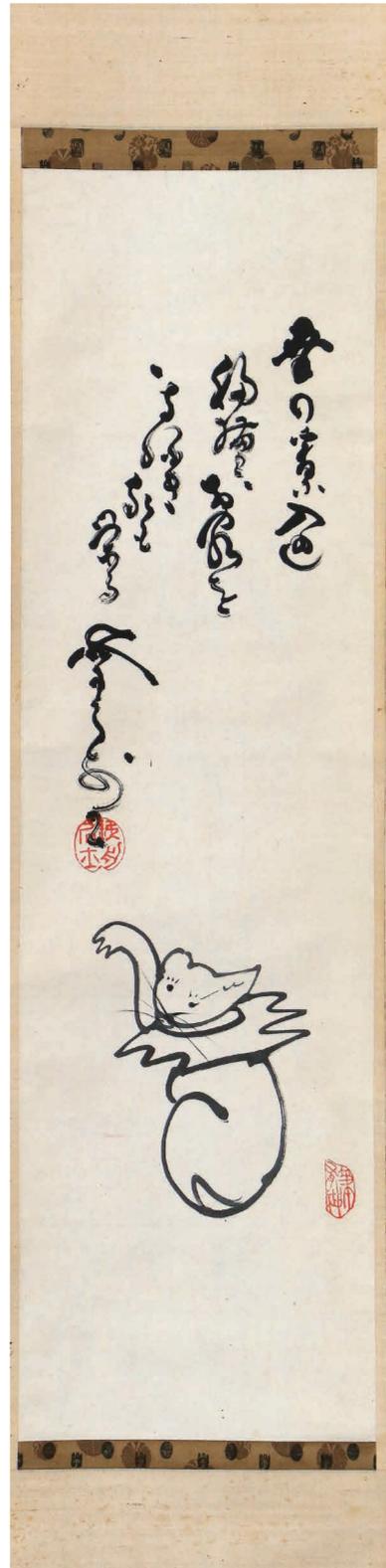
解離更見厭我亦厭塵々
不能遠大策乘槎入滄浪

十八万円
(180,000 JPY)



149 山岡鉄舟 猫画賛

紙本水墨 箱入 本紙巾31×縦111 総丈巾33.5×縦178 cm 本紙少シミ・微少オレ



幸のをる入廻
福猫はお客を
まねき家も
栄る

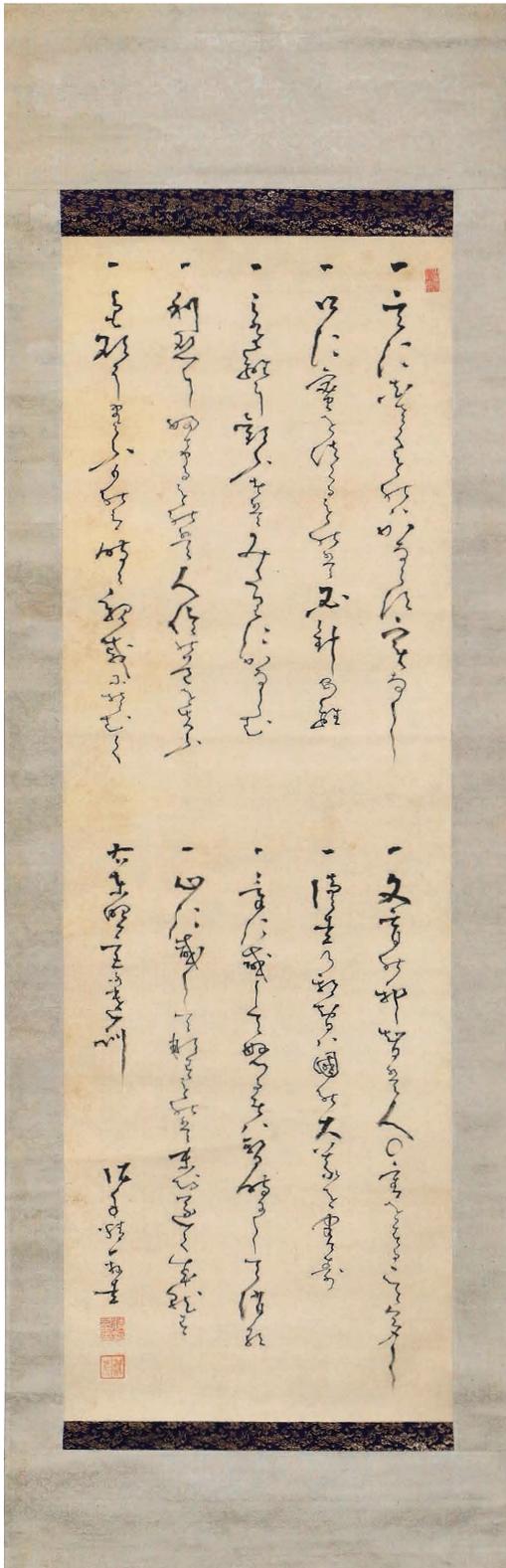


山岡鉄舟
一一五頁参照

二十五万円
(250,000JPY)

150 高橋泥舟 東照宮遺訓

絹本 箱入 本紙巾41×縦126 総丈巾54×縦184 cm 少シミ・少オレ



- 言に花さくものハかならず実なし
- 口に密をつくるものは必針あり
- ミたりに飲ふ者はみたりになしむ
- 利欲にふけるものは人倫の道を失ふ
- 色欲にまどふものは時に親戚にそむく
- 文盲の邪智ハ人の害をすること多し
- 読書の邪智ハ国の大義を害す
- 氣に感して始る者ハ暫時にして消る
- 心に感してなすものは未を遂て成就す

右東照宮御遺訓

三十八万円
(380,000JPY)





よの中ハとも
かくにもなりひさこ
かるき身にこそ
たのしみハあれ

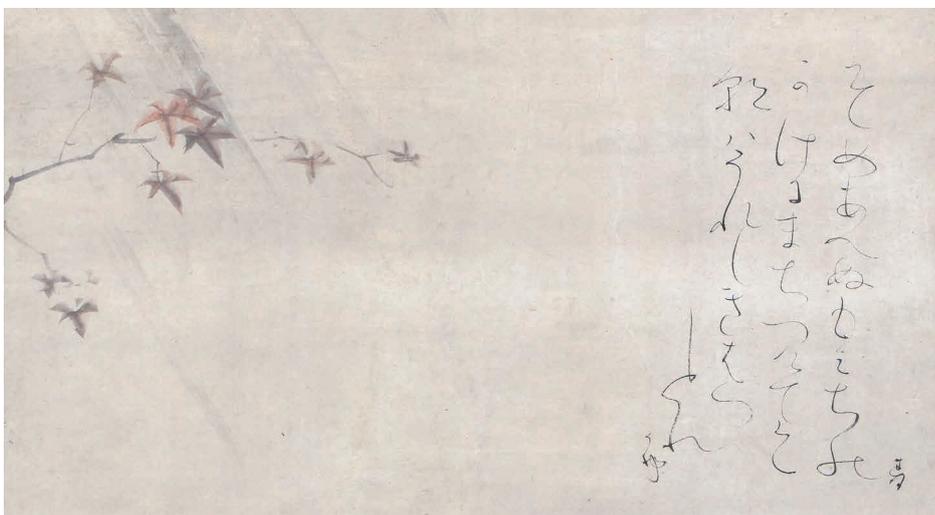
松平不味
一三四頁参照



151 松平不味 瓢和歌

紙本 箱入 本紙 巾17.5×縦27.5
総丈 巾35×縦100cm 少オレ
表具少シミ・少ヤケ 軸先微少傷ミ

三十八万円
(380,000JPY)



そめあへぬもみちの
かけにまちつけて今
朝ハうれしきはつ
しくれかな

152 大田垣蓮月 紅葉時雨画賛

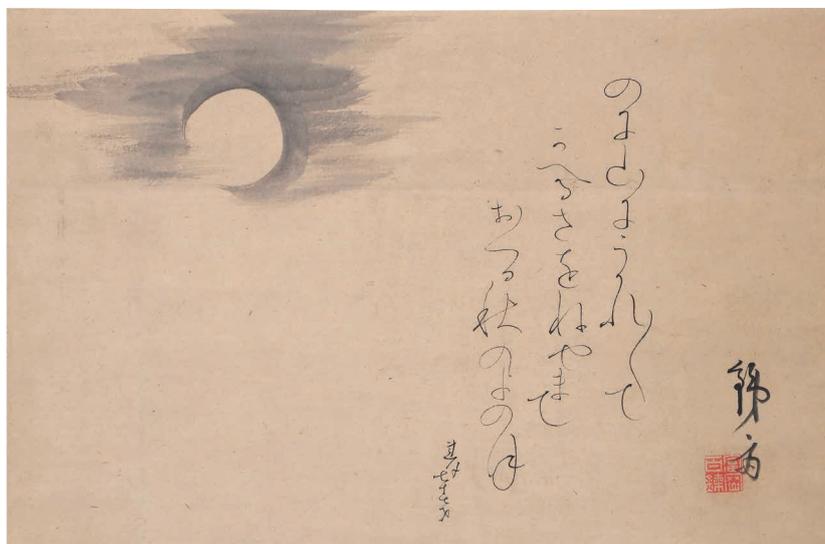
紙本着色 箱入 本紙 巾51×縦28.5 総丈 巾65.5×縦126.5cm 少シミ

十八万円
(180,000JPY)



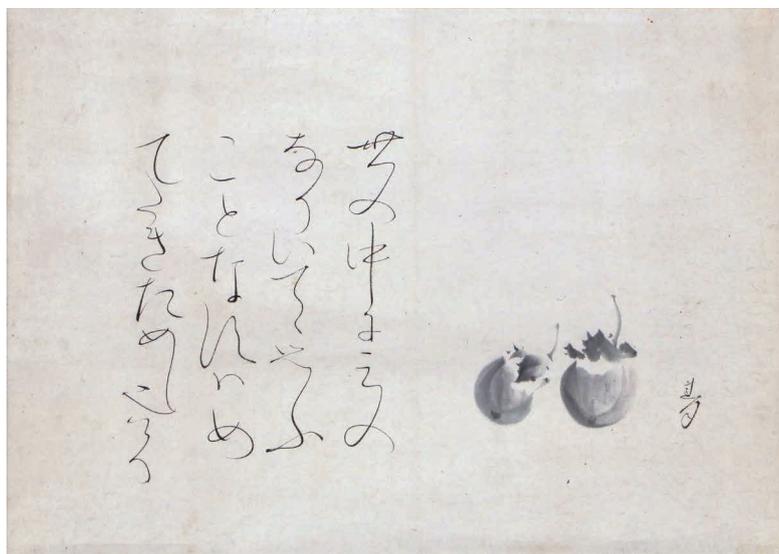


のに山にうかれくて
かへるさをねやまで
おくる秋のよの月



153 大田垣蓮月賛 富岡鉄斎画 月画賛

紙本水墨 箱入 本紙 巾49×縦33 総丈 巾52×縦135.5cm 三十八万円
(380,000JPY)
慶応3年(1867) 蓮月77歳 少オレ



154 大田垣蓮月 茄子画賛

紙本水墨 箱入 本紙 巾44.5×縦31.5
総丈 巾46.5×縦117.5cm 本紙少オレ

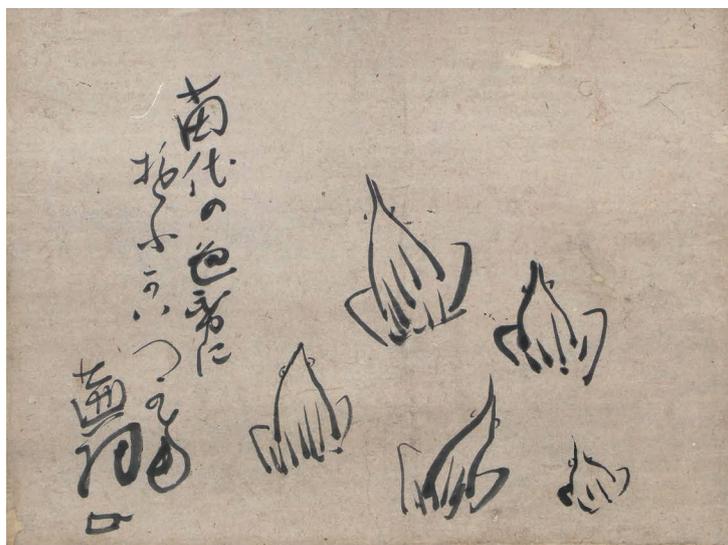
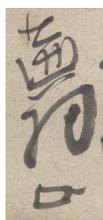
二十五万円
(250,000JPY)

世の中にミの
なりいて、思ふ
ことなすハメ
てきたためし也けり



大田垣蓮月
一〇九頁参照
富岡鉄斎
一一三頁参照
与謝蕪村
一一五頁参照

苗代の色昏に
遊ふかハつかな



155 与謝蕪村 蛙画賛

紙本水墨 箱入 本紙 巾26.5×縦20
総丈 巾52.5×縦129.5cm 本紙少傷ミ・修復痕 台紙オレ 九十五万円
(950,000JPY)

156 松永耳庵 古佛梅語

紙本 共箱 本紙巾24×豎136.5 総丈巾36×豎205 cm 本紙微少シミ 中村鶴心堂製表具



松永耳庵
一一四頁参照

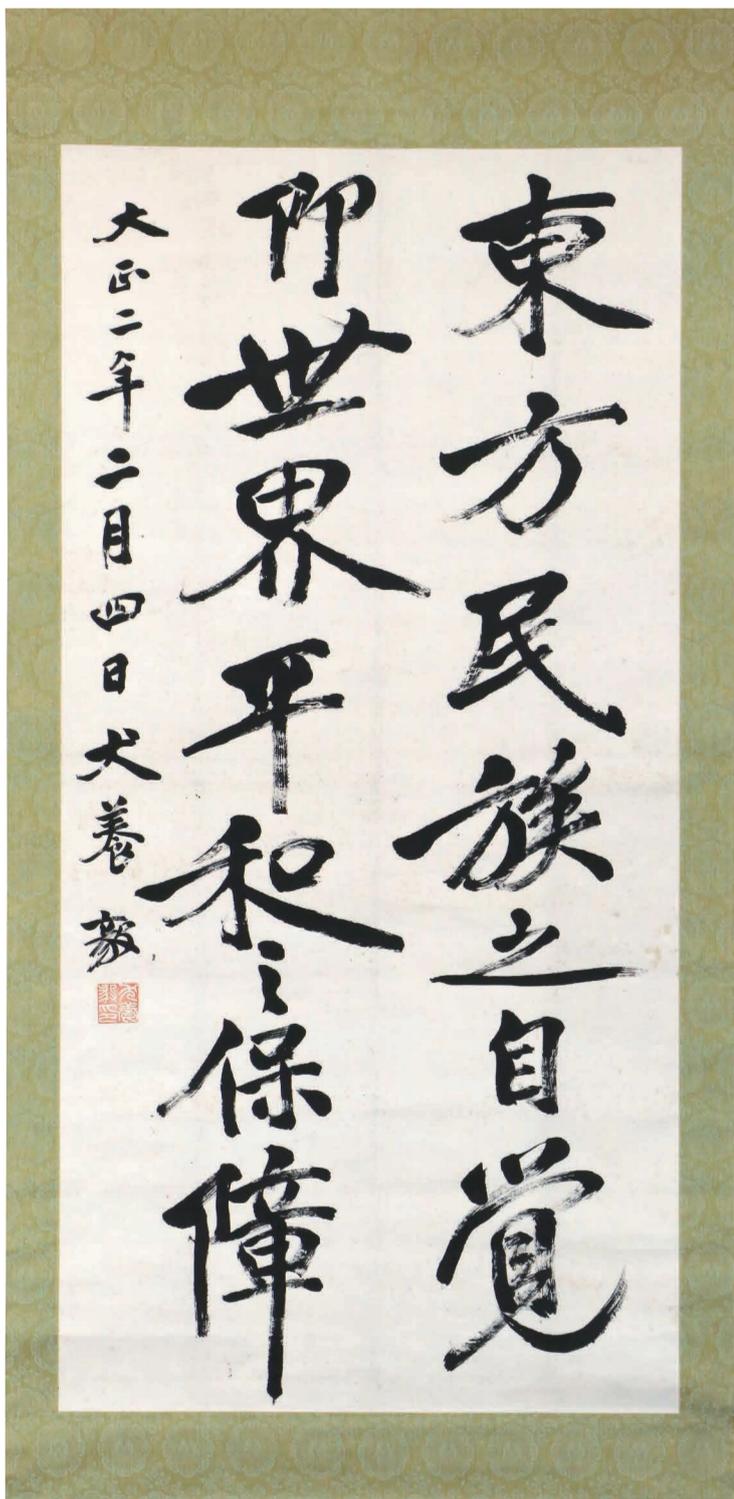
嗚哦老梅樹春來一花開
二三四五華 耳庵録古佛語



三十八万円
(380,000JPY)

157 犬養木堂 二行書全紙大幅

紙本 箱入 本紙巾74.5×豎174 総丈巾100×豎213 cm 大正二年 五九歳 本紙シミ・少オレ・少傷ミ



東方民族之自覚
即世界平和之保障

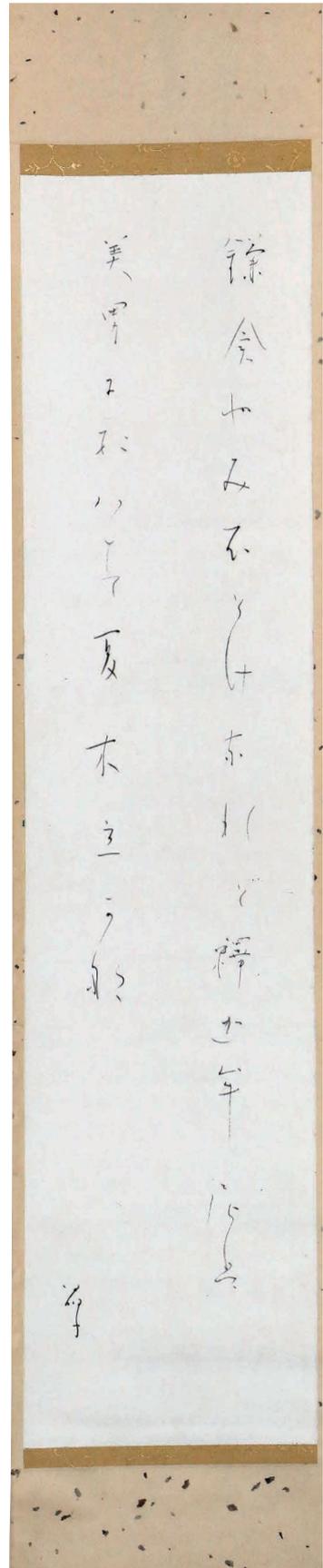


二十五万円
(250,000JPY)

犬養木堂
一〇八頁参照

158 与謝野晶子 鎌倉や名歌

紙本 箱入 本紙巾31.5×縦138 総丈巾35×縦200.5cm



鎌倉やみほとけなれど釈迦牟尼は
美男におハす夏木立かな

(380,000 JPY)
三十八万円

与謝野晶子
一一五頁参照



159 仙厓義梵 天王寺画賛

紙本水墨 箱入 本紙巾28×縦125 総丈巾39.5×縦177.5cm オレ・少汚レ



太子所建
祇孤獨園
何以為證
釋迦如来轉法輪所即
當極樂世界東門

太子所建
祇孤獨園
何以為證
釋迦如来轉法輪所即
當極樂世界東門

(450,000 JPY)
四十五万円

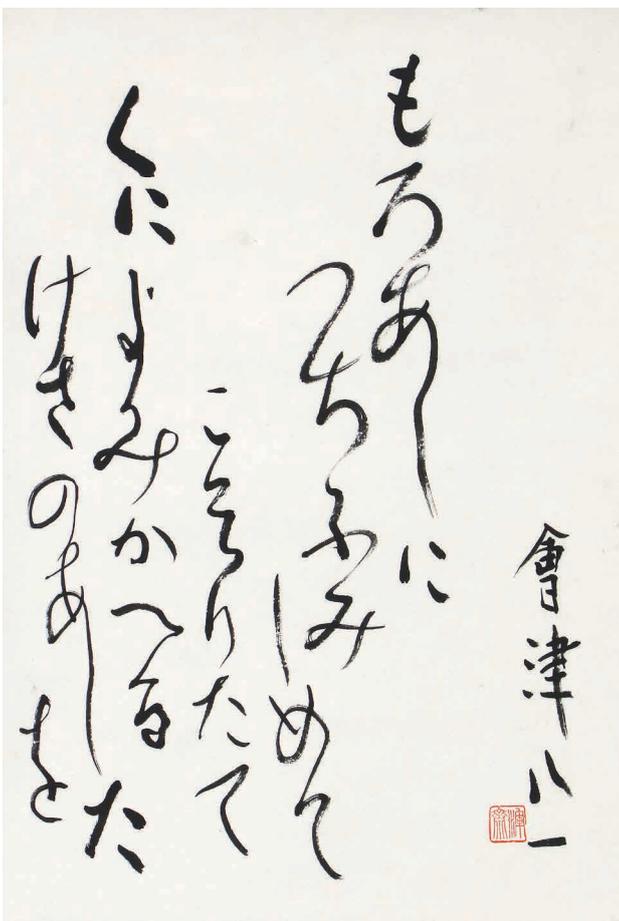
仙厓義梵
一一二頁参照



160 会津八一 自作和歌

紙本 宮川寅雄箱書
本紙巾31×縦45 総丈巾43×縦130.5cm

三十五万円
(350,000JPY)



もろあしに
うちふみしめて
こそりたて
くによみかへる
けさのあしたを



161 白井晟一 喝

紙本 箱入 本紙巾32.5×縦69.5 総丈巾44.5×縦135cm

二十五万円
(250,000JPY)



喝

与麼此
心一了



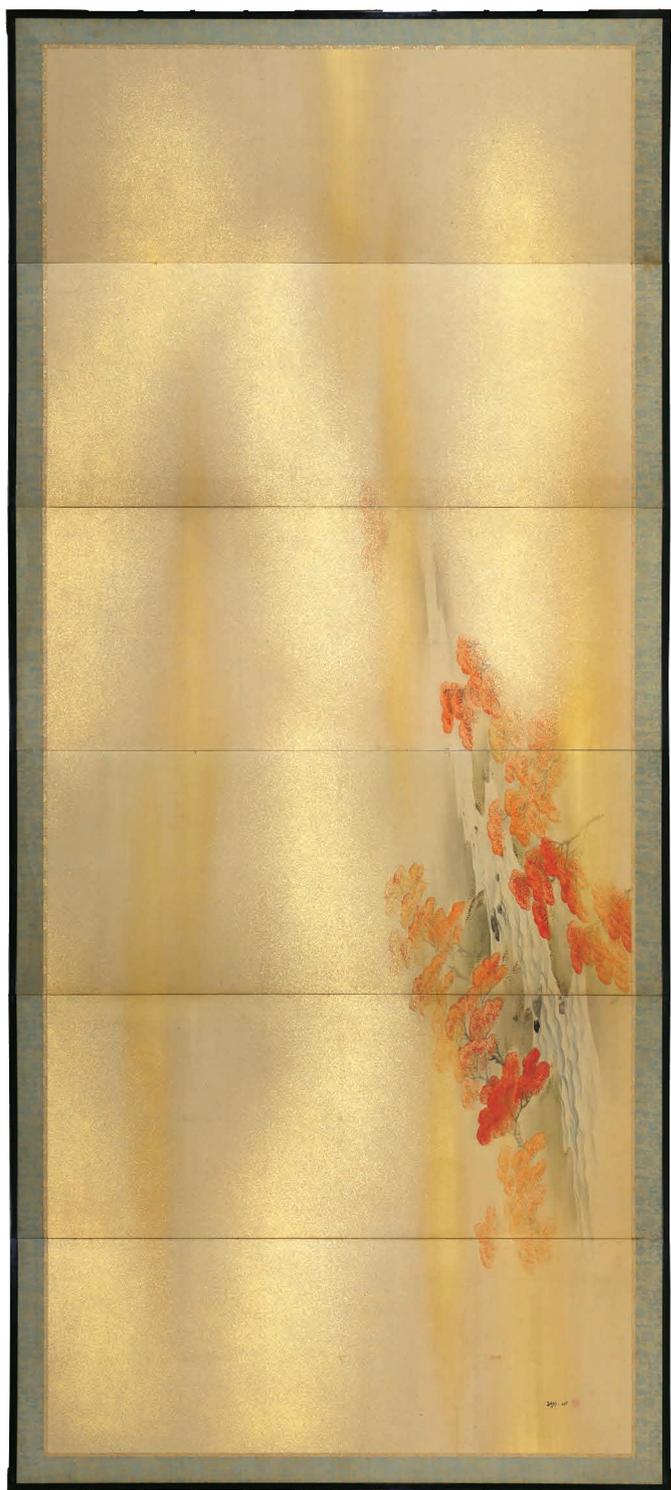
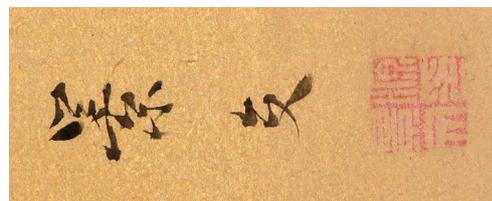
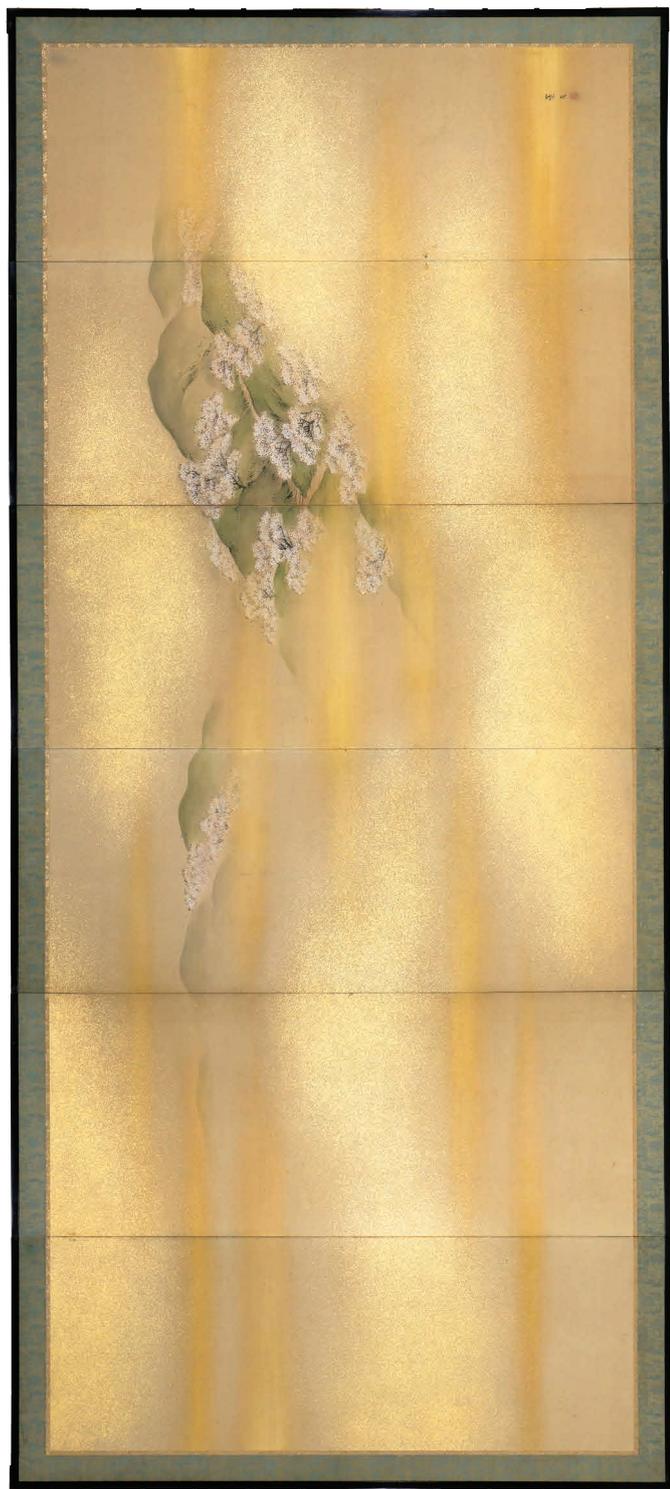
会津八一
一〇八頁参照
宮川寅雄
一一四頁参照
白井晟一
一一二頁参照

162 松村景文 吉野龍田図屏風六曲一双中屏風

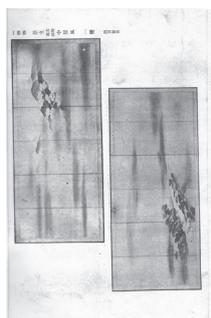
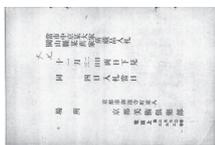
紙本着色金泥金砂子 箱入 本紙各巾270×縦109.5 総丈各巾285×縦125cm 少シミ・微少傷

『當市中京某大家岡山縣某舊家所藏品入札』目録（大正七年十一月）並『古画総覧』所載

五十五万
(550,000円)



『當市中京某大家岡山縣某舊家所藏品入札』



松村景文
一四頁参照



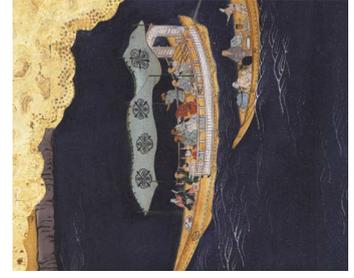
163 江戸中期 巖島春秋参詣図屏風 六曲一双

紙本着色金泥箔金砂子

本紙 各 巾359× 縦156.5 総丈 各 巾376× 縦173cm

本紙修復痕 稀品

百五十万 円
(1,500,000JPY)





小村大雲 猛虎図屏風 二曲一双

絹本着色 本紙各巾167×竪143 総丈各巾186×竪162 cm 本紙シヰ・少傷シヰ・修復痕 若年作

二百五十万
(2,500,000円)





小村大畫
一〇九頁參照

望月玉溪
一一五頁参照



165 望月玉溪 淀川曳船之図屏風 二曲一双

紙本着色金泥 共箱 本紙各巾148×豎141.5
総丈各巾151×豎145.5cm



四十五万円
(450,000JPY)

古部解初仙甲



166 渡部解古 松下孔雀図屏風 四曲半双

紙本着色金泥金砂子 本紙 巾254×縦170.5

総丈 巾258×縦174.5cm 明治37年 63歳 裏少傷ミ

三十八万円
(380,000JPY)

渡部解古
115頁参照

167 平 櫛 田 中 福聚大黒天尊像

木彫彩色金泥 共箱 直径7.5×高6.5cm 昭和三七年 九二歳

百五十万
(1,500,000 JPY) 円



平櫛田中
一一四頁参照





河井寛次郎
一〇八頁参照

168 河井寛次郎 碗泥描

共箱 口径11×高10.5cm

七十五万円
(750,000JPY)

今村繁子
一〇八頁参照



169 今村繁子 お竹大日如来

平柳田中箱書 共箱
(人形) 巾9×高23×奥行8.5 (台座) 巾21.5×高3×奥行15.5
少傷ミ・微少シミ 台座にサイン有

二十万円
(200,000JPY)





170 時代蒔絵小篭

箱入 巾7.5×高5.5×奥行8.5cm

十二万円
(120,000JPY)



171 江戸切子四ツ組 チョク

箱入 (極小) 口径4×高1.5・
(小) 口径5×高2・
(中) 口径5.5×高2・
(大) 口径6.5×高2.5cm

十五万円
(150,000JPY)



172 小山富士夫 絵唐津盃

共箱 口径7.5×高5.5cm

十二万円
(120,000JPY)

小山富士夫
111頁参照



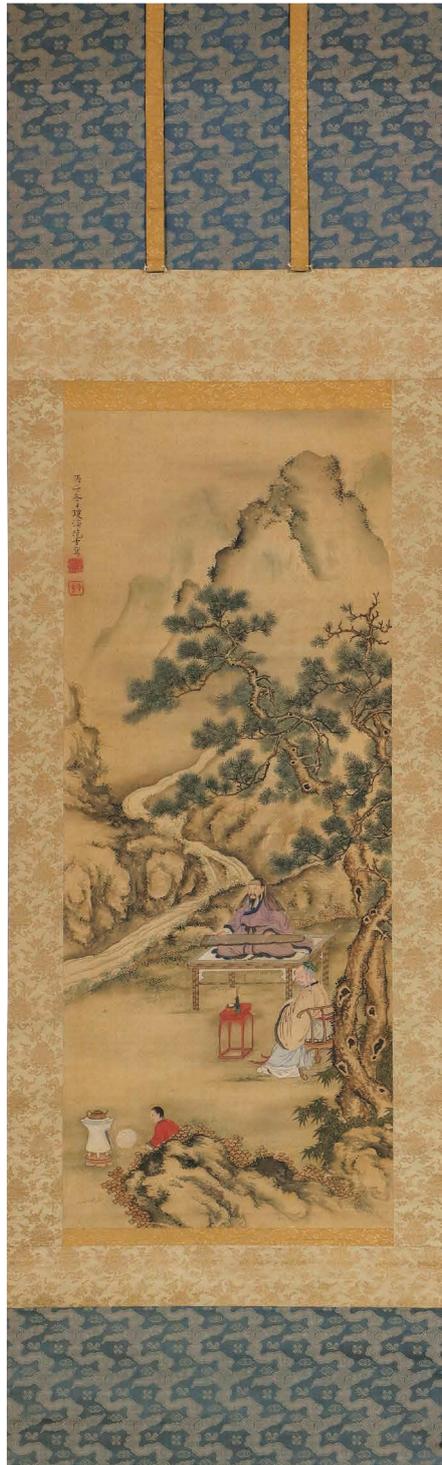


金子金陵
一〇九頁参照



174 金子金陵 猿猴戲蜂圖

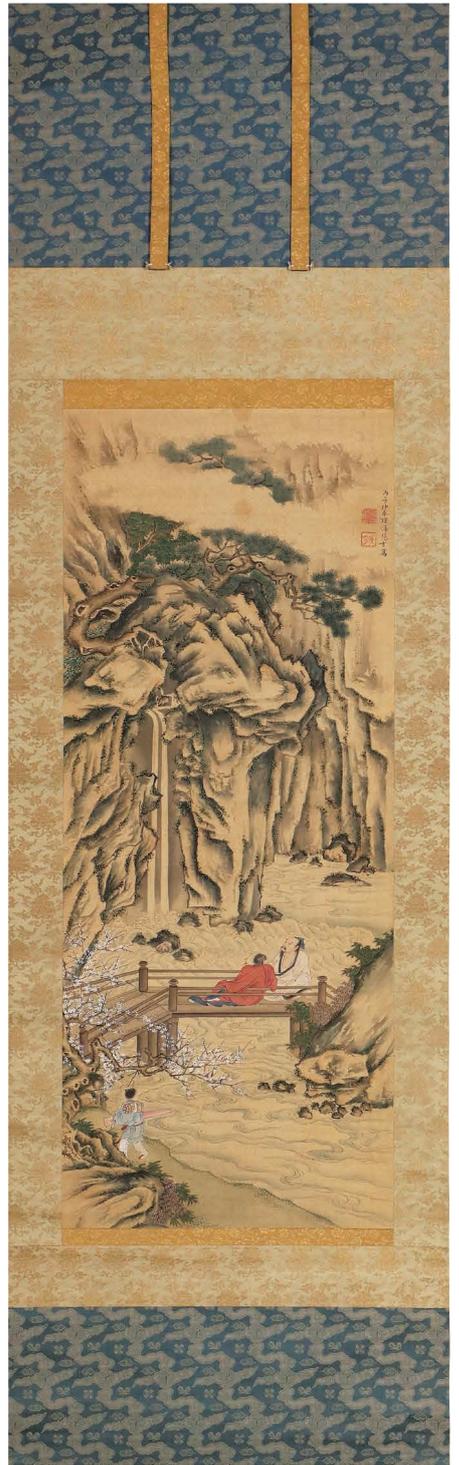
絹本着色 箱入
本紙 巾41.5×豎110.5
総丈 巾53×豎197cm
三十八万円
(380,000 JPY)



勝野范古
一〇九頁参照



丙子仲春瓊浦范古寫



173 勝野范古
高士觀瀑圖 松下彈琴圖 双幅

絹本着色 箱入
本紙 各巾41×豎101
総丈 各巾55×豎198.5cm
宝曆六年(二七五六) 本紙少シミ
五十五万円
(550,000 JPY)



176 菊池容齋 船上山行幸之図 双幅

絹本着色金泥 松本楓湖箱書 二重箱入
 本紙 各巾48.5×縦125
 総丈 各巾60.5×縦207cm
 表具少傷ミ・微少虫穴
 本紙少シミ・少剥落

菊池容齋 松本楓湖
 110頁参照 114頁参照



175 塩川文麟・中島来章・
 長谷川玉峰 嵐峡 三幅対

絹本着色 箱入 本紙 (中) 巾55×縦122・
 (左右) 巾50×縦122
 総丈 (中) 巾67×縦203・
 (左右) 巾62.5×縦202cm
 表具少傷ミ 本紙少オレ

塩川文麟 中島来章 長谷川玉峰
 111頁参照 113頁参照 113頁参照

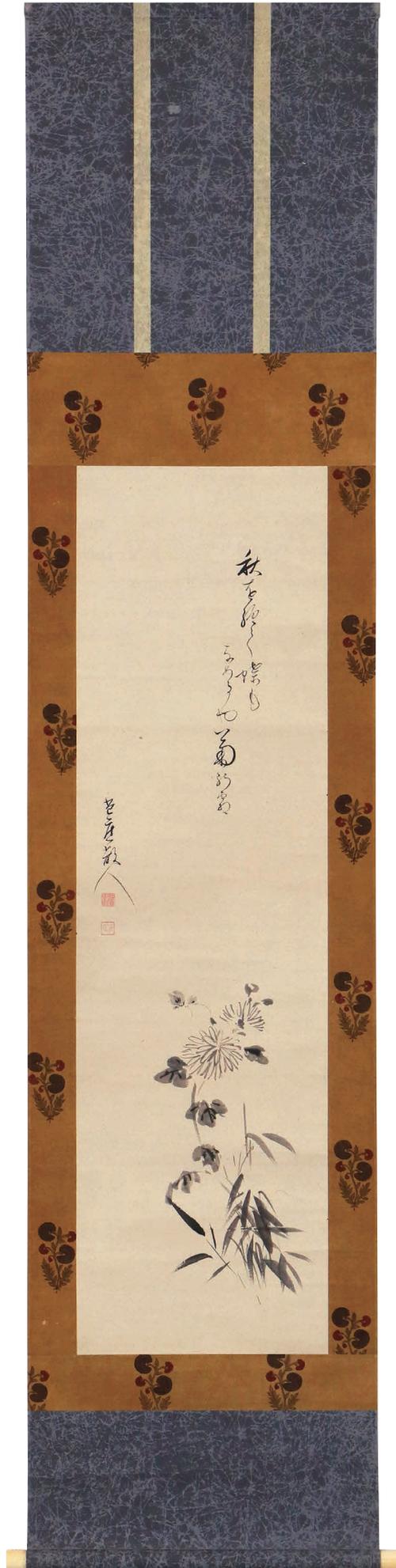


177 松尾芭蕉 菊画賛

紙本水墨 箱入 本紙巾28×縦99 総丈巾39×縦176cm 本紙微少オレ 大倉好斎極

(二百五十万円
2,500,000 JPY)

秋を経て蝶も
なめるや菊の露



松尾芭蕉 大倉好斎
一一四頁参照 一〇八頁参照



壬申佛誕日平安逆旅
寫此遣興時積雨初晴
微風送暖與畫中景正相
背也藥菴先生并記

178 板垣退助 松樹山水図

紙本水墨 箱入 本紙巾65.5×豎134
總丈巾68×豎196cm
明治五年 三六歳 表具少虫穴

四十五万円
(450,000JPY)

壬申佛誕日平安逆旅
寫此遣興時積雨初晴
微風送暖與畫中景正相
背也藥菴先生并記

板垣退助
一〇八頁参照



藥菴先生并記

179 頼山陽 詩画 双幅

紙本水墨 村田香谷箱書 二重箱入
本紙(画)巾39×豎119・(書)巾39×豎117
總丈各巾55.5×豎200.5cm

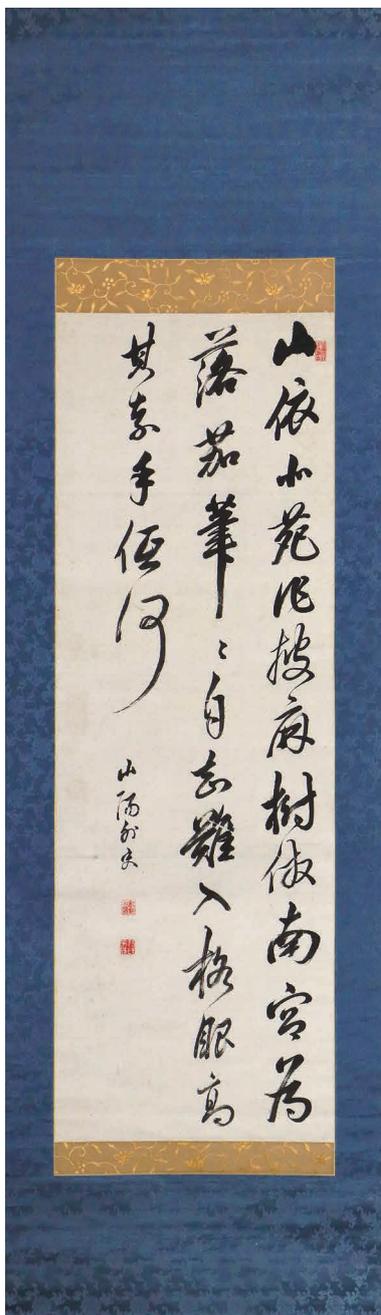
文政元年(一八一八)三九歳
本紙微少シミ・オレ・修復痕 箱少傷ミ

『日下部鳴鶴翁遺愛品入札』目録(大正十一年五月)所載
日下部鳴鶴旧蔵
五十五万円
(550,000JPY)

『日下部鳴鶴翁遺愛品入札』目録



頼山陽 一・一五頁参照
村田香谷 一・一五頁参照
日下部鳴鶴 一・一〇頁参照

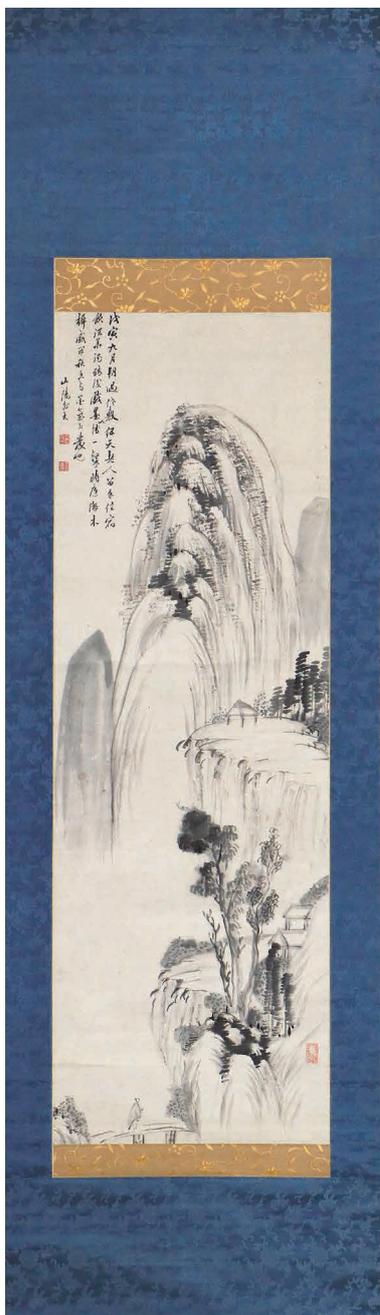


山依小苑作披麻樹做南宮為
落茄筆、自知難入椽眼高
其存手低何

山依小苑

戊寅九月朝過佐敷緑天老人留禾信宿
飲沼華濁醉後戲墨以楮一粲時庭際木
樨感開秋香与墨氣相發也

山依小苑作披麻樹做南宮為
落茄筆、自知難入椽眼高
其存手低何



戊寅九月朝過佐敷緑天老人留禾信宿
飲沼華濁醉後戲墨以楮一粲時庭際木
樨感開秋香与墨氣相發也

山元春拳 白狐図 大幅

絹本着色 川村曼舟箱書 本紙巾 69.5 × 縦 134 総丈巾 86.5 × 縦 226.5 cm

(百二十万 円)
1,200,000 JPY



山元春拳 川村曼舟
一一五頁参照 一一〇頁参照

181 鐫木清方 摘草

絹本着色金泥 共箱 二重箱入 本紙巾41×豎110.5 総丈巾55×豎204.5cm 本紙微少シミ



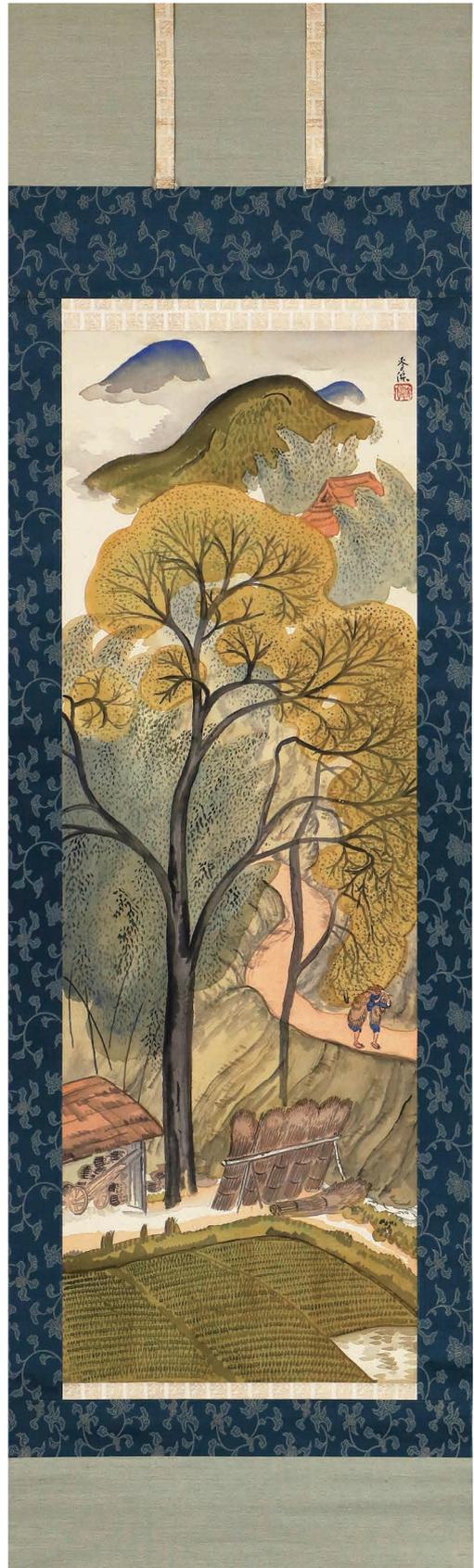
鐫木清方
一一〇頁参照



(百二十万
円)
1,200,000 JPY

182 土田麦僊 雨後圖

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾43×豎128 総丈巾56.5×豎207.5cm 大正期



土田麦僊
一一二頁参照

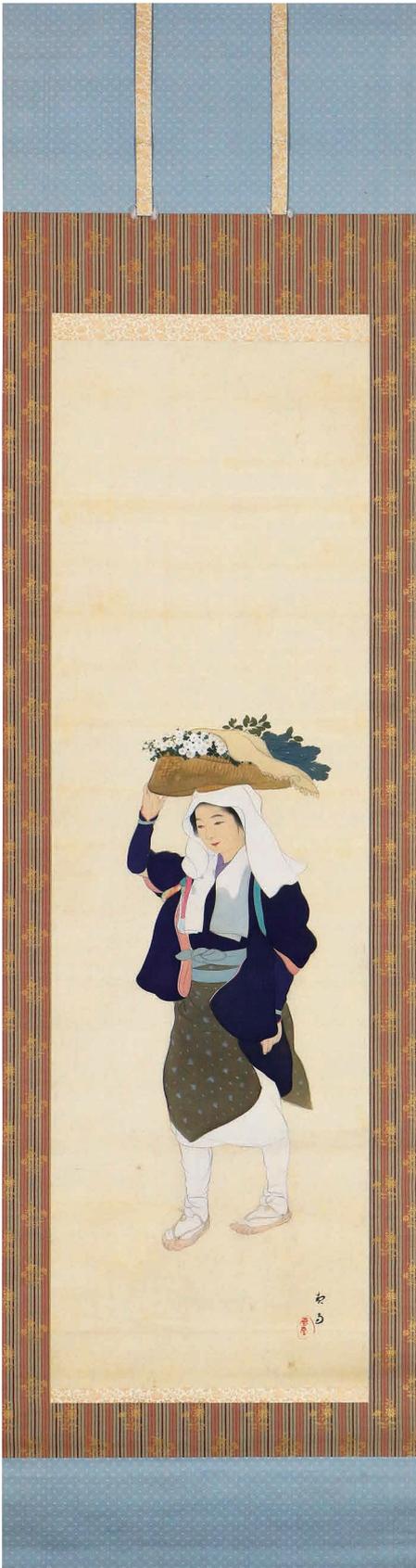
雨後圖



(950,000 JPY) 九十五万円

183 菊池契月 花売女

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙巾42.5×豎141.5 総丈巾56×豎232cm 本紙少シミ



菊池契月
一一〇頁参照

花売女



(750,000 JPY) 七十五万円



184 横山大観 耀く日本

絹本着色 共箱 二重箱入 本紙 巾44.5×縦27.5 総丈巾59×縦128 cm
 横山大観記念館 鑑定登録番号 を第17号 寺内遊神堂製表具

二千万円
 (20,000,000 JPY)



横山大観
 一一五頁参照



横山大観記念館鑑定登録

を第17号



作家略歴

会津八一 あいづやいち

明治、昭和の歌人・書家・美術史家。新潟生。号は秋岫道人、渾斎。東洋美術史を研究し、早稲田大学教授を務める。『会津八一全歌集』で読売文学賞受賞著書に『鹿鳴集』等がある。書家としても独自の境地を開いた。早稲田大学名誉教授・新潟市名誉市民。昭和三十一年（一九五八）歿、七五歳。

塾で洋画を学ぶが、のち日本画に転向、竹内栖鳳の竹杖会に入門する。富田溪仙の影響を受けた鳥瞰図法による明るい色彩の風景画で独自の画境を開く。上村松篁らと水明会を、浜田観らと葱青社を結成、また画塾青塔社を主催し後進の育成にあたる。新文展・日展審査員を歴任。日展顧問・芸術院会員。文化功労者。文化勲章受章。昭和六三年（一九八八）歿、九三歳。

浅井柳塘 あさいりゅうとう

幕末、明治の南画家。阿波生。幼名は永吉、名は龍、字は子祥、別号に小白、白山人、拜竹道人、白雲山客、雲客蘇雲など。はじめ百々広年に四条派を学び、ついで谷口鶴山に南画を、貫名海屋に教えを受けた。のち長崎に遊学して木下逸雲、鉄翁、清人、徐雨亭らに山水画を学んだ。明治六年（一八七三）の京都博覧会では席上揮毫に参加している。明治十三年京都府画学校出仕拝命。詩文、書も能くした。明治四〇年（一九〇七）歿、六六歳。

石川有鄰 いしこう（いしこ）ゆうりん
日本画家。名古屋生。名は正徳。別号に両鶴軒、千石斎、園田忠監、織田杏齋に、のち山元春挙に師事した。内国勸業博覧会や絵画共進会などで受賞を重ねた。昭和二十七年（一九五二）歿、八二歳。

井伊直弼 いいなおすけ

幕末の大老。近江彦根藩第十五代藩主。幼名は鉄之介、のち鉄三郎。字は応卿。諱は直弼。号に无根水・埋木舎・柳王舎・雲竜・樹露軒など。安政五年（一八五八）大老に就任。將軍継嗣問題では一橋派を排して紀州和歌山藩主徳川慶福を十四代將軍に迎えた。勅許を待たずに日米修好通商条約を締結し、安政の大獄を断行して反対勢力を肅清した。ことにより、水戸・薩摩の浪士らに暗殺された（桜田門外の変）。万延元年（一八六〇）歿、四六歳。

板垣退助 いたがきたいすけ
政治家。土佐生。高知藩士米六正成の長男。旧姓は乾。名は正形。幕末期に討幕派に投じ、戊辰戦争に参加、のち明治維新政府の参謀となる。自由民権運動の先駆けとなり、自由党を創設した。第一次大隈内閣の内相を務め、晩年は社会事業に尽力した。大正八年（一九一九）歿、八三歳。

池上秀敏 いけがみしゅうほ

日本画家。長野県生。本名は国三郎、別号伝神洞。絵を嗜む趣味人の祖父・父の元育つ。荒木寛敏に師事、弟子の中心となる。文展・帝展で活躍。伝神洞画塾主宰、後進指導にも力を入れた。帝展委員・審査員。昭和十一年（一九四四）歿、七〇歳。

伊藤若冲 いとうじやくちゆう
江戸中期の画家。京都錦小路の青物問屋に生まれる。字は景和、斗米庵とも号す。幼少より画を好み、初め狩野派に学びのち宋元画の模写に励む。花鳥画、殊に鶏画を得意とし、飼育する鶏を熟視し描いたという。絵を求める人があれば米一斗をもつてこれに熟れたため、斗米庵と号したと伝わる。現在宮内庁で保存されている「動植綵絵」三十幅は代表作。寛政十二年（一八〇〇）歿、八五歳。

池田蕉園 いけだしょうえん

日本画家。東京生。日本画家池田輝方の妻。名は百合子、旧姓は禰原。水野年方・川合玉堂に師事する。文展等諸種の展覧会に出品、多くの賞を得る。鳥合会会員。大正六年（一九一七）歿、三三歳。

伊藤小坡 いとうしょうは
明治、昭和の日本画家。三重県度会郡宇治浦田町生。名は佐登。日本画家伊藤鷲城の妻、伊勢猿田彦神社の宮司の長女として生まれる。磯部百鱗、森川曾文、谷口香嶠に師事。香嶠の歿後は竹内栖鳳主宰の竹杖会に入る。主に文展などで入選を重ね、貞明皇后の御前に揮毫を行うなど、上村松園に次ぐ女性画家として京都を中心に活躍した。歴史風俗画、美人画を得意とする。昭和四三年（一九六八）歿、九二歳。

池田輝方 いけだてるかた

日本画家。東京木挽町生。名は正四郎。妻は同じく日本画家の池田蕉園。水野年方について浮世絵を学び、師の歿後は川合玉堂に師事した。美人画、風俗画を得意とし、鑄木清方、大野静方らと鳥合会を結成。初期日本美術院展、文展、帝展を場として活躍した。のち大正八年には石井林響、山内多門らと如水会を結成して活躍。妻蕉園とともに文展の篤篤画家とされた。大正一〇年（一九二二）歿、三九歳。

犬養木堂 いぬかいぼくどう
政治家。岡山県生。名は毅。立憲改進黨の結成に参加。憲政擁護を掲げ、「憲政の神様」と呼ばれる。立憲国民党総裁、革新俱樂部総裁、立憲政友会総裁、文部大臣、通信大臣等を歴任し、昭和六年に内閣総理大臣となるが、翌昭和七年（一九三二）、五一五事件にて命を落とした。七八歳。

池田道夫 いけだみちお

日本画家。京都生。池田遙郎の長男。京都市立絵画専門学校卒。日展を中心に活動し、岡山大学非常勤講師も務めた。父の死後、父が主宰した日本画塾青塔社を引き継いで後進の指導にあたった。令和四年（二〇二二）歿、九六歳。

今尾景年 いまおけいねん
日本画家。京都生。名は永勳、字は子裕、景年は号、別号に聊自楽居。初め浮世絵師梅川東居に師事、のち鈴木百年に四条円山派を学ぶ。花鳥画を得意とし国内外の博覧会で多数受賞するなど高い評価を得た。帝室技芸員・文展審査員・帝國美術院会員。大正一三年（一九二四）歿、八〇歳。

池田遙郎 いけだようろう

日本画家。岡山県生。名は昇一。京都絵専卒。初め松原三五郎の天彩画

今村繁子 いまむらしげこ
昭和期の人形作家。市橋とし子の師。戦時は長野県小布施に疎開した。入江為守

大倉好斎 おおくらこうさい

江戸後期の古筆鑑定家。京都生。大倉汲水の長男。姓は菅原、名は信古、号に古昔園。紀州徳川家に仕えた。嘉永四年（一八五二）法橋に叙せられる。文久二年（一八六三）歿、六八歳。

入江波光 いりえはこう
日本画家。京都生。本名は幾治郎。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で竹内栖鳳に師事。菊池契月らと共に欧州を遊学。卒業後、国画創作協会に所属し、同人となる。同会解散後に京都絵専教授を務め、法隆寺壁画の模写に従事した。昭和十三年（一九四八）歿、六一歳。

大倉汲水 おおくらきゅうすい

古筆鑑定家。京都生。姓は菅原、字は実福、俗称大倉治兵衛。初め了恵と号し、のちに汲水。別号に尚古昔斎。古筆了意門下。同じく古筆鑑定家で光琳風の画を描いた大倉是誰の子。自身も光琳風の画を描いた。長男に大倉好斎がいる。文政八年（一八二五）歿、六三歳。

上島鳳山 うえしまほうざん
日本画家。岡山県生。本名は辻寿治郎。辻鳳山は祖父にあたる。はじめ木村貫山、のち西山完英・渡辺祥益に師事する。大阪に住し、人物・花鳥・動物画を能くした。能や狂言など古典芸能に精通した風俗画も多く手掛けた。大正九年（一九二〇）歿、四五歳。

大倉好斎 おおくらこうさい

江戸後期の古筆鑑定家。京都生。大倉汲水の長男。姓は菅原、名は信古、号に古昔園。紀州徳川家に仕えた。嘉永四年（一八五二）法橋に叙せられる。文久二年（一八六三）歿、六八歳。

浮田一蕙 うきたいつけい
江戸後期の画家。京都生。姓は豊臣、初名は公信、のち可為、号は為牛。画を土佐光宇・田中訥言に学び、大和絵の復興につとめた。和歌や書道にも通じた。安政の大獄の際に捕らえられ、翌年釈放後に歿した。安政六年（一八五九）歿、六五歳。

浦上玉堂 うらかみぎょくどう

江戸後期の文人画家。備前生。名は孝淵、字は君輔、玉堂は号、通称兵右衛門。春琴は子。岡山藩に仕える。若年より詩文に親しみ、のち脱藩、琴を携えて子とともに遊歴、田能村竹田・木村兼葭堂・谷文晁・岡田米山人ら当代の文人たちと交わる。晩年は京都に定住。気韻あふれる自由奔放な山水を描く。文政三年（一八二〇）歿、七六歳。

黄檗来鳳 おうばくらいほう
江戸中、後期の黄檗宗の僧。道号は弥峰、法諱は円基、号は来鳳、別号に墨畑・山陽山人等。福濟寺の大鵬正観に師事し、のち福濟寺十三監寺に就任。大鵬に墨画を学び、墨竹画を能くした。文化一四年（一八一七）歿、八八歳。

大倉汲水 おおくらきゅうすい

古筆鑑定家。京都生。姓は菅原、字は実福、俗称大倉治兵衛。初め了恵と号し、のちに汲水。別号に尚古昔斎。古筆了意門下。同じく古筆鑑定家で光琳風の画を描いた大倉是誰の子。自身も光琳風の画を描いた。長男に大倉好斎がいる。文政八年（一八二五）歿、六三歳。

今村繁子 いまむらしげこ
昭和期の人形作家。市橋とし子の師。戦時は長野県小布施に疎開した。入江為守

*五十音順で掲載しております。
*作家名の下の番号は本目録の作品番号です。

大田垣運月 おおたがきれんげつ 152 154

幕末、明治の歌人。京都生。名は誠。伊賀上野城代家老職藤堂新七郎良聖の庶子といわれ、生後すぐ京都知恩院の寺士大田垣伴左衛門光古の養女となる。丹波亀山城主松平家に奉公。歌道を千種有功に学び、武芸にも長じた。夫との死別を経て剃髪し、蓮月尼と称し、須領・茶碗などを焼いて生計を立てた。その自作和歌を書きつけた陶器は「蓮月焼」と称される。富岡鉄斎は、蓮月尼老年の侍童であり、頼三樹三郎、梁川星巖、梅田雲浜や維新志士とも交流があった。明治八年（一八七五）歿、八五歳。

大谷句仏 おおたにくぶつ 134

浄土真宗の僧・俳人。東本願寺二十三世。京都生。二十二世現如上人の次男。諱は河演。法名は釈彰如。書を杉山三郊、画を幸野棟嶺、竹内栖鳳、俳句を河東碧梧桐等に学んだ。文化人らと幅広い交遊をもつたことと知られる。著書に『夢の跡』、『句仏句集』などがある。昭和一八年（一九四三）歿、六八歳。

大原吞舟 おおはらとんしゅう 16

江戸後期の絵師。阿波生。名は鯤。別号に崑崙、鯤輪。大原吞響の養子。京都で四条派の柴田義童に学び、山水や人物を能くした。安政四年（一八五七）歿、六六歳。

岡本秋暉 おかもとしゅうき 33

江戸後期の絵師。江戸生。名は隆仙。字は柏樹。通称は祐之丞。別号に秋翁。小田原藩主大久保家につかえた。はじめ画を大西圭斎に、のち渡辺華山に学ぶ。写実的な花鳥画を得意とし、屏風・障壁画など小田原城や藩主の家の様々な調度品を描いた。特にその孔雀画が高く評価され、「秋暉の孔雀」と呼ばれた。幕末期の江戸で山本琴谷、福田半香、鈴木鷺湖と共に四大家と称された。文久二年（一八六二）歿、五六歳。

岡本豊彦 おかもとよひこ 15

江戸後期の絵師。備中生。字は子彦。通称を司馬、号に蘭村・鯉喬等。呉春のもとで研鑽を積み、山水・人物画が特に優れたことと知られる。松村景文と四条派の双璧を成し、「花鳥は景文、山水は豊彦」と称された。他同門には柴田義童・小田海徳など、呉春の死後は「澄神社」と呼ばれる画塾を開き、その門人からは柴田是真・塩川文麟・田中日華らが出た。弘化二年（一八四五）歿、七三歳。

沖一岷 おきいちが 47

江戸後期の狩野派の画家。江戸生。本姓は児玉、名は貞。字は子仰。子卿。別号に淵泉、探三斎、静斎等。鍛冶橋狩野家八代探淵に学び、鳥取藩御用絵師・沖探谷の養子となり、家督を継ぐ。公務の傍ら谷文晁や酒井抱一ら文化人と多く交流し、狩野派に留まらず、琳派やまた絵写生派、文人画等、様々な流派の画風を摂取した。安政二年（一八五五）歿、六〇歳。

奥原晴湖 おくはらせいこ 69

幕末、明治の南画家。下総古河生。本名は節。通称せい子。別号に石芳、雲錦、静古・星古など。古河藩大番頭の池田繁右衛門政明の四女。蘭学者の鷹見泉石は伯父にあたる。初め古河藩の牧田水石に画を学ぶ。のち関宿藩士奥原源左衛門の養女となって江戸に出、上野摩利支天横丁

に住んで「墨吐烟雲楼」と掲げ、明・清の絵を研究。鄭板橋、米芾清人の費晴湖に私淑した。木戸孝允や山内容堂の庇護を得て政界の名士らと交流するなどして活躍し、安田老山と関東南画壇の人氣を二分するほどであった。また野口小籟とともに明治の女流南画家の双璧と称された。大正二年（一九一三）歿、七七歳。

小栗布岳 おぐりふがく 70

幕末、明治の浄土真宗の僧・南画家。豊後生。幼名は憲丸、のち大珍。別号に不学・元園生。諱は憲一。広瀬淡窓に学ぶ。日田長福寺住職を経て、松方正義の推挙により弾正右大臣・大蔵省・教部省で勤める。退官後は佐伯善教寺で住職をする傍ら地方巡講を務め、また詩書画を能くした。大正四年（一九一五）歿、八二歳。

尾竹国観 おたけこつかん 112

明治、昭和前期の日本画家。新潟生。紺屋で絵師・倉松の子。日本画家尾竹越堂、竹坡の弟。名は亀吉、可明と称する。幼くして笹田雲石に国画の号を受け、のち小堀鞆音に師事。また漢学を高橋大華に学んだ。おもに文展で活躍し、歴史画の大作を発表した。教科書や雑誌の挿絵やポンチ絵、絵本なども描いた。門下に織田観潮、換戸観海等。昭和二〇年（一九四五）歿、六六歳。

尾竹竹坡 おたけちくは 111

明治、昭和の日本画家。新潟生。紺屋で絵師・倉松の子。幼い頃より絵に親しみ、兄・越堂、弟・国観と共に絵に長けた。上京して川端玉章・小堀鞆音に師事。文展で入選を重ねる。八火社を創立、門人を率いて展覧会を開いた。昭和一年（一九三六）歿、五九歳。

小野竹喬 おのちつきょう 114

明治、昭和の日本画家。岡山県生。名は英吉。竹内栖鳳に師事。京都市立絵画専門学校別科卒。大正七年（一九一八）、土田麦穂らと国画創作協会を結成、日本画の新しい表現を模索した。帝展・新文展で活躍し、戦後は日展で重鎮となる。京都絵専教授。芸術院会員。文化功労者。文化勲章受章。昭和五四年（一九七九）歿、八九歳。

小村大雲 おむらいたいふん 164

明治、昭和の日本画家。島根県生。本名は権三郎、別号に豊文・碧雲湖。畔人・赤松子・紫光庵主など。一七歳で京都に出て、都路華香に師事。のちに、山元春挙の画塾早苗会で画法を学んだ。文展・帝展で受賞を重ね、帝展委員も務めた。昭和三年（一九三三）歿、五六歳。

小茂田青樹 おもだせいじゅ 99

明治、昭和の日本画家。埼玉県生。本名茂吉。松本楓湖門下。同門に速水御舟。今村紫紅らの赤曜会に参加。再興院展で入選を重ねる。日本美術院同人。帝国美術学校教授。昭和八年（一九三三）歿、四三歳。

甲斐庄楠音 かいのしょうただおと 105

日本画家。京都生。本姓は甲斐庄。京都美工・京都絵専卒。谷口香崎、川北霞峰に師事。大正七年第一回国画創作協会に「横櫛」を出品した際、岡本神草の「口紅」と同時に入賞候補に挙げられるも、「横櫛」を推す村上華岳と「口紅」を推す土田麦穂とが互いに譲らざる、結局竹内栖鳳の仲裁で金田和郎の「水蜜桃」が受賞し決着する。このことにより名が知られることとなった。のち同協会会員となり、解散後は岡村宇太

郎らと新樹社を結成。同社も解散すると映画界に転身し、溝口健二のもとで時代風俗考証家として活躍した。昭和五三年（一九七八）歿、八三歳。

蠣崎波響 かきざきはきょう 18

江戸後期の絵師。名は広年、字は世祐、将監と称す。別号に杏雨。松前藩二代藩主松前資広の五男。一三代藩主道広は異母兄。家老蠣崎広武の養子となり、江戸の藩邸で建部綾足や宋紫石に画技を学んだ。のち大原吞響の強い影響を受け、円山応挙に入門した。松前家が陸奥国伊達郡梁川藩に転封されると、家老として藩主の松前復帰に努めるとともに、創作活動を充実させた。代表作に「夷酋列像」など。文政九年（一八二六）歿、六三歳。

片山楊谷 かたやまようこく 42

江戸中期の長崎派の絵師。長崎生。名は貞雄、通称は宗馬、別号に画禪窟など。幼い頃から絵に優れ、円山応挙はその画才を見て驚嘆し、弟子入りを請う。楊谷を友人として迎えたという。虎絵においては毛を細い線で丹念に表し、「楊谷の毛描き」と呼ばれるほどの腕前であった。享和元年（一八〇一）歿、四二歳。

勝海舟 かつかいしゅう 146 148

幕末、明治の幕臣・政治家。江戸生。旗本勝左衛門太郎の長男。名は初め義邦、のち麟太郎。維新後は安房守、海舟は号。島田見山に剣道を学び、さらに永井青崖について蘭学を修業のち私塾を開く。軍艦奉行。大政奉還に尽力。維新後、新政府の海軍大輔、参議兼海軍卿・枢密顧問官となる。幕末三舟の一人。明治三年（一八九九）歿、七七歳。

勝野范古 かつのはんこ 173

江戸中期の画家。長崎生。別号に柳溪。長崎范古とも呼ばれた。南蘋の画法を学んだと思われ、花卉・墨竹を得意とした。京都に住した。宝曆（明和）（一七五二）頃活躍。

金子金陵 かねこきんりょう 44 174

江戸後期の画家。江戸生。名は允圭。字は君璋。通称は平太夫。別号に日南亭など。旗本寄合席大森勇三郎の家臣。谷文晁に師事したといわれ、沈南蘋風の花鳥画を得意とした。渡辺華山・椿椿山の師として知られる。文化一四年（一八一七）歿、享年未詳。

狩野勝川院 かのうしょうせんいん 25

幕末、明治の画家。江戸生。名は雅信（ただのぶ）。号は勝川院、素尚齋。狩野晴川院養信の長男。木挽町狩野家十代にして最後の当主。文久元年（一八六一）法印となり、維新後は図書寮付属博物館につとめた。門下に狩野芳崖や橋本雅邦など。明治三年（一八八〇）歿、五八歳。

狩野素川 かのうせせん 65

江戸中期、後期の狩野派の絵師。幼名は仙次郎、名は彰信のち章信。号は大玄齋。素川。浅草猿屋町代地狩野家五代目。法眼となり幕府奥絵師に列せられた。三六歳で若隠居し、花街での遊びを好んだため吉原の芸妓の門下を多くもつたという。浮世絵美人画にも学び、鳥文斎素之風の美人図や春画も手掛けて人氣を博し、その独特の画風は「素川風」と評された。文政九年（一八二六）歿、六四歳。

狩野周信 かのおちかのぶ 31, 32

江戸中期の狩野派の絵師。狩野常信の長男。弟に狩野孝信、子に狩野古信。幼名は生三郎、初名は右近、泰高斎・如川等と号する。父の没後、跡を継いで木挽町狩野家三世となる。法眼に叙せられて中務卿と称し、幕府の御用絵師として江戸城障壁画制作、朝鮮への贈呈屏風制作などに携わり活躍した。享保一三年(一七二八)歿、六十九歳。

狩野安信 かのうやすのぶ 30

江戸前期の狩野派の絵師。京都生。幼名は四郎二郎、源四郎、号は永真、牧心齋。狩野孝信の第三子で、長兄には鍛冶橋狩野を開いた探幽、次兄には家督を継いだ尚信がいる。はじめ京都の狩野本家をついたが、やがて江戸に移って幕府の御用絵師となり、中橋狩野家の祖となる。古画の鑑定を数多く行つた。英一癖は弟子に当たる。貞享二年(一六八五)歿、七十三歳。

錦木清方 かぶらぎきよかた 181

日本画家。東京生。名は健一。一四歳の時水野年方に入門し、新聞や雑誌で挿絵を執筆した。鳥合会、のち金鈴社を結成。江戸文化の教養に支えられ、粹の美意識を反映した人物画、ことに美人画に多くの秀作を生み出す。文筆家としても優れ、「こしかたの記」等多くの随筆集がある。帝室技芸員・芸術院会員。文化功労者。文化勲章受章。昭和四七年(一九七二)歿、九十三歳。

河井寛次郎 かわいかんじろう 168

陶芸家。島根県安来生。東京高等工業学校窯業科卒。その後京都陶磁器試験所入所。大正九年、五条坂に住居と工房「鐘溪窯」を持ち独立。バーナード・リーチの作品に感銘を受けて浜田庄司、富本憲吉らとともに柳宗悦の民芸運動に参加し、民芸風の陶磁に新分野を開いた。昭和四年(一九二九)歿、七十六歳。現在、京都の旧宅は河井寛次郎記念館として公開されている。

川合玉堂 かわいぎよくどう 115

日本画家。愛知県生。本名芳三郎。別号に偶庵。一四歳で京都に出て望月玉泉に学び、のちに円山派の幸野棟嶺に師事。二三歳で東京画壇に転じ、橋本雅邦に学び狩野派を極める。円山・四条派と狩野派を見事に融和させ、独自の画風を打ち立てた。横山大観・竹内栖鳳と共に日本画壇の三巨匠と呼ばれる。東京美術学校教授、帝国芸術院会員などを歴任し、昭和一五年文化勲章受章。昭和三年(一九五七)歿、八十三歳。

川合修二 かわいしゅうじ 115

洋画家・陶芸家。岐阜県生。日本画家の川合玉堂、富子の次男。帝展などで活躍し、晩年は陶芸家としても作品を残している。昭和六二年(一九八七)歿、八十七歳。

河合曾良 かわいそら 124

江戸前中期の俳人。信濃国上諏訪生。本名は岩波庄右衛門正字。通称は河合惣五郎。両親、養父母が亡くなったため、伊勢国長島の大智院の住職であった叔父の秀精法師を頼って長島藩に出仕。のち致仕して江戸に移り、吉川惟足に吉川神道を学ぶ。貞享年間、松尾芭蕉に入門し、芭蕉の日常生活の世話をした。『奥の細道』の旅に随行し、『曾良旅日記』を著した。宝永七年(一七二〇)頃歿したとされる。

河鍋曉斎 かわなべきよさう 63, 64

幕末、明治の画家。下総生。古河藩士の子。名は洞郁、字は陳之、号は周磨、狂齋・是空道人・惺々斎等。歌川国芳に浮世絵を、のち狩野洞白に狩野派を学び、その他あらゆる画風を取り入れて独自の画風を確立した。仏画から風刺画まで多様なジャンルを縦横無尽に描き尽くした。明治二年(一八八九)歿、五十九歳。

河鍋曉翠 かわなべきよすい 63

明治、昭和の日本画家。河鍋曉斎の娘。江戸生。名はとよ。号は初め曉辰、のち曉翠。父曉斎に日本画の手ほどきを受け、一九歳のとき山名眞義に入門し土佐派を学んだ。内国絵画共進会、内国勸業博覧会へ入選する。美人画を能くした。日本美術協会員。東京女子美術学校教授。昭和一〇年(一九三五)歿、六十七歳。

川端玉章 かわばたまきよしょう 13

明治、大正の日本画家。京都生。名は滝之助、別号に敬亭、晩年に璋翁。薛絵師左兵衛の子。円山派の中島来章に入門。また江戸でワグマン、高橋由一に洋画も学んだ。のち東京美術学校(現東京芸大)の教授となり、円山派の画法を教えた。のち川端画学校を創立。帝室技芸員。門下に尾竹竹坡、平福百穂、木村武山らがいる。大正二年(一九一三)歿、七二歳。

川端茂章 かわばたましゅう 24

日本画家。東京生。川端玉章の子。名は敬男、字は璞父。兄に同じく日本画家の川端玉雪。父に師事して画法を学んだ。父の創立した川端画学校の教授、副主幹となり、後進の指導にあたった。

川村曼舟 かむらまんしゅう 180

大正、昭和前期の日本画家。京都生。名は万蔵。山元春挙に師事。文展で特選を重ね、のち文展、帝展の審査員を務めた。春挙門下四天王の一の人と言われ、師の没後、早苗会を主宰。また京都市立絵画専門学校で後進の指導にもあたった。芸術院会員。代表作に「比叡三題」「竹生鳥」など。昭和一七年(一九四二)歿、六十三歳。

菊池契月 きくちけいげつ 183

明治、昭和の日本画家。長野県生。はじめ尾玉果亭、京都に出て内海吉堂についたが、のち菊池芳文の塾に転じ、婿養子となる。文展を中心に活躍。京都画壇に重きを為した。菊池塾を継ぎ、後進の指導にあたる。帝国美術院会員、帝室技芸員、日本芸術院会員。京都絵画専門学校名誉教授。京都市名誉市民。昭和三〇年(一九五五)歿、七十七歳。

菊池五山 きくちござん 47

江戸後期の漢詩人。讃岐生。名は桐孫、字は無絃。通称は佐大夫、別号に娛庵・小釣舎等。高松藩儒の父の跡を継ぎ、同藩に仕えた。柴野栗山の元で儒学を学ぶ。「五山堂詩話」で漢詩の紹介、批評を行い、詩壇に大きな影響を与えた。嘉永二年(一八四九)歿、八十一歳。

菊池容齋 きくちようさい 176

幕末、明治の日本画家。江戸生。名は武保、通称は量平。狩野派・土佐派をはじめ和・漢・洋の画法や有職故実を学ぶ。歴史画を得意として全国に古社寺、旧家をたずねて名書画、宝物などを研究。その成果を忠臣孝子たちの肖像画集「前置故実」にまとめた。明治一一年(一八七八)歿、九十一歳。

岸竹堂 きしちくどう 55

幕末、明治の日本画家。近江生。本姓は寺居。名は昌祿、字は和利、通称は八郎、号は残夢・虎林など。彦根藩士の子として彦根に生まれ、はじめ京都に出て狩野永岳に学んだ。のち岸連山に師事し、連山の娘と結婚して養子となり、岸派の四代目を継いだ。鳥獣画を描いて特に虎を得意とし、明治期の京都画壇で森寛斎、幸野棟嶺とともに三巨頭の一に数えられた。帝室技芸員。明治三〇年(一八九七)歿、七十二歳。

岸連山 きしれんざん 54, 67

江戸後期の岸派の絵師。京都生。旧姓は青木。幼名は徳次郎。名は徳、字は士道、別号に士進、萬象楼など。岸駒に師事し、その婿養子となつて岸派第三代を継ぐ。有栖川宮家に仕えた。中島来章・横山清暉・塩川文麟らとともに幕末画壇の「平安四名家」と称された。門下の岸竹堂を婿養子とし跡を継がせた。安政六年(一八五九)歿、五十六歳。

木田安彦 きだやすひこ 122

木版画家。京都生。京都教育大学卒業。京都市立芸術大学美術専攻科でデザイン専攻修了。東京の博報堂制作部に勤務したのち京都へ戻り木版画家として作家活動を行う。京都の寺社や仏像をモチーフとしてガラス絵や水墨画、油彩画など、多様な表現を行った。二〇一三年には法眼位を授与された。平成二十七年(二〇一五)歿、七十一歳。

鬼頭道周 きとうどうしゅう 118

日本画家。愛知県生。通称は隆三郎。父である鬼頭道恭に学び、のち橋本雅邦に師事する。仏画・人物画を得意とした。東京日本橋に住み、後年は名古屋に帰郷した。昭和一八年(一九四三)歿、七〇歳。

木村武山 きむらぶざん 75, 93

日本画家。茨城県生。名は信太郎。川端玉章に師事する。東美校で岡倉天心の薫陶を受け、新日本運動を進める。日本美術院の結成に同倉、優れた技巧・色彩感覚を活かした壮麗な花鳥画・仏画を出品し、その中心画家として活躍した。代表作に「阿房劫火」「孔雀明王」等がある。昭和一七年(一九四二)歿、六十七歳。

日下部鳴鶴 くさかべめいかく 179

書家。滋賀県生。名は東作。字は子陽。別号に野鶴・鶴叟等。初め貫名菘翁に私淑したが、楊守敬の来朝により大きな影響を受け、独自の書法を確立した。大正一一年(一九二二)歿、八十五歳。

九条武子 くじょうたけこ 133

明治、昭和の女流歌人。京都生。画号に松契。西本願寺二十一世大谷光尊(上村松園)の次女。男爵九条良致に嫁ぐ。和歌を佐佐木信綱に、絵走(村松園)に学ぶ。夫の帰国後関東大震災に罹災、被災者の救済に奔走。慈善事業に努めた。また京都高等女学校(現・京都女子大学)を創設するなど女子教育にも尽力した。歌集に「金鈴」「無憂華」「白孔雀」等。昭和三年(一九二八)歿、四二歳。

国井応陽 くにおうよう 11

能代能斐 くましろゆうひ 40

江戸中期の画家。長崎生。本姓は神代。名は斐。号は繡江。字は淇瞻。通称は甚右衛門。熊斐は漢名。初め渡辺秀石に画を学び、のち長崎に滞在する。沈南圃に直接師事する。南圃の第一一人者として宋紫石・鶴亭・森蘭齋等の多くの弟子を育てた。安永元年（一七七二）歿。五十九歳。

栗原玉葉 くりはらぎよくよう 106

日本画家。長崎県生。名は文字。日本女子美術学校卒。初め大久保玉珉に、のち寺崎広業に師事する。文展・帝展で活躍。また母校の教授として後進の指導にあたった。大正十一年（一九二二）歿。三十九歳。

高嵩谷 こうすうこく 22

江戸後期の町絵師。江戸生。姓は高久。名は一雄。字は子盈。別号に屠竜翁、粟口齋、翠雲堂など。両国築研堀に住した。英一蝶門下の佐脇嵩之に学んで、蝶風の風俗画を得意とし、また武者絵も能くした。江戸浅草寺観音堂の「源三位頼政徳治図」により「躍その名を知られるようになった。文化元年（一八〇四）歿。七十五歳。

上月諦了 こうづきたりよう 126

真言宗の僧。長栄寺十四代住職。昭和三四年（一九五九）寂。六十五歳。

幸野西湖 こうのせいこ 59

日本画家。京都生。名は円次郎。幸野棟嶺の次男。兄は日本画家の森本東閣。父や谷口香嶼、竹内栖鳳に学ぶ。日本絵画協会第三回絵画共進会で二等褒状を受けた。昭和二〇年（一九四五）歿。六十四歳。

幸野棟嶺 こうのばいれい 58

幕末・明治の日本画家。京都生。初め中島来章に円山派、のち塩川文麟に四条派を学ぶ。京都府画学校の設立に参加。棟嶺塾を開いて後進の指導にも力を注ぐ。門下に竹内栖鳳、川合玉堂らがいる。帝室技芸員。明治二八年（一八九五）歿。五十二歳。

小島老鉄 こじまろうてつ 35

江戸後期の画家。尾張生。通称は友一郎。別号は采風軒、絵屋友七。初め吉川一溪に狩野派を学び、のち山本梅逸に師事する。江戸で六雀詩仏と交遊。のち帰郷して画業に専念した。嘉永五年（一八五二）歿。六〇歳。

木島桜谷 このしまおうこく 85 87

明治・昭和の四條派の日本画家。京都生。名は文治郎。字は文質。別号に響庵、龍池草堂主人。一六歳で当時京都画壇の大家であった今尾景年に師事する。円山四條派の伝統を組んで写生を基本とし、山水・花鳥・人物、特に動物の描写に優れた。「最後の四條派」とも称される。儒医・山本溪愚について漢籍を学んでいたことから、故事や史実にも通じた。昭和二三（一九三三）年歿。六二歳。現在、旧邸宅が櫻谷文庫として保存されている。

小早川秋声 こばやかわしゅうせい 100 101

明治・昭和の日本画家。兵庫県生。名は盈庵。母方の九鬼子爵家で幼少期を過ごす。京都市立絵画専門学校中退後、谷口香嶼、のちに山元春挙に師事し、早苗会に参加。文展・帝展等で活躍した。頻繁に外遊し、西洋美術の研究につとめる。戦時中は従軍画家として戦争記録画を描いたが、戦後は宗教画を手掛けた。昭和四九年（一九七四）歿。八八歳。

小山富士夫 こやまふじお 172

陶磁研究者。陶芸家。岡山県生。瀬戸・京都で陶芸を学んだのち、昭和五年東京洋陶磁研究所にて古陶磁の研究に専念する。戦後は東京国立博物館調査員、文化財保護委員会調査官として活躍したが、昭和十六年永仁の壺事件により文化財保護委員会事務局を辞任する。その後も海外諸国の遺跡調査や学術講演に活躍し、神奈川県文化財専門委員、出光美術館理事、日本工芸会副理事長等を歴任した。晩年には岐阜県土岐市に築窯し、作陶活動を再開した。著書に「支那青磁史稿」「宋磁」「東洋古陶磁」等がある。昭和五〇年（一九七五）歿。七十四歳。

西郷孤月 さいこうこげつ 75

日本画家。長野県生。名は規。旧松本藩士の長男。横山大観、下村観山、兼田春草と並ぶ「雅邦門下四天王」のうちの一人。東京美術学校に第一期生として入学し、橋本雅邦に認められて卒業後は同校助教教授となる。のち雅邦とともに辞職し、日本美術院の創立に尽力した。雅邦の娘との結婚、難縁を経て次第に美術院と距離をおくようになる。台湾で活動をはじめたものの、病のため帰京。大正元年（一九一三）歿。四〇歳。

酒井三良 さかいさんりよう 98

日本画家。福島県生。名は三郎。別号は樺水、三良子。同郷の画家坂内青嵐に師事する。のち小川芋銭に出会い、その勧めで院展に出品し入選する。故郷の福島や晩年に住んだ茨城を中心に、農村の生活や自然を描いた。日本美術院監事。文部大臣賞受賞。昭和四四年（一九六九）歿。七二歳。

佐久間象山 さくましようざん 48

幕末の思想家・兵学者。信濃松代藩士佐久間善の子。名は国忠。のち啓、幼名は啓之助。通称は修理。字は子迪・子明。妻順子は勝海舟の妹。佐藤一斎に詩文を学び、泰西の書を研究し、兵学を講じる。門人吉田松陰の事件に連座して獄に入った。文治元年（一八六四）歿。五三歳。

佐竹永海 さたけえいかい 43

江戸後期・明治の画家。名は衛司。号は周村。天永・愛雪。若松北小路町の会津藩御用時絵師の家生まれ。のち江戸に出て谷文晁に学び、その高弟といわれた。のち近江彦根藩御用絵師となる。明治七年（一八七四）歿。七二歳。

佐竹永陵 さたけえいりよう 38

日本画家。東京浅草生。旧姓は黒田。名は銀十郎。別号に写山画房、巍々堂。佐竹永海に師事し、その養子となつて佐竹家画系三代目を継ぐ。佐竹家に伝わる谷文晁門の粉本類・遺作などから文晁の研究を熱心に行い、文晁の鑑定では第一人者といわれた。日本画会の結成に参画し、のち松林桂月・小坂芝田らと日本南宗画会を創設。数々の展覧会、共進会などで受賞を重ねた。昭和二二年（一九三三）歿。六六歳。

澤木興道 さわきこうどう 137

曹洞宗の僧侶。三重県津市生。旧姓は多田。幼名は才吉。道号は相門。幼少に両親を失い、沢木家の養子となる。一八歳で出家。日露戦争に二度従軍し、重傷を受けた。その後法隆寺佐伯定胤らに学ぶ。要らず、住せず、行雲流水、無所得の生涯を徹底的に貫き、生涯寺をもたなかったため「宿なし興道」と呼ばれた。昭和四〇年（一九六五）寂。八五歳。

慈雲尊者 じうんそんじや 126 129

江戸中期の真言宗の僧。大坂生。俗姓は上月氏。法諱は欽光。百不知童子、葛城山人、雙龍叟と号す。二三歳で出家。密教・儒教を学ぶ。戒律を

重んじ、「正法律」の実践や「根本僧制」の制定を行った。独学で梵字の研究を行い、二〇年以上の歳月をかけて書かれたとされる「梵字津梁」一〇〇巻等の著作を残した。また神道を研究し、雲伝神道を提唱した。文化元年（一八〇四）寂。八七歳。

塩川文麟 しおかわぶんりん 53 56 175

幕末・明治の四條派に連なる画家。京都生。字は子温（士温）、初号は雲章。別号に可竹斎、泉声、答斎等。通称は図書。岡本豊彦門下。京都御所の障壁画制作に携わる。山水・人物・花鳥と広い画域で知られる。如雲社を主宰。近代京都画壇の基礎を築いた。明治一〇年（一八七七）歿。七〇歳。

柴田是真 しばたぜしん 68

江戸後期・明治の漆工・作家、絵師。江戸生。幼名亀太郎。名は順藏。字は儼然。号は是真、令哉。対柳居、沈柳亭など。一歳で古満寛哉に蒔絵を、のち鈴木南嶺、岡本豊彦に円山四條派の画を学んだ。蒔絵の青海波塗を復活させるなど、江戸随一の名工としてその名を知られた。明治二四年（一八九二）歿。八五歳。

島津斉彬 しまつなりあきら 142

幕末の大名。薩摩藩第十一代藩主。島津氏第二十八代当主。号は惟敬。麟洲、諡号を順聖院。斉興の子。藩政改革・富国強兵策を推進し、反射炉や機械制工業を他藩にさきかけて経営。藩営の工場集積館を設立した。將軍継嗣問題では一橋慶喜を擁立し井伊直弼に敗れるものの、その卓越した識見により西郷隆盛・大久保利通等の英才を抜擢し、幕末の四賢侯の一人とされた。安政五年（一八五八）歿。五〇歳。

清水公照 しみずこうしょう 135

大正・昭和の華嚴宗の僧。兵庫県生。龍谷大学卒。教学執事・大仏殿主任・二月堂主任・執事長等を歴任。二百七・二百八世華嚴宗管長。東大寺別当。書画を能くした。平成二一年（一九九九）寂。八八歳。

下村観山 しむらかんざん 73 74 76

明治・昭和の日本画家。和歌山生。名は晴三郎。東京美術学校（現東京芸大）卒。狩野芳崖・橋本雅邦に学ぶ。卒業後同校助教教授となつた後、日本美術院創立に参加し、横山大観・菱田春草と共に活躍、またその再興にも尽力する。大正六年帝室技芸員。やまと絵、琳派、宋元画の手法を究めた。昭和五年（一九三〇）歿。五八歳。

白井晟一 しらいせいいち 161

建築家。京都生。都高等工芸学校卒業。ハイデルベルク大学、ベルリン大学で哲学や建築史を学び、帰国後、建築設計を始める。昭和三五年（一九六〇）群馬県松井田町役場と東京・浅草の善勝寺本堂で高村光太郎賞を受賞。書家としても知られた。昭和五八年（一九八三）歿。七八歳。

白須心華 しらすしんか 70

日本画家。大分県生。名は貞。字は季鑑。号は心華。儒者白須梧園の四男。海軍省に出仕し、日清・日露戦争では軍令部に勤務した。のち官途を退いて画を志し、明治三九年（一九二四）は真美会委員となり、東京小石川に南画塾を設立した。昭和一四年（一九三九）歿。六七歳。

徳川慶喜 とくがわよしおのぶ

江戸幕府第十五代将軍。江戸生。諱は昭政、慶喜。字は子邦。雅号は興山。晩年は一橋と号す。水戸藩第九代藩主徳川斉昭の七男。一橋家の継嗣となり、橋本邸と称す。慶応三年(一八六七)大政を奉還。恭順の意を示すために謹慎して以降は西洋の文物に関心を寄せたり、写真撮影に熱を注いだ。大正二年(一九一三)歿。七十七歳。

富岡鉄斎 とみおかてっさい

幕末、大正の文人画家。京都生。名は鉄輔のち百鍊、別号に鉄崖、鉄史等。幼少より国学・漢学・詩文等勉学に励み、維新後には奈良石上神宮等の宮司を務める。田能村直入らと日本南画協会を設立、日本各地を旅しながら深い学識に基づいた自由な作画的活動を行った。帝室技芸員・帝国美術院会員。大正十三年(一九二四)歿。八十九歳。

富田溪仙 とみたけいせん

明治、昭和の日本画家。福岡県生。名は鎮五郎。字は隆鎮。別号に書仙、溪山人など。はじめ狩野派を学び、京都に出て四条派の都路華香の門に入る。のち仙居義梵、富岡鉄斎に傾倒し、また奈良・平安朝の仏画をも研究した。横山大観に認められ、大正四年日本美術同人となる。駐日フランス大使であった詩人のポール・クロワデルや、俳人河東碧梧との交流も知られている。昭和二年(一九三六)歿。五十八歳。

長尾雨山 ながおうざん

明治、昭和の書家、漢学者。讃岐高松生。名は甲、字は子生、通称植木郎。父について漢学を修めた。東京帝国大学文部科、古典講習科を卒業後、学習院に勤務し、また岡倉天心に共鳴して東京美術学校の設立に尽力。同校で教鞭を執り、美術雑誌「国華」の創刊、編集にも携わった。夏目漱石と親交を深かったという。漢詩文を能く、狩野直喜(君山)、内藤湖南とともに日本における中国学を開花・進展させたひとりとしてされる。昭和十七年(一九四二)歿。七十九歳。

長沢芦雪 ながさわろせつ

江戸中期の絵師。山城国淀生。名は政勝。魚、字は水計、引脛。通称は主計、別号に干洲漁者、干綱。円山応挙の門下に入るが、幾度となく破門されたとの説も残る。しかし応挙はその才も認め、天明六年和歌山県無量寺の落成にあたり、親しい住職に記念の作を届けるため芦雪を大抜擢したという。芦雪はそこで自身の才能をいかんなく発揮、串本に多くの作品を残した。画風は自由奔放、奇抜そのもので、同時代の曾我蕭白、伊藤若冲とともに「奇想派」などと言われる。寛政一一年(一七九九)歿。四十五歳。

中島玄奘 なかしまげんじょう

臨済宗の僧。松蔭寺住職。著書に「白隠と松蔭寺 玄峰老師随聞記」等。

中島来章 なかしまらいしょう

幕末、明治初期の円山派の画家。近江生。姓は源、字は子慶、号に春分齋、通称堂、鶴江堂など。はじめ画を渡辺南岳に学び、のち円山応挙の門に入る。幕末における円山派の大家として、横山清暉・岸連山・塩川文麟と共に平安四名家と称される。花鳥画、特に鯉と鵜を能くし、門下に幸野棟嶺、川端玉章、藤井松林らがいる。明治四年(一八七二)歿。七十六歳。

中林竹洞 なかばやしちくどう

江戸後期の文人画家。尾張生。医師中林玄棟の子。主に京都で活躍した。名は成昌、字を伯明、通称大助。別号に融斎、冲澹、大原庵、東山隠

士など。竹洞は画号。はじめ山田宮常・神谷天遊に南画を学び、のち尾張画壇のバトロンとして知られる。豪商神谷天遊から才を認められ、同家所蔵の古画の模写によって画技を磨き、二十七歳で同門の山本梅逸とともに上洛し、頼山陽ら一流の文化人と交流、山水花卉を能くし、梅逸に梅竹に優れた。画道金剛杖、竹洞画論などの画論書など、多くの著書を残す。嘉永六年(一八五三)歿。七十八歳。

中村不折 なかむらふせつ

洋画家・書家。東京生。名は鉦太郎。小山正太郎や浅井忠に洋画を学び、渡仏してジャン・ポール・ローランに師事する。帰朝後は太平洋洋画会代表作家として文展で活躍。書では六朝風を得意とし、東京根岸に書道博物館をつくる。帝国美術院会員。昭和十八年(一九四三)歿。七十八歳。

中村芳中 なかむらほうちゅう

江戸後期の画家。京都生。名は徳哉、別号に達々、方中、鳳中等。芳中、字とされる。生年は不明だが、江戸琳派の祖、酒井抱一とほぼ同時代人だと考えられる。はじめ文人画風の山水や指頭画を描いたが次第に琳派へ転じ、たらし込みを駆使した作品を描くようになった。木村兼葭堂の「兼葭堂日記」にその名が登場し、その交遊関係が知られる。大阪に住した。文政二年(一八一九)歿。享年未詳。

鍋島閑叟 なべしまかんそう

幕末の大名。肥前佐賀藩第十代藩主。名は斉正、のち直正。号は閑叟。茶室、紫水など。信濃守、肥前守。九代藩主斉直の子。佐賀の七賢人の一人。藩財政の改革のため殖産興業や軍備の強化に努める。長崎の海防を強固にするため大砲の製造や反射炉の設立に力を入れ、西洋文明も積極的に採用した。ペリ来航時は攘夷論者であったが、西武文明にも尽力し、明治維新後は議定、開拓使長官などを歴任した。明治四年(一八七一)歿。五十八歳。

西村五雲 にしむらごうん

日本画家。京都生。本名は源次郎。岸竹堂・竹内栖鳳に師事し、花鳥・動物画を得意とした。画塾長島社で、弟子の育成に努めた。京都美術工芸学校、京都市立絵画専門学校教授。帝展審査員・帝国美術院会員。去術院会員。昭和三年(一九三八)歿。六十一歳。

西村南岳 にしむらなんがく

鑑定家。日本南画鑑賞会主幹。

西山翠嶂 にしやますいしょう

日本画家。京都生。名は卯三郎。京都市立美術工芸学校校卒。竹内栖鳳に師事し、後に女婿となる。文展、帝展に出品を重ね活躍。審査員にもなった。京都市立絵画専門学校教授。同校校長を務めた。私塾青甲社を主宰。堂本印象・中村大三郎・上村松草らの画家を輩出した。帝国美術院会員・帝室技芸員。文化勲章受章。昭和三年(一九五八)歿。七十八歳。

西山芳園 にしやまほうえん

江戸後期の四条派の画家。大坂生。名は成章、字は子達。松村景文に学び、人物・花木・鳥獣画を能くした。慶応三年(一八六七)歿。六十四歳。

貫名松翁 ぬきみなすおう

江戸後期の書画家。儒者。徳島生。本名苞、字は君茂、子善、別号に松翁、須静山人等。儒学を中井竹山、画を鉄翁祖門、書を西宣行に挙げられを慕う。諸語を遊歴、書風を確立した。幕末の三筆の一人に挙げられる。須静齋を開き、儒学を教える。文久三年(一八六三)歿。八十六歳。

根本幽峨 ねもとゆうが

江戸後期の絵師。因幡鳥取城下町の商家生。幼名は重三郎。別号に驚峯。江戸に出て鳥取藩絵師の沖一峯に師事。のち藩の御用絵師に取り立てられる。師の一峯と同様、各画法に通じて多様な作品を残している。鳥取で亀井翠嶺、河田翠涯、藤岡神山ら多くの門弟を育てた。弟で門人でもある根本雪峨を養子に迎えた。慶応三年(一八六七)歿。四十四歳。

野崎真一 のぎきしんいち

幕末、明治の江戸琳派の絵師。酒井抱一門下の石垣抱真の子で、鈴木其一に師事した。明治三年(一八八九)歿。七十八歳。

橋本永邦 はしもとえいほう

日本画家。東京生。橋本雅邦の次男。名は乾。東京美術学校卒業。父及び寺崎広業、下村観山に学ぶ。在学中に異画会、文展等に出品し入選。のち日本美術院再興に参加し院展を中心に活躍し、大正一〇年同人に推挙される。雅邦ゆずりの品格のある画風で、能く題材にした作品を多く描いた。昭和十九年(一九四四)歿。五十八歳。

橋本閑雪 はしもとかんせつ

日本画家。兵庫神戸生。白石藩儒橋本海閑の長子。竹内栖鳳に師事。四条派に南画を加味した新南画を大成する。詩書歌にも秀でる。朝日賞受賞。帝展審査員・帝室技芸員・帝国美術院会員。フランス政府よりシニョリエ・ド・レジオン・ヌール勲章を授与される。昭和二〇年(一九四五)歿。六十一歳。

長谷川玉峰 はせがわぎよくほう

幕末、明治の四条派の画家。京都生。名は長盛。師諱。字は士進。別号は等斎。松村景文に学び、花鳥人物画を能くした。大津に住し、大津祭の曳山である源氏山の天井画を描いた。明治二年(一八七九)歿。五十八歳。

羽田桂之進 はたけいのしん

製糸家。万延元年(一八六〇)長野県松代町生。上京して東京商法講習所に入り、卒業後渋沢栄一店に入る。明治十六年(一九一三)以降松代に帰住し、伯父大里忠一郎の後を受け六工社の社長となる。晩年には象山神社建立会幹事などを勤めた。歿年未詳。

秦テルヲ はだてるを

日本画家。広島市生。本名は輝男。八歳で父親を亡くし、母や弟妹たちと京都へ移住。京都市立美術工芸学校卒業。千總の輸出用ビロイド工場に勤める一方、丙午画会や黒猫会に参加し、その後は主に個展で作品を発表した。各地を放浪しながら制作と発表を行い、労働者や虐げられた女性の姿など、苦悶する人間をテーマに描いた。京都府相楽郡瓶原に移住してからは仏教美術を研究し、晩年は宗教画を描いた。昭和二〇年(一九四五)歿。五十九歳。

英一蝶 はなぶさいちゅう

江戸中期の絵師。京都生。名は信香。剃髪後に多賀朝湖と名乗る。字は駿、通称を助、進、号に朝湖、牛磨、翠雲翁等。名を英一蝶、画号を北窓翁に改めた。晩年、流罪を赦されて江戸に帰ってからは寛文六年頃(一七二六)に一家で江戸へ移り、周囲に絵描きとしての才能を認められて狩野安信に学ぶのが破門。その一方、晩年の号で俳諧師としても名高く、宝井其角、松尾芭蕉らと交友を持った。その後は入牢、三宅島配流と二度かけた。享保九年(一七二四)歿。七十一歳。

濱谷白雨 はまはくろう
日本画家。富山生。本名は榮次郎。富山県立工芸学校で中島秋圃に学び、卒業後は東京美術学校日本画科、同師範科に進む。川端玉章に入門したのち脱退し寺崎広業に師事する。文展で活躍したがやがて画壇を離れ晩年は仏典と和漢の詩歌、哲学書を読む生活を送った。昭和四〇年（一九六五）歿、七九歳。

春木南溟 はるきなんめい
幕末・明治の南画家。江戸生。名ははじめ秀熙、のちに龍。字は敬一、のちに子緝。別号に耕雲、漁者、香山楼など。画家春木南溟の長子。父南湖から南画を学び山吹、花鳥画を能くした。当時の公家や大名からパトロンにつくなど名声高く、特に土佐藩主山内内容堂からの寵愛を受けて活躍。弟の西湖、子の南華、孫の南溪、曾孫の南江もそれぞれ画家として活躍し門下には田嶋草雲らがいる。明治二年（一八七九）歿、八四歳。

日根対山 ひねのたいざん
江戸後期の南画家。和泉国日根郡中庄村湊生。名は盛長。字は成信。小年。別号に茅海、錦林子、醉墨庵など。幼少より画を好み、はじめ岸和田で土佐派の桃田栄雲に学び、また幼馴染であった京佐野の豪商里井田丘の縁で大坂に出て岡田半江に南画を学ぶ。のち京都に移り貫名松翁に師事した。鉄翁祖門に私淑し、主に山水画を得意とする。明治二年（一八六九）歿、五七歳。

平井棟仙 ひらいばいせん
明治・昭和の日本画家。京都生。名は秀三。京都美術工芸学校卒。竹内栖鳳に師事。文展、帝展を中心に活躍。同窓の入江波光、神原紫峰らと研究会「桃花源」を結成。帝展委員。新文展無鑑査。昭和四四年（一九六九）歿、八〇歳。

平柳田中 ひらぐしでんちゅう
彫刻家。岡山生。旧姓田中。本名倬太郎。高村光雲に師事して木彫を学び、日本美術院の再興に尽力した。日本彫刻会の創立に参加し、第一回展の出品作が岡倉天心に高く評価された。昭和一九年東美学校教授に就任。写実的で優れた作品を多く残した。帝室技芸員、芸術院会員。文化勲章受章。昭和五四年（一九七九）歿、一〇七歳。

広渡巖斐（二代） ひろわたりがんび
江戸後期の画家。名は湖秀。唐絵目利の広渡家を継いだのち京都で柏木如亭と親交を結び、江戸に住した。南蘋風の花鳥画や文人画風の作品を手掛けた。文政三年（一八二〇）歿、五五歳。東京の西徳寺に大窪詩仏・市河米庵による墓碑が現存している。

福原鐮二郎 ふくはらりょうじろう
文部官僚。伊勢生。号は蘇洲。帝国大学法科大学英法科卒。内務省参事官、奈良帝室博物館理事などを経て文部次官となる。のち貴族院議員となり、以後東北帝大総長、学習院長、帝国美術院長などを歴任した。昭和七年（一九三二）歿、六五歳。

細谷立斎 ほそやりつさい
日本画家。讃岐生。字は師古。子星、子辰、燕雨。通称は辰三郎。号は静黙、三松居士、錦江釣叟。六一山人等。父の細谷松波や貫名海屋に学ぶ。山水、花卉を能くした。明石に住した。明治四四年（一九一一）歿、八〇歳。

松尾芭蕉 まつおばしょう
江戸前期の俳人。伊賀生。名は宗房。芭蕉は俳号。別号、桃青、風羅坊など。

ど。俳聖として知られる。仮名書き署名は「はせを」。藤堂良忠（俳号、蟬吟）に仕えて俳諧を学び、京都で北村季吟に師事した。のち江戸に下つて深川の芭蕉庵に住み、談林風の俳諧を脱却して、芸術性の極めて高い蕉風を確立。自身は免句（俳句より俳諧）を好んだといふ。弟子の河合曾良を伴った旅の紀行文である「おくのほそ道」など、多くの名作を残した。大津と関わりが深く、元禄七年（一六九四）旅先の大坂で没するも、遺言により大津の義仲寺に葬られた。忌日となる陰暦一〇月二日は、芭蕉忌や時雨忌、翁忌、桃青忌などと呼ばれる。五〇歳。

松平容保 まつだいらかたもり
幕末の大名。陸奥会津藩第九代藩主。号は祐堂、芳山、翠柳。通称は銚之允。京都守護職、肥後守。美濃高須藩松平義隆の子で会津藩主松平容敬の養子となった。京都守護職に任命され、孝明天皇の信任を受けて京都の治安維持と公武の烏羽伏見の戦いで深く、禁門の変では尊攘急進派の討幕藩を一掃したがのち鳥羽伏見の戦いで敗れ、さらに会津戦争で討幕軍に抗戦するも降伏。謹慎を解かれてのちは正三位に叙され、日光東照宮宮司を務めた。明治二六年（一九一三）歿、五九歳。

松平不昧 まつだいらふまい
江戸中期の大名。出雲松江藩の第七代藩主。名は治郷。号に不昧、未央庵。一七歳で松江藩の藩主となり、出羽守治郷と称した。儉約につとめ、財政の緊迫した松江藩を藩政改革で立て直した。後、一八歳で茶道に入門。茶人としての才能を発揮し、石州流を学んだ後、自ら「不昧流」茶道を大成する。多くの茶道具や古今の名器の収集を行ったことでも知られ、「雲州蔵帖」と呼ばれたその品々は「古今名物類聚」一八冊の著作にまとめられている。文政元年（一八一八）歿、六八歳。

松永耳庵 まつながじあん
明治・昭和の実業家。長崎生。幼名は亀之助。名は安左衛門。号は耳庵。東邦電力社長として活躍。「電力王」「電力の鬼」と呼ばれた。茶人。美術品蒐集家としても知られる。近代小田原三茶人の一人。昭和四六年（一九七二）歿、九五歳。

松林桂月 まつばやしけいげつ
明治・昭和の日本画家。山口県生。本名は伊藤篤。字は子敬。別号に香外、玉江漁人、野口幽室に師事。日本南宗画会、日本南画院、白寿会等の結成にも携わり、松室翠雲と共に近代南画の発展に貢献した。帝室美術院会員、帝国芸術院会員、帝室技芸員。文化勲章受章。昭和三八年（一九六三）歿、八六歳。

松村景文 まつむらけいぶん
江戸後期の絵師。字は子藻。号は華溪、通称要人。京都四条派の祖、松村月溪（呉春）の異母弟。兄呉春に画を学び、花鳥画をもつとも得意とした。同門の岡本豊彦とともに四条派の様式を確立し、その発展・隆盛に尽力した。天保一四年（一八四三）歿、六五歳。

案本一洋 まつもといちよう
日本画家。京都生。名は謙之助。京都市立美術工芸学校・京都市立絵画専門学校を卒業後、山元春幸に師事する。師の歿後は同門の川村曼舟に師事し、早苗会の中心として活躍。優雅な人物画や歴史風俗画を描いた。文展、帝展の審査員や京都絵専教授を務め、早苗会の解散後は私塾耕人社を主宰した。昭和七年（一九五二）歿、五八歳。

松本楓湖 まつもとふうこ
日本画家。常陸国河内郡生。名は敬忠。別号に洋峽、永峽、安雅堂。江戸へ出て初め沖一峽、のち佐竹永海、さらに菊池容斎に学び、歴史画や挿絵を描いた。幕末期にあつて尊皇運動に転じており、勤皇画家として

知られた。のちに日本美術院創設に加わり、また安雅堂画塾を開いてその門からは今村紫紅・高橋広湖・速水御舟・小茂田青樹らが出た。帝国美術院会員。大正一二年（一九一三）歿、八四歳。

真野曉亭 まのぎょうてい
明治の浮世絵師、日本画家。名は八十五郎。東京江戸川橋生。幼少時から絵を好み、河鍋曉斎の弟子であった父に連れられて一〇歳で曉斎に入門する。狩野派の技法を修め、山水画・人物画を能くした。師曉斎の死後も絵画修業に励み二〇歳で京阪方面へ三〇歳以降も東北地方や朝鮮、中国に旅行して各所で作品を残した。特に東北地方に縁が深く、青森県五所川原市の太宰治記念館「斜陽館」に残された「四季図巻絵」・福島県河沼郡柳町町の円蔵寺山門にある二枚の龍図天井画など、多くの作品が残る。師の曉斎同様、曉亭も絵日記をつけていたといわれる。昭和九年（一九三四）歿、六一歳。

円山応挙 まるやまおうきよ
江戸中期の絵師。円山派の祖。丹波国桑田郡穴太村に農家の次男として生まれる。一〇代の頃既に京都に奉公に出た先で眼鏡絵に出会い、主人の勧めもあつて石田嶺江に狩野派の画法を学び、画家としての一躍を現す。写生に最も重きを置いたことでも知られる。夏雲、雪江、一嘯、仙嶺、倦斎、星聚、鴨水漁史、攘雲、浴陽仙人と号す。応門十哲を始めとした数々の門人たちの指導にもあつた。寛政七年（一七九五）歿、六三歳。

円山応震 まるやまおうしん
江戸後期の絵師。京都生。字は仲榮。別号に百里、星聚館、方壺など。円山応挙の次男。木下応受の子として生まれ、のち伯父の円山応瑞の養子となる。円山派の三代目。人物・山水・花鳥を能くし、祇園祭郭巨山見送一唐山水仙人図綴織・月鏡水引一雙鸞靈獸図刺繡一下絵を書いたと言われる。子がなく、円山応立を養子として円山派四代目とした。門下に国井応文ら。天保一二年（一八四〇）歿、五二歳（一説に天保九年歿、四九歳）。

皆川淇園 みながわきえん
江戸中期の儒学者。京都生。淇園は号で、名は愿（げん）、字は伯恭、通称は文識。別号に節齋・有斐齋等。易学について研究を深め、「名」と「物」との関係を解釈する開物論を唱え、「老子」「莊子」「列子」「論語」など多くの経書に対する注釈書を著す。文化三年には学問所弘道館を開き、多くの門人を輩出。詩文や書画にも優れた風流人。山水画は円山応挙に劣らずと評されたほどであった。応挙・呉春・岸駒・長沢蘆雪らと交わる。文化四年（一八〇七）歿、七四歳。

宮川寅雄 みやがわとらお
美術史家。宮城県生。号は杜良、朱花書屋人。早大在学中から会津八一に師事する。戦後、北海道化学労働組合委員長に就任。のち上京し日本近代史研究会・文化史懇談会に参加。日中文化交流協合理事長を務め、和光大学創設にも参画。同大学の教授も務めた。昭和五九年（一九八四）歿、七六歳。

宮本仲 みやもとなかつ
宮本峻堂。医師、実業家。長野県生。名は仲。諱は猶興。松代藩真田家の御勘定役として代々仕えた郷士の家系に生れる。東京帝國大学医学部に入学し、東京・神田に開業。医業の傍ら佐久間象山の研究に没頭し、著書「佐久間象山」を上梓。象山鑑定の権威者として名高い。正岡子規の主治医としても知られている。昭和一二年（一九三六）歿、八〇歳。

172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200

向井去来 むかいきよらい
江戸前々中期の俳人。肥前生。蕉十哲の一人。儒医向井元升の子。浪
江兼時、字、元淵。別号に義焉子、落柿舎など。若年で堂上家を致仕し名
人となり、その後玉井其角との縁で蕉門に入った。篤実な人柄で、師説
を遵守したという。京都嵯峨野の落柿舎に住んだ。野沢凡兆との共編
に『猿蓑』、著書に『旅寝論』『去来抄』など。宝永元年（一七〇四）歿、
五四歳。

無学宗衍 むがくそうえん
江戸後期の臨済宗の僧。字は無学。諱は宗衍。号は把不住軒。大徳寺第
三百七十八世。表千家七世如心斎宗左に茶を学び、如心斎、川上不二、
一燈らと七事式の制定に参画。玉林院の龍門宗禹の法を嗣ぎ、のち大
徳寺に出世。後醍醐天皇より至聖大妙禪師の勅号を賜る。寛政三年
（一七九二）歿、七十一歳。

棟方志功 むなかたしこう
大正、昭和の版画家。青森県生。洋画を独学、上京して帝展に入選。川
上澄生の作品に感銘を受けて木版画の道へ進む。柳宗悦、河井寛次郎、
浜田庄司ら民芸運動のメンバーとの交流が転機となり、宗教的テーマの
多くの傑作を生み出す。数々の国際展でも受賞、高い評価を受ける。朝
日文化賞受賞。文化功労者。文化勲章受章。自らの木版画作品を『版画』
と表現した。昭和五〇年（一九七五）歿、七十二歳。

村田香谷 むらたこうこく
南画家。筑前生。村田東圃の養子。名は叔、別号に蘭雪、適圃など。京都
で画を貫名海屋に、詩を梁川星巖に学ぶ。のち長崎に遊学し、徐雨亭、
鉄翁祖門・木下逸雲に師事、清にも三度渡っている。山水に長じ、詩書
も能くした。晩年は大阪に住した。大正元年（一九一三）歿、八二歳。

毛利梅友 もうりばいゆう
日本画家。名古屋生。名は早。字は士熙。別号は半窓、竹影草堂主人。一
時仏門に帰依したが画を志す。山本梅逸、中林竹洞に私淑し、水谷棧
谷・田能村直入に師事した。多数の門人を教授し、日本中央南宗画会
を創立するなど中京画壇のために尽力した。東海美術協会会員。昭和
二八年（一九五三）歿、八二歳。

望月玉溪 もちづきぎよくけい
日本画家。京都生。名は重蔵。別号に玉禅。帝室技芸員の父・望月玉泉
に絵を学ぶ。代々御所出入を許され、御用絵を描いた望月派の五代
目。花鳥画を得意とした。日本美術協会会員。日本画会会員。京都美術
協会終身会員。昭和一三年（一九三三）歿、六四歳。

森一鳳 もりいつぽう
江戸後期の絵師。播磨生。名は敬之。字は子交。子孝。通称は文平。円山
心拳門下の森徹山に学び、その養子となつて森祖仙、森徹山と続く森
派を継ぐ。兄弟子の森寛斎は京都で、一鳳は大坂画壇で活躍し、ともに
森派を盛り立てた。一鳳の描く藻艸舟の画題は「藻を茹る一鳳（も）う
かる一鳳」といわれ、当時の大坂の商家で縁起物として特に重用され
た。のち肥後熊本藩主細川家に仕える。作品は多く残っているものの、
年紀を記した例は少ない。明治四年（一八七二）歿、七四歳。

山内多門 やまうちたもん
日本画家。宮崎県生。字を子弘。初号は都洲。別号に谷谷など。初め郷里
で狩野派画師の中原南溪に学び、のち上京して川合玉堂・橋本雅邦に学
ぶ。日本絵画協会賞を得たのち、文展で活躍する。明治三二、三三年に号を
本名の多門に改める。山水画を最も得意とした。また若葉会を主宰し、
後進の指導に尽力した。帝展審査員。昭和七年（一九三二）歿、五五歳。

山岡鉄舟 やまおかてつしゅう
幕末、明治の剣術家・政治家。江戸生。名は高歩。通称は鉄太郎。千葉
周作の門に入り、のち無刀流を開く。また槍術を山岡静山に学び、その
妹と結婚。山岡家を継ぐ。義兄高橋泥舟らと江戸の治安維持にあたる。
維新後は静岡県権大参事、茨城県参事等を歴任。幕末三舟の一人。明
治二年（一八八八）歿、五二歳。

山田敬中 やまだけいちゅう
日本画家。東京浅草生。旧姓は島根。本名は忠蔵。別号に可得、年忠な
ど。初め月岡芳年に浮世絵を学んだのち円山派の川端玉章に師事す
る。日本青年絵画協会に参加。東京美術学校で教鞭をとつた後、日本美
術院創立に正員として参加する。川端画学校教授。石川県立工業学校
教頭などを歴任した。文展・帝展等で活躍。風景画を主として歴史画
、仏画などを描いた。昭和九年（一九三四）歿、六五歳。

山名貫義 やまなつらよし
幕末、明治の土佐派の画家。江戸生。通称は大助。紀州藩絵師山名弘政
の子。住吉弘賢に学ぶ。大和絵の復興と古美術保存に尽力した。東京美
術学校教授。帝室技芸員。古社寺保存委員会。明治三五年（一九〇二）
歿、六七歳。

山本空外 やまもとくうがい
浄土宗の僧・哲学者。広島県生。本名幹夫。東京帝国大学文学部哲学科
卒。広島市の真宗門徒の家に生まれる。山形高等学校教授。広島文理科
大学助教授を経て文部省在外研究員として欧米に留学。哲学を学ん
だ。帰国して広島文理科大学教授に就任し、のち昭和二〇年八月六日
被爆した。同年九月、浄土宗管長望月信亨の下で得度。財団法人光明
会上首就任ののち、空外記念館が開設され理事長となる。平成一三年
（二〇〇一）歿、一〇〇歳。

山元春拳 やまもとしゅんきよ
日本画家。滋賀膳所生。名は金右衛門。別号に一徹居士。初め野村文幸
に学び、のち森寛斎の門人となる。円山派の伝統に通暁し、風景画・山
岳画に秀で、竹内栖鳳と共に京都画壇の重鎮として活躍した。別郎と
して琵琶湖畔に建てた蘆花浅水荘は、現在重要文化財に指定されてい
る。早苗会画塾主宰。京都専攻教授。帝国美術院会員。帝室技芸員。昭
和八年（一九三三）歿、六三歳。

山本梅逸 やまもとばいいつ
江戸後期の文人画家。名古屋生。彫刻師山本有右衛門の長男。名は親
亮。字は明卿。別号に梅佚、春園・玉禅・梅華・天道外史等。幼少の頃か
ら画を好み、その才を認められて、尾張画壇のパトロンであった豪商
神谷天遊の庇護を受けた。その天遊のもとで中林竹洞に出会い、山陽
に京都に出て多くの名画を模写するなどして研鑽を積んだ。頼山陽・
貫名海屋らと親交があり、詩歌・煎茶・鑑識も能くした。晩年尾張藩の
御用絵師となる。安政三年（一八五六）歿、七四歳。

横山清暉 よこやませいき
江戸後期の四松派の画家。京都生。初名は暉三、字は成文。奇文。通称
は馬馬。詳細な号は霞城。初め呉春、ついで村松景文に学び、中島来章
岸蓮山、塩川文麟らと共に、幕末画壇の「平安四名家」と評された。花
鳥・山水・人物を得意とした。元治元年（一八六四）歿、七三歳。

横山大観 よこやまたいかん
日本画家。茨城県生。本名秀磨。東京美術学校を第一期生として卒業。
同期生には菱田春草、下村観山、西郷孤月など。当時の校長である岡倉
天心を終生の師と仰ぎ、天心への排斥運動が起きると春草らとともに
も校を去り、日本美術院創立に参加。朦朧体と呼ばれる新しい画風に
も取り組み、海外でも高い評価を得ている。昭和一二、一三年第一回文化勲
章受賞。昭和三年（一九五八）歿、九〇歳。

与謝野晶子 よさのあきこ
明治、昭和の歌人。大阪堺生。本名は志よう。東京新詩社に加入し「明
星」に短歌を発表。同誌主宰者・与謝野鉄幹と結婚。奔放、情熱的な歌風
で、第一歌集「みだれ髪」は反響を呼んだ。また源氏物語などの古典研
究や、女性の地位向上を旨とした評論・教育活動も行った。昭和一七
年（一九四二）歿、六五歳。

与謝無村 よさぶそん
江戸中期の俳人、絵師。摂津生。姓は谷口、のち与謝、俳号を宰鳥、宰鳥
夜半亭等、画号を四明・朝滄・長庚・春星、晩年謝貞と号する。夜半亭
宋阿に俳諧を学び、絵は各派・中国画・舶載画譜により画法を修得し
独自の画風を確め、池大雅と共に活躍した。俳画の大成者として知ら
れる。松尾芭蕉、小林一茶とともに江戸俳諧の巨匠の一人と称された。
天明三年（一七八三）歿、六七歳。

頼山陽 らいざんよう
江戸後期の儒者・勤王家。また、歴史家、思想家、漢詩人としても活躍
した。大坂生。広島藩儒頼春水の長男。名は襄。字は子成。通称を久太
郎。別号に三十六峰外史。母や叔父杏坪から教育を受け、幼少時から詩
文の才能を発揮。初め杏坪について、広島で学び、江戸で尾藤二洲・服
部栗齋に師事。のち京都に出て私塾を開き、書齋山紫水明処を営む。著
書の『日本外史』は幕末の尊皇攘夷運動に影響を与え、日本史上のベ
ストセラーとなった。中林竹洞・浦上春琴・田能村竹田・江馬細香ら
多くの文人墨客と交わった。天保三年（一八三二）歿、五三歳。

渡部解古 わたなべかいこ
幕末、明治の日本画家。新潟生。名は忠熹。字は寛成。別号に解湖・浦原
青蛙湖。長谷川風溪に師事する。東京に居を移し中央画壇で活躍。第五
回パリ万国博覧会で褒状を受けた。大正四年（一九一五）歿、七四歳。

渡辺華石 わたなべかせき
明治、昭和初期の日本画家。名古屋生。本姓は小川氏。名は静雄。字は
規道。別号に棲碧山房主人、寄春草堂など。張月樵の月子月載、森高雅等
に師事。のち渡辺華山の次男小華に学び、その死後渡辺家を継いだ。唐
宋の画法に通じ山水人物を能くし、華山研究でも知られる。昭和五
年（一九三〇）歿、七九歳。